日本の政治・経済・社会 A

担当教員	岡本 信広
曜日・時限・開講期	火曜日 3時限 前期
期間	前期
授業形態	講義
学年	1年生
単位	2
開講キャンパス	東松山

授業の概要	人口減少という観点から日本の政治・経済・社会がどのように変化していくかを考察する。
授業の到達目標	いつかはどの国も人口減少に向き合うことになる。自国の人口減少について自分の考えを述べるようになることを目標とする。
授業の形態	講義とディスカッション

	回数	授業内容	担当教員
授業 計画	第1回	授業概要と人口減少	岡本信広
	第2回	2016年、出生数は100万人を切った 2017年 「おばあちゃん大国」に変化	岡本信広
	第3回	2018年 国立大学が倒産の危機へ 2019年 I T 技術者が不足し始め、技術大国の地位揺らぐ	岡本信広
	第4回	2020年 女性の2人に1人が50歳以上に 2021年 介護離職が大量発生する	岡本信広
	第5回	2022年 「ひとり暮らし社会」が本格化する 2023年 企業の人件費がピークを迎え、経営を苦しめる	岡本信広
	第6回	2024年 3人に1人が65歳以上の「超・高齢者大国」へ 2025年 ついに東京都も人口減少へ	岡本信広
	第7回	2026年 認知症患者が700万人規模に 2027年 輸血用血液が不足する	岡本信広
	第8回	2030年 百貨店も銀行も老人ホームも地方から消える 2033年 全国の住宅の3戸に1戸が空き家になる	岡本信広
	第9回	2035年 「未婚大国」が誕生する 2039年 深刻な火葬場不足に陥る	岡本信広
	第10回	2040年 自治体の半数が消滅の危機に 2042年 高齢者人口が約4000万人とピークに	岡本信広
	第11回	2045年 東京都民の3人に1人が高齢者に 2050年 世界的な食料争奪戦に巻き込まれる 2065年～ 外国人が無人の国土を占拠する	岡本信広
	第12回	1・「高齢者」を削減 2・24時間社会からの脱却 3・非居住エリアを明確化	岡本信広
	第13回	4・都道府県を飛び地合併 5・国際分業の徹底 6・「匠の技」を活用	岡本信広
	第14回	7・国費学生制度で人材育成 8・中高年の地方移住推進 9・セカンド市民制度を創設 10・第3子以降に1000万円給付	岡本信広
	第15回	まとめ	岡本信広

授業外の学習	教科書の音読をすすめます。
教科書	河合雅司 (2017)『未来の年表 人口減少日本でこれから起きること』(講談社現代新書
参考文献など	河合雅司(2018)『未来の年表2 人口減少日本であなたに起きること』(講談社現代新書

成績評 価の方 法・基準	評価方法	割合(%)	評価基準
	筆記試験	30	日本の基本知識が身についているか
	実技評価	0	なし
	レポート評価	30	自分の意見を論理的に述べられるか
	平常点評価	40	授業における発言等
その他	0	なし	

履修上の注意	本を読むことに挑戦すること
連絡先・連絡方法など	研究室第二研究棟447 0493-31-1503(ex.6574) メールアドレス： okamoto (okamotoのあとの'n'に注意) @ic.daito.ac.jp
その他	日本の未来を一緒に考えましょう。

理解とコミュニケーション A

担当教員	西尾 広美
曜日・時限・開講期	木曜日 4時限 前期
期間	前期
授業形態	講義
学年	1年生
単位	1
開講キャンパス	東松山

授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> 大学の授業に必要な発表をしたり、質問や意見を述べたりするための基礎力を身に付け、コミュニケーション能力を上げる。 そのために、新聞や雑誌などの生教材を使用し理解を深め、テーマについてディスカッションしたり、発表したりする。 プレゼンテーションの方法を知り、大学生が必要とする論理的な展開に基づいた発表の練習をする。
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 大学の授業形態を理解し、ペアワークやグループワークなどを通して、ディスカッションや発表能力を身につける。 文化・価値は多様であることを理解し、自分と異なる意見を尊重しながら、自分の意見を述べるができる。 日常生活での様々な場面でのコミュニケーション能力を身につける。
授業の形態	講義、ペアワーク、グループ学習、ディスカッション、発表など。

	回数	授業内容	担当教員
授業計画	第1回	・オリエンテーション ・自己紹介 (マインドマップを使って自己アピール)	西尾広美
	第2回	・スピーチの方法を学ぶ 「私のふるさと紹介」準備 (発表順序を考える…レジュメの作成) (グループワーク) 来日の感想を話し合う	西尾広美
	第3回	・「私のふるさと紹介」発表	西尾広美
	第4回	・身近なニュースを取り上げる ディスカッション①	西尾広美
	第5回	・身近なニュースを取り上げる ディスカッション②	西尾広美
	第6回	・その場でスピーチ大会Ⅰ 質疑応答(自己評価・他己評価)	西尾広美
	第7回	・その場でスピーチ大会Ⅱ 質疑応答(自己評価・他己評価 評価)	西尾広美
	第8回	・テーマを見つけて発表しよう! (ポスター発表発表の方法を学ぶ) ・テーマ探し(問題解決型) テーマ決め・資料探し-グループワーク	西尾広美
	第9回	・ポスター作成準備-グループワーク ポスターの資料の理解と分析 ポスターのアウトライン作成	西尾広美
	第10回	・ポスター作成①-グループワーク ポスター制作	西尾広美
	第11回	・ポスター作成② グループワーク ポスター制作 レジュメの作成	西尾広美
	第12回	・プレゼンテーション大会準備 レジュメ完成・口頭練習	西尾広美
	第13回	・プレゼンテーション大会① 発表・質疑応答・評価	西尾広美
	第14回	・プレゼンテーション大会② 発表・質疑応答・評価	西尾広美
	第15回	・総まとめ(ふりかえり)	西尾広美

授業外の学習	<ul style="list-style-type: none"> 特にペアやグループワークの場合は、課題が出されたら早めに取り組み、資料を集めて準備すること。 新聞やニュースで話題になっていることなどに、日頃から関心をもつこと。 学んだことを授業や日本の生活の中で積極的に活用し、コミュニケーションをとること。 		
教科書	なし。		
参考文献など	新聞・雑誌・DVD・Webなど、生教材を使用する。		
成績評価の方法・基準	評価方法	割合(%)	評価基準
	筆記試験	0	特になし
	実技評価	50	・ポスターの内容 ・発表や発表を聞いての質疑応答など、総合的に評価する
	レポート評価	20	課題(発表原稿など)の提出と内容
	平常点評価	30	3分の2以上の出席が必要。 ペアやグループの学習を含む授業に対する積極性。授業中の質疑応答。ふりかえりシート
その他	0	特になし	
履修上の注意	なし。		
連絡先・連絡方法など	事前に申し出るが、国際交流センター(東松山)へ伝言。		
その他	<ul style="list-style-type: none"> 予定は目安であり、随時変更する可能性があります。 ※笑顔あふれるクラスにしたいと思います。 日本語を使い楽しくコミュニケーションし、発表の方法を学びましょう。 		

理解とコミュニケーションA

担当教員	幸田 佳子
曜日・時限・開講期	水曜日 4時限 前期
期間	前期
授業形態	講義
学年	1年生
単位	1
開講キャンパス	東松山

授業の概要	情報（本や雑誌、話、DVD）を聞いて、理解して考えること 考えた意見を話し合うこと さらに話し合ったことをまとめること-レジメ、PPT
授業の到達目標	お互いに話し合い、十分に理解すること。日本語での話しあいができる 話し合ったことをまとめること。要点を取れるようになる それを要点をまとめて、発表すること。
授業の形態	講義形式で行うが、一人ずつの発表、ペアやグループによる話し合いとまとめ、発表 pptを使う場合は指示する。

授業計画	回数	授業内容	担当教員
	第1回	授業説明 他者紹介	幸田佳子
	第2回	みんなの前で紹介し合う 質問して評価をつける	幸田佳子
	第3回	自分の国について紹介 PPTの作り方説明	幸田佳子
	第4回	みんなの前で発表 質問して評価をつける	幸田佳子
	第5回	自分の好きなこと 発表方法を学ぶ	幸田佳子
	第6回	ペアの話し合いの長所と短所 実践 自動車か電車が 発表	幸田佳子
	第7回	日本の文化発見1 モデル文の読みとレジメの作り方 発表の仕方	幸田佳子
	第8回	日本の文化発見2 担当者発表	幸田佳子
	第9回	日本の文化発見3 担当者発表	幸田佳子
	第10回	発表メモを作る、発表の練習 発表メモを作る。発表の練習をする テーマ：日本でびっくりしたこと	幸田佳子
	第11回	「日本でびっくりしたこと」の発表	幸田佳子
	第12回	グループの話し合いの長所と短所 ファストフード店の利用1	幸田佳子
	第13回	ファストフード店の利用2 話し合いとレジメ作り	幸田佳子
	第14回	ファストフード店の利用3 発表	幸田佳子
	第15回	発表のレポートを書く	幸田佳子

授業外の学習	発表の場合は、事前に準備しておくこと。担当者には指示する。		
教科書	特定の教科書は使用しない。		
参考文献など	なし		
成績評価の方法・基準	評価方法	割合(%)	評価基準
	筆記試験	0	なし
	実技評価	50	授業中の発表を評価する
	レポート評価	20	最終レポートを確認する
	平常点評価	20	欠席が全授業の3分の1を超えた場合は不可とする。評価対象外となる。レジメの提出、アンケートなど。
その他	10	話し合いや質問などの参加点をつける	
履修上の注意	前期は友達同士の話とグループでの話で気軽に話せる雰囲気を作っていく。後期はその雰囲気の中で発表と議論をしていきたいと考えている。できれば後期も続けて履修してもらいたい。 配布物が多いので、クリアーホルダーを用意しておくこと。		
連絡先・連絡方法など	東松山教務事務室へ伝言		
その他	話すのが苦手だが何とか話したい人、友達を多く作りたい人、みんなの話を聞いてしゃべりたい人は参加して、日本語で楽しくまじめに話し合いましょう。		

理解とコミュニケーションA

担当教員	田中 寛
曜日・時限・開講期	水曜日 1時限 前期
期間	前期
授業形態	講義
学年	1年生
単位	1
開講キャンパス	東松山

授業の概要	留学生が大学の授業において、また一般の日常生活において十分な日本語力でコミュニケーションがはかれるように、語彙表現を豊かにしていきます。 また、大学の講義が理解できるように、談話の特徴を説明していきます。理解と表現は一体的なもので、教室内での発表に仕方についても練習を重ねていきます。
授業の到達目標	1) 聴解力と発話力を身につける。 2) 教室での発表ができるようになる。 3) コミュニケーションの意味、目的がわかるようになる。 4) 時事的な内容、表現語彙がわかるようになる。
授業の形態	授業の前半は新聞記事をとりあげ、時事内容、社会問題について表現語彙を理解していきます。後半部分では話す力を養成していきます。一定のテーマにそった調査にもとづき、毎回、その経過報告をする練習を課します。このことで、発表する楽しさ、大切さを会得していきます。

	回数	授業内容	担当教員
授業計画	第1回	『上級日本語学習者のための日本語』第1-1課 新聞記事にもとづくディスカッション(1)	田中寛
	第2回	『上級日本語学習者のための日本語』第1-2課 新聞記事にもとづくディスカッション(2)	田中寛
	第3回	『上級日本語学習者のための日本語』第2-1課 新聞記事にもとづくディスカッション(3)	田中寛
	第4回	『上級日本語学習者のための日本語』第2-2課 新聞記事にもとづくディスカッション(4)	田中寛
	第5回	『上級日本語学習者のための日本語』第3-1課 新聞記事にもとづくディスカッション(5)	田中寛
	第6回	『上級日本語学習者のための日本語』第3-2課 新聞記事にもとづくディスカッション(6)	田中寛
	第7回	『上級日本語学習者のための日本語』第4-1課 新聞記事にもとづくディスカッション(7)	田中寛
	第8回	『上級日本語学習者のための日本語』第4-2課 新聞記事にもとづくディスカッション(8)	田中寛
	第9回	『上級日本語学習者のための日本語』第5-1課 新聞記事にもとづくディスカッション(9)	田中寛
	第10回	『上級日本語学習者のための日本語』第5-2課 新聞記事にもとづくディスカッション(10)	田中寛
	第11回	『上級日本語学習者のための日本語』第6-1課 新聞記事にもとづくディスカッション(11)	田中寛
	第12回	『上級日本語学習者のための日本語』第6-2課 新聞記事にもとづくディスカッション(12)	田中寛
	第13回	『上級日本語学習者のための日本語』第7-1課 新聞記事にもとづくディスカッション(13)	田中寛
	第14回	『上級日本語学習者のための日本語』第7-2課 新聞記事にもとづくディスカッション(14)	田中寛
	第15回	後期を振り返って、最重要項目をチェックします。学期末試験を実施します。	

授業外の学習	授業に関連した課題を出し、受講生の各自の成果を授業に活用していきます。		
教科書	田中寛編『上級学習者のための日本語』（私家版）2016 教室で配布します。		
参考文献など	田中寛編『現代日本語形式語用例用法辞典』（私家版）2014		
成績評価の方法・基準	評価方法	割合(%)	評価基準
	筆記試験	50	前期の内容についての筆記試験。内容を理解しているかどうかを評価します。
	実技評価	15	授業での発表について準備の仕方、発表の方法、伝達理解の面から評価します。
	レポート評価	10	課題に沿ったレポートの提出、要旨などのまとめ方について評価します。
	平常点評価	20	出席率、受講態度、毎回の簡単なクイズの答え方について評価します。
その他	5	指定された課外活動、催し、講演会などへの参加を評価します。	
履修上の注意	後期も続けて受講することが望ましい。「文章表現」「資料・文献講読」も合わせて受講することが望ましい。		
連絡先・連絡方法など	毎週、火曜日、水曜日、木曜日の昼休み、東松山第二研究棟124号室研究室を開放しています。質問、ご相談はメールでご連絡の上、お越しください。htanaka@ic.daito.ac.jp		
その他	遅刻、欠席のないように心がけてください。		

理解とコミュニケーションA

担当教員	木野 景子
曜日・時限・開講期	金曜日 4時限 前期
期間	前期
授業形態	講義
学年	1年生
単位	1
開講キャンパス	東松山

授業の概要	グループワークを通して、日本語の口頭表現・文章表現について学ぶ。受講生各々の基礎力をもとに、情報を整理して正確に伝えること、相手や場面に応じた伝え方を選択することなど、日本語コミュニケーション手段のバリエーションを広げ、「社会人基礎力」につながる力（主体性、深く考える力、チームで協力する姿勢）を高めることを目指す。
授業の到達目標	ゼミでの発表やレポートの作成など、大学生活で必要とされるアカデミックスキルに加え、社会に出ても役に立つ日本語表現の基礎力を身につける。本科目では特に、他者の意見を聞く姿勢をもつこと、自分の考えを人に説明できること、特定のテーマでプレゼンテーションできること、客観的な文章を作成できるようになることを目標とする。
授業の形態	講義形式にグループ課題を取り入れた形態で学習を進める。グループ課題の結果は、プレゼンテーションやレポートとしてアウトプットの時間を設ける。

授業計画	回数	授業内容	担当教員
	第1回	シラバス説明、イントロダクション（現在の文章表現力を知る）	木野景子
	第2回	表現の基礎（1）—表記と言葉づかい—	木野景子
	第3回	情報を整理して示す—メモやメニュー—	木野景子
	第4回	情報を確実に伝える—注意書き—	木野景子
	第5回	情報を正確に伝える—連絡・案内のメールなど—	木野景子
	第6回	表現の基礎（2）—読みやすい文章を書く—	木野景子
	第7回	相手に合わせて表現する—敬語—	木野景子
	第8回	配慮して伝える—行動を促す文章—	木野景子
	第9回	丁寧に伝える—手紙の書き方—	木野景子
	第10回	表現の基礎（3）—わかりやすい文章を書く—	木野景子
	第11回	アカデミックな文章を書く	木野景子
	第12回	企画をアピールする	木野景子
	第13回	自分を表現する—自己PR基礎編—	木野景子
	第14回	理解度の確認、期末課題	木野景子
	第15回	まとめとフィードバック	木野景子

授業外の学習	<ul style="list-style-type: none"> ・授業計画で示されたテーマについて、教科書の該当箇所に目を通しておく。（事前学習） ・授業で行った内容に関して、課題を達成し、適宜、漢字・文法などについての不足を補う学習を行う。（事後学習） 		
教科書	野田春美・岡村裕美・米田真理子ほか『グループワークで日本語表現力アップ』ひつじ書房2016年		
参考文献など	坂東実子『大学生のための文章表現練習帳』国書刊行会2016年		
成績評価の方法・基準	評価方法	割合(%)	評価基準
	筆記試験	0	特になし
	実技評価	0	特になし
	レポート評価	0	特になし
	平常点評価	60	授業参加・グループワークへの取り組み30%、提出物等30%
その他	40	期末課題としてのプレゼンテーション、文章表現課題等	
履修上の注意	なし		
連絡先・連絡方法など	授業の前後に質問を受け付ける。		
その他	なし		

理解とコミュニケーションA

担当教員	大河原 尚
曜日・時限・開講期	水曜日 3時限 前期
期間	前期
授業形態	講義
学年	1年生
単位	1
開講キャンパス	東松山

授業の概要	授業では「大学での学びに求められる能力とは何か」について、文献を読んだ上で、クラスでの口頭発表（プレゼンテーション）とディスカッションを通じて、自分なりの理解や考えを整理し、深める練習をします。 また、プレゼンテーションの3原則（メインメッセージは何か、聞き手は誰か、伝え方はどうすればいいか）を踏まえて、文献の音読発表の練習をします。
授業の到達目標	①大学において求められる勉強や発表の仕方について理解できる。 ②文章を読んで理解した上で、自分の意見を作ることができる。 ③自分の意見を伝える発表（プレゼンテーション）を構成できる。 ④スムーズな日本語で発表できる。
授業の形態	授業では、一つの文章についての読解、音読発表、ディスカッション、まとめを3回の授業で行います。 まず、各自で文献を読んだ後で、グループになって文献の内容についてディスカッションしながら理解を深めます。次に、グループで読解した文献を音読して発表します。その際、音読発表する文献の内容を簡単な要点を作成しクラスに示します。 続けて、音読発表した文献の内容について、各グループが作成した簡単な要点をもとに、クラス全体で理解を深めた後で、それに対する意見や疑問を出し合いディスカッションします。 最後に、各自で読解した文献の内容をまとめ、それに対する自分の意見や疑問を整理して提出します。

	回数	授業内容	担当教員
	授業 計画	第1回	授業の目的・進め方の説明、授業全体を通したテーマの説明
第2回		アカデミック・スキルズとは①	大河原尚
第3回		アカデミック・スキルズとは②	大河原尚
第4回		アカデミック・スキルズとは③	大河原尚
第5回		講義を聴いてノートを取る①	大河原尚
第6回		講義を聴いてノートを取る②	大河原尚
第7回		講義を聴いてノートを取る③	大河原尚
第8回		本を読むークリティカル・リーディングの手法①	大河原尚
第9回		本を読むークリティカル・リーディングの手法②	大河原尚
第10回		本を読むークリティカル・リーディングの手法③	大河原尚
第11回		プレゼンテーション（口頭発表）のやり方①	大河原尚
第12回		プレゼンテーション（口頭発表）のやり方②	大河原尚
第13回		プレゼンテーション（口頭発表）のやり方③	大河原尚
第14回		ここまでの授業全体を通したテーマのまとめ	大河原尚
第15回		これまでのまとめ、学期末試験	大河原尚

授業外の学習	授業で読解した文章の内容について復習して、それに対する自分の意見や疑問を考えておくようにしてください。 そうすれば、クラスでのディスカッションの際に積極的な参加が可能になります。 また、授業で読んだ文章を授業以外でも自分で音読する練習をしてみてください。
--------	---

教科書	佐藤望、湯川武、横山千晶、近藤明彦著『アカデミック・スキルズ 大学生のための知的技法入門 第2版』、慶応義塾大学出版会（2012）。（1000円＋税）
-----	---

参考文献など	特になりません。
--------	----------

成績評価の方法・基準	評価方法	割合(%)	評価基準
	筆記試験	40	最終授業での試験。
実技評価	20	音読発表（5%×4回）	
レポート評価	20	授業中課題レポート（5%×4回）	
平常点評価	20	授業中の話し合いにおける積極的な参加（発言など）。	
その他	0	なし	

履修上の注意	授業中の日本語でのコミュニケーションが大切な授業です。クラスでのディスカッションでは「正解を言おう」と考える必要はありません。「間違っているかもしれないが、自分が考えたことや疑問に思ったことを、他の人に伝えよう」という姿勢で授業に参加してください。
--------	--

連絡先・連絡方法など	国際交流センターへ伝言。
------------	--------------

その他	授業計画は、受講者の様子を見て変更することがあります。
-----	-----------------------------

集中日本語基礎演習 1 A 1

担当教員	梁取 久美子
曜日・時限・開講期	火曜日 1時限 前期
期間	前期
授業形態	演習
学年	1年生
単位	1
開講キャンパス	東松山

授業の概要	初級前半レベルの文法・文型の知識を、初級教科書にもとづいて理解・整理する。また、文型、例文、練習、会話などを通して基本的な使用例、自然な会話を学習する。
授業の到達目標	(1)基礎知識を習得するだけでなく、それを運用し、コミュニケーションが円滑にできる。 (2)日常会話によく使われる言いまわし、あいさつ言葉、終助詞などが表現できる。
授業の形態	講義形式でおこなう。

授業 計画	回数	授業内容	担当教員
	第1回	教科書: 第1課 名詞文	梁取久美子
	第2回	教科書: 第3課 場所の言い方(ここ、そこ、あそこ)	梁取久美子
	第3回	教科書: 第5課 疑問詞 動詞文 動詞の過去形	梁取久美子
	第4回	教科書: 第7課 手段・方法(~で) もらう・あげる	梁取久美子
	第5回	教科書: 第9課 好き・嫌い・上手を表す文型	梁取久美子
	第6回	教科書: 第11課 助数詞 名詞文	梁取久美子
	第7回	教科書: 復習 1課から12課	梁取久美子
	第8回	教科書: 第13課 希望・願望を表す言い方 目的の「に」	梁取久美子
	第9回	教科書: 第14課 「て形」の復習・練習	梁取久美子
	第10回	教科書: 第15課 許可・許容を求める言い方 状態を表す「～ています」	梁取久美子
	第11回	教科書: 第17課動詞の「ない形」 依頼・指示の言い方	梁取久美子
	第12回	教科書: 第19課 経験を言う言い方 複数の行動を表す(~たり~たり) 変化の言い方	梁取久美子
	第13回	教科書: 第21課 自分の考えを述べる言い方 直接話法と間接話法	梁取久美子
	第14回	教科書: 第23課 「～とき」の言い方 必然的に後件が成立する「～と」	梁取久美子
	第15回	理解度の確認テストとまとめ	梁取久美子

授業外の学習	毎回、宿題を出す。		
教科書	「みんなの日本語1」		
参考文献など	なし		
成績評 価の方 法・基準	評価方法	割合(%)	評価基準
	筆記試験	60	学期末テスト
	実技評価	0	特になし
	レポート評価	0	特になし
	平常点評価	40	授業への参加度
その他	0	特になし	
履修上の注意	原則として交流学生のみを対象とする。		
連絡先・連絡方法など	国際交流センター(東松山)へ伝言		
その他	ありません		

日本の政治・経済・社会 B

担当教員	田崎 郁子
曜日・時限・開講期	火曜日 3時限 後期
期間	後期
授業形態	講義
学年	1年生
単位	2
開講キャンパス	東松山

授業の概要	日本の農林業と食の事情から、日本社会の仕組みを読み解く。
授業の到達目標	日本の農林業と食事情を理解した上で、そこから見える日本社会の仕組みについて説明できる。自国と日本の農林業や食の事情について比較し、自らの考えを日本語でまとめて述べる事ができる。
授業の形態	基本的にはスライドや映像を用いた講義形式だが、受講者の積極的な参加を促す。そのため、5人程度のグループ分けを行い、毎回のテーマについてグループ内で短い議論をし、それぞれ端的に発表する。また、リアクション・ペーパーを配布するので、その日のテーマについて、自分なりに論述して提出する。

	回数	授業内容	担当教員
	授業計画	第1回	ガイダンス
第2回		食料自給率で読み解く日本の食と農	田崎郁子
第3回		誰が支える日本の農業	田崎郁子
第4回		コメの生産調整	田崎郁子
第5回		身近な岩殿集落①棚田とため池灌漑	田崎郁子
第6回		身近な岩殿集落②農業体験	田崎郁子
第7回		日本農業の活路を探る①風土と農業規模、②新たな共助・共存の取り組み	田崎郁子
第8回		日本農業の活路を探る③農業経営の厚み、④アジアと日本の農業	田崎郁子
第9回		混迷の農政	田崎郁子
第10回		世界農業遺産とは何か	田崎郁子
第11回		注目される日本の里山里山、日本にある世界農業遺産	田崎郁子
第12回		里山から奥山へ：日本の森林環境	田崎郁子
第13回		身近な岩殿集落③岩殿市民の森と森づくり・里山づくり	田崎郁子
第14回		食-農-山のつながりと地産地消	田崎郁子
第15回		まとめと理解度確認テスト	田崎郁子

授業外の学習	日本の農林業や食の事情に関する新聞記事や、参考文献を読み、自分なりに考察する。それぞれのトピックについて、自国の状況と比較対照させながら考え、日本語の文章にする。		
教科書	なし。プリントを適宜配布します。		
参考文献など	生源氏真一2011『日本農業の真実』ちくま新書 生源氏真一2018『農業がわかると、社会のしくみが見えてくる——高校生からの食と農の経済学入門』家の光協会 武内和彦2013『世界農業遺産——注目される日本の里山里山』祥伝社新書		
成績評価の方法・基準	評価方法	割合(%)	評価基準
	筆記試験	50	学期末テスト
	実技評価	0	なし
	レポート評価	0	なし
	平常点評価	50	毎回の授業への参加態度・発言、リアクション・ペーパーの提出と内容
その他	0	なし	
履修上の注意	日本の政治・経済・社会Aを履修しておくことが望ましい		
連絡先・連絡方法など	授業の前後に質問を受け付ける ikukotazaki@gmail.com		
その他	なし		

理解とコミュニケーション B

担当教員	西尾 広美
曜日・時限・開講期	木曜日 4時限 後期
期間	後期
授業形態	講義
学年	1年生
単位	1
開講キャンパス	東松山

授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・大学の授業で発表をしたり、質問や意見を述べたりするために必要な基礎力を身に付け、日常生活でのコミュニケーション能力を上げる。 ・新聞や雑誌等の生教材を使用し理解を深め、読み解く練習をする。また、グラフなどの資料にふれ、様々なデータを含む教材を理解するために必要な日本語を学ぶ。 ・お互いに話し合うことで、会話力を身に付けます。 ・グループでポスターを作成し、発表する。
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアワーク、グループ学習を通してコミュニケーションし、大学生に必要なディスカッションや発表力を身につける。 ・グラフの読み取りができる。 ・学んだインタビューの方法を活用し、データを取り、それをもとにポスター発表ができる。 ・日常生活での様々な場面でのコミュニケーション能力を身につける。
授業の形態	講義、ペアワーク、グループ学習、ディスカッション、発表など

	回数	授業内容	担当教員
授業計画	第1回	・オリエンテーション ・インタビューしあい、他己紹介準備	西尾広美
	第2回	・他己紹介	西尾広美
	第3回	・発表方法を学ぶ (話す順序・接続表現・アウトライン 問いたて・論拠を示す)	西尾広美
	第4回	・ニュースを取り上げる① いろいろなグラフの言葉を知る・読み取り	西尾広美
	第5回	・ニュースを取り上げる② いろいろなグラフの言葉を知る・読み取り	西尾広美
	第6回	・インタビューとアンケート用紙の作り方 ・インタビューにチャレンジ！グループワーク テーマ探し・問いたて	西尾広美
	第7回	・インタビューにチャレンジ！グループワーク 問いたて・アンケート用紙の作成	西尾広美
	第8回	・アンケートを取る① グループワーク アンケート用紙の修正と練習	西尾広美
	第9回	・アンケートを取る② グループワーク	西尾広美
	第10回	・アンケートの集計と分析・グラフ作成 ・ポスターのアウトラインとポスター制作①	西尾広美
	第11回	・ポスター制作②	西尾広美
	第12回	・ポスター制作③ ・レジュメ作成・口頭練習	西尾広美
	第13回	・ポスター発表① 発表・質疑応答・他己評価・振り返りシート	西尾広美
	第14回	・ポスター発表② 発表・質疑応答・他己評価・振り返りシート	西尾広美
	第15回	・総まとめ（授業のふりかえり）	西尾広美

授業外の学習	<ul style="list-style-type: none"> ・課題が出されたら、特にペアやグループで協働する場合は、早めに取り掛かり、準備すること。 ・授業で学んだことを復習すること。 ・授業で扱ったテーマや事柄について、新聞やニュースで話題になったものに関心をもつこと。 ・授業で学んだことを日本の生活の中で積極的に活用すること。
教科書	なし。
参考文献など	新聞・雑誌・DVD・Webなど、生教材を使用する。

成績評価の方法・基準	評価方法	割合(%)	評価基準
	筆記試験	0	特になし
実技評価	50	発表や発表を聞いての質問 など、総合的に評価する	
レポート評価	20	課題（レジュメと発表の振り返りシートなど）の提出と内容	
平常点評価	30	3分の2以上の出席を必要とする。授業態度（ペアやグループの学習）、積極的な質問など 振り返りシート	
その他	0	特になし	

履修上の注意	なし。
連絡先・連絡方法など	事前に申し出るか、国際交流センター（東松山）へ伝言。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・予定は目安であり、随時変更する可能性があります。 ※笑顔あふれるクラスにしたいと思います。 日本語を使い、みんなで楽しくコミュニケーションし、データの読み取り方と発表の方法を学びましょう。

理解とコミュニケーションB

担当教員	幸田 佳子
曜日・時限・開講期	水曜日 4時限 後期
期間	後期
授業形態	講義
学年	1年生
単位	1
開講キャンパス	東松山

授業の概要	資料を読んで理解と自分の意見を持つことを前期と同じく行い、相手の意見を聞き、反論などができること、さらなるコミュニケーション能力の向上を行う
授業の到達目標	自分の意見が言えること 相手の意見を認め、反論などができること グループで意見をまとめ、役割を決めて発表できること
授業の形態	講義形式も行うが、おもにペアワーク、グループでの話し合い、2つに分かれての討論となる。

	回数	授業内容	担当教員
授業 計画	第1回	授業説明 「聞いたことをまとめる」インタビュー	幸田佳子
	第2回	インタビューしたものを発表 発表方法の復習	幸田佳子
	第3回	pptのスライドの日本語練習 グラフ作成	幸田佳子
	第4回	グラフの説明の発表と評価	幸田佳子
	第5回	グループワークの長短 「謎のロボット」の読み一人で考える	幸田佳子
	第6回	話し合い、まとめる 発表	幸田佳子
	第7回	発表	幸田佳子
	第8回	「気分転換」のレジメからアンケートの分析 データの説明の仕方	幸田佳子
	第9回	「肉の消費量」からグラフ分析と発表	幸田佳子
	第10回	アンケートの説明 グループ分け 話し合いと分担決め アンケート紙のまとめ	幸田佳子
	第11回	アンケート実施 集計と分析	幸田佳子
	第12回	話し合いとpptをつくる	幸田佳子
	第13回	アンケートの結果の発表 質疑応答	幸田佳子
	第14回	アンケートの結果の発表 質疑応答 各グループの評価	幸田佳子
	第15回	振り返りのまとめ	幸田佳子

授業外の学習	発表の場合は事前に調べて、段取りを考え、準備をすること
教科書	特定の教科書は使用しない
参考文献など	なし

成績評 価の方 法・基準	評価方法	割合(%)	評価基準
	筆記試験	0	筆記試験でなく、レポート報告を書く
	実技評価	50	発表6回の評価をする
	レポート評価	20	アンケートの以下のまとめを提出
	平常点評価	20	話し合いの協力度、発表者に対する質問などを評価する。欠席は全授業の3分の1を超えた場合、評価対象外とする。
その他	10	レジメの提出、振り返りアンケートの提出度	

履修上の注意	できれば、前期Aを履修してほしい。話し合いを重視するので、その雰囲気になれ、積極的に発言してほしい。配布物が多いので、クリアホルダーを用意すること
--------	---

連絡先・連絡方法など	教員控室へ伝言してください
その他	話すことが苦手な人やなんとなくか人前で話したいと思う人がきてほしい。一緒にチャレンジしていきましょう。

理解とコミュニケーションB

担当教員	田中 寛
曜日・時限・開講期	水曜日 1時限 後期
期間	後期
授業形態	講義
学年	1年生
単位	1
開講キャンパス	東松山

授業の概要	留学生が大学の授業において、また一般の日常生活において十分な日本語力でコミュニケーションがはかれるように、語彙表現を豊かにしていきます。 また、大学の講義が理解できるように、談話の特徴を説明していきます。理解と表現は一体的なもので、教室内での発表に仕方についても練習を重ねていきます。
授業の到達目標	1) 聴解力と発話力を身につける。 2) 教室での発表ができるようになる。 3) コミュニケーションの意味、目的がわかるようになる。 4) 時事的な内容、表現語彙がわかるようになる。
授業の形態	授業の前半は新聞記事をとりあげ、時事内容、社会問題について表現語彙を理解していきます。後半部分では話す力を養成していきます。一定のテーマにそった調査にもとづき、毎回、その経過報告をする練習を課します。このことで、発表する楽しさ、大切さを会得していきます。

	回数	授業内容	担当教員
授業計画	第1回	『上級日本語学習者のための日本語』第8-1課 新聞記事にもとづくデスクッション(1)	田中寛
	第2回	『上級日本語学習者のための日本語』第8-2課 新聞記事にもとづくデスクッション(2)	田中寛
	第3回	『上級日本語学習者のための日本語』第9-1課 新聞記事にもとづくデスクッション(3)	田中寛
	第4回	『上級日本語学習者のための日本語』第9-2課 新聞記事にもとづくデスクッション(4)	田中寛
	第5回	『上級日本語学習者のための日本語』第10-1課 新聞記事にもとづくデスクッション(5)	田中寛
	第6回	『上級日本語学習者のための日本語』第10-2課 新聞記事にもとづくデスクッション(6)	田中寛
	第7回	『上級日本語学習者のための日本語』第11-1課 新聞記事にもとづくデスクッション(7)	田中寛
	第8回	『上級日本語学習者のための日本語』第11-2課 新聞記事にもとづくデスクッション(8)	田中寛
	第9回	『上級日本語学習者のための日本語』第12-1課 新聞記事にもとづくデスクッション(9)	田中寛
	第10回	『上級日本語学習者のための日本語』第12-2課 新聞記事にもとづくデスクッション(10)	田中寛
	第11回	『上級日本語学習者のための日本語』第13-1課 新聞記事にもとづくデスクッション(11)	田中寛
	第12回	『上級日本語学習者のための日本語』第13-2課 新聞記事にもとづくデスクッション(12)	田中寛
	第13回	『上級日本語学習者のための日本語』第14-1課 新聞記事にもとづくデスクッション(13)	田中寛
	第14回	『上級日本語学習者のための日本語』第14-2課 新聞記事にもとづくデスクッション(14)	田中寛
	第15回	後期を振り返って、最重要項目をチェックします。学期末試験を実施します。	

授業外の学習	授業に関連した課題を出し、受講生の各自の成果を授業に活用していきます。		
教科書	田中寛編『上級学習者のための日本語』（私家版）2016 教室で配布します。		
参考文献など	田中寛編『現代日本語形式語用例用法辞典』（私家版）2014		
成績評価の方法・基準	評価方法	割合(%)	評価基準
	筆記試験	50	後期の内容についての筆記試験。内容を理解しているかどうかを評価します。
	実技評価	15	授業での発表について準備の仕方、発表の方法、伝達理解の面から評価します。
	レポート評価	10	課題に沿ったレポートの提出、要旨などのまとめ方について評価します。
	平常点評価	20	出席率、受講態度、毎回の簡単なクイズの答え方について評価します。
その他	5	指定された課外活動、催し、講演会などへの参加を評価します。	
履修上の注意	前期から続けて受講することが望ましい。「文章表現」「資料・文献講読」も合わせて受講することが望ましい。		
連絡先・連絡方法など	毎週、火曜日、水曜日、木曜日の昼休み、東松山第二研究棟 1 2 4 号室研究室を開放しています。質問、ご相談はメールでご連絡の上、お越しください。htanaka@ic.daito.ac.jp		
その他	遅刻、欠席のないように心がけてください。		

理解とコミュニケーションB

担当教員	木野 景子
曜日・時限・開講期	金曜日 4時限 後期
期間	後期
授業形態	講義
学年	1年生
単位	1
開講キャンパス	東松山

授業の概要	グループワークを通して、日本語の口頭表現・文章表現の力を磨く。受講生各々の基礎力をもとに、情報を整理して正確に伝えること、相手や場面に応じた伝え方を選択することなど、日本語コミュニケーション手段のバリエーションを広げ、「社会人基礎力」につながる力（主体性、深く考える力、チームで協力する姿勢）を高めることを目指す。
授業の到達目標	ゼミでの発表やレポートの作成など、大学生活で必要とされるアカデミックスキルに加え、社会に出ても役に立つ日本語表現の基礎力を身につける。本科目では特に、他者の意見を聞く姿勢をもつこと、自分の考えを人に説明できること、特定のテーマでプレゼンテーションできること、客観的な文章を作成できるようになることを目標とする。
授業の形態	講義形式にグループ課題を取り入れた形態で学習を進める。グループ課題の結果は、プレゼンテーションやレポートとしてアウトプットの時間を設ける。

授業計画	回数	授業内容	担当教員
	第1回	シラバス説明、レポートとは何かを知る	木野景子
	第2回	テーマを絞り込み、資料を探す（1）—テーマを決める際の注意点—	木野景子
	第3回	テーマを絞り込み、資料を探す（2）—資料収集の方法—	木野景子
	第4回	論拠を示す（1）—論拠とは—	木野景子
	第5回	論拠を示す（2）—データ、解釈、意見の関係—	木野景子
	第6回	文献から引用する	木野景子
	第7回	アンケート調査をする	木野景子
	第8回	図表を利用する	木野景子
	第9回	プレゼンテーションで内容を見直す（1）—レジュメやスライドの基本—	木野景子
	第10回	プレゼンテーションで内容を見直す（2）—プレゼンテーションの実践—	木野景子
	第11回	レポートを仕上げる	木野景子
	第12回	自分を表現する—自己PR発展編—（1）—理解を深める—	木野景子
	第13回	自分を表現する—自己PR発展編—（2）—評価につながる書き方を学ぶ—	木野景子
	第14回	理解度の確認、期末課題	木野景子
	第15回	まとめとフィードバック	木野景子

授業外の学習	<ul style="list-style-type: none"> ・授業計画で示されたテーマについて、教科書の該当箇所に目を通しておく。（事前学習） ・授業で行った内容に関して、課題を達成し、適宜、漢字・文法などについての不足を補う学習を行う。（事後学習） 		
教科書	野田春美・岡村裕美・米田真理子ほか『グループワークで日本語表現力アップ』ひつじ書房2016年		
参考文献など	坂東実子『大学生のための文章表現練習帳』国書刊行会2016年		
成績評価の方法・基準	評価方法	割合(%)	評価基準
	筆記試験	0	特になし
	実技評価	0	特になし
	レポート評価	0	特になし
	平常点評価	60	授業参加・グループワークへの取り組み30%、提出物等30%
その他	40	期末課題としてのプレゼンテーション、文章表現課題等	
履修上の注意	なし		
連絡先・連絡方法など	授業の前後に質問を受け付ける。		
その他	なし		

理解とコミュニケーションB

担当教員	大河原 尚
曜日・時限・開講期	水曜日 3時限 後期
期間	後期
授業形態	講義
学年	1年生
単位	1
開講キャンパス	東松山

授業の概要	授業では現在の日本社会で問題となっている社会的な課題について、文献を読んだ上で、クラスでの口頭発表（プレゼンテーション）とディスカッションを通じて、自分なりの理解や考えを整理し、深める練習をします。また、プレゼンテーションの3原則（メインメッセージは何か、聞き手は誰か、伝え方はどうすればいいか）を踏まえて、文献の音読発表の練習をします。
授業の到達目標	①現在の日本での社会的な課題について理解できる。 ②文章を読んで理解した上で、自分の意見を作ることができる。 ③自分の意見を伝える発表（プレゼンテーション）を構成できる。 ④スムーズな日本語で発表できる。
授業の形態	授業では、一つの文章についての読解、音読発表、ディスカッション、まとめを3回の授業で行います。まず、各自で文献を読んだ後で、グループになって文献の内容についてディスカッションしながら理解を深めます。次に、グループで読解した文献を音読して発表します。その際、音読発表する文献の内容を簡単な要点を作成しクラスに示します。続けて、音読発表した文献の内容について、各グループが作成した簡単な要点をもとに、クラス全体で理解を深めた後で、それに対する意見や疑問を出し合いディスカッションします。最後に、各自で読解した文献の内容をまとめ、それに対する自分の意見や疑問を整理して提出します。

	回数	授業内容	担当教員
	授業 計画	第1回	授業の目的・進め方の説明、授業全体を通したテーマの説明
第2回		トピックⅠ①	大河原尚
第3回		トピックⅠ②	大河原尚
第4回		トピックⅠ③	大河原尚
第5回		トピックⅡ①	大河原尚
第6回		トピックⅡ②	大河原尚
第7回		トピックⅡ③	大河原尚
第8回		トピックⅢ①	大河原尚
第9回		トピックⅢ②	大河原尚
第10回		トピックⅢ③	大河原尚
第11回		トピックⅣ①	大河原尚
第12回		トピックⅣ②	大河原尚
第13回		トピックⅣ③	大河原尚
第14回		ここまでの授業全体を通したテーマのまとめ	大河原尚
第15回		これまでのまとめ、学期末試験	大河原尚

授業外の学習	授業で読解した文章の内容について復習して、それに対する自分の意見や疑問を考えておくようにしてください。そうすれば、クラスでのディスカッションの際に積極的な参加が可能になります。また、授業で読んだ文章を授業以外でも自分で音読する練習をしてみてください。		
教科書	特になし。教材は授業中に配布します。		
参考文献など	特にありません。		
成績評 価の方 法・基準	評価方法	割合(%)	評価基準
	筆記試験	40	最終授業での試験。
	実技評価	20	音読発表（5%×4回）
	レポート評価	20	授業中課題レポート（5%×4回）
	平常点評価	20	授業中の話し合いにおける積極的な参加（発言など）。
その他	0	なし	
履修上の注意	授業中の日本語でのコミュニケーションが大切な授業です。クラスでのディスカッションでは「正解を言おう」と考える必要はありません。「間違っているかもしれないが、自分が考えたことや疑問に思ったことを、他の人に伝えよう」という姿勢で授業に参加してください。		
連絡先・連絡方法など	国際交流センターへ伝言。		
その他	授業計画は、受講者の様子を見て変更することがあります。		

集中日本語基礎演習 1 A 2

担当教員	梁取 久美子
曜日・時限・開講期	火曜日 2時限 前期
期間	前期
授業形態	演習
学年	1年生
単位	1
開講キャンパス	東松山

授業の概要	初級前半レベルの文法・文型の知識を、初級教科書にもとづいて理解・整理する。また、文型、例文、練習、会話などを通して基本的な使用例、自然な会話を学習する。
授業の到達目標	(1)基礎知識を習得するだけでなく、それを運用し、コミュニケーションが円滑にできる。 (2)日常会話によく使われる言いまわし、あいさつ言葉、終助詞などが表現できる。
授業の形態	講義形式でおこなう。

授業 計画	回数	授業内容	担当教員
	第1回	教科書: 第1課 名詞文	梁取久美子
	第2回	教科書: 第3課 場所の言い方(ここ、そこ、あそこ)	梁取久美子
	第3回	教科書: 第5課 疑問詞 動詞文 動詞の過去形	梁取久美子
	第4回	教科書: 第7課 手段・方法(~で) もらう・あげる	梁取久美子
	第5回	教科書: 第9課 好き・嫌い・上手を表す文型	梁取久美子
	第6回	教科書: 第11課 助数詞 名詞文	梁取久美子
	第7回	教科書: 復習 1課から12課	梁取久美子
	第8回	教科書: 第13課 希望・願望を表す言い方 目的の「に」	梁取久美子
	第9回	教科書: 第14課 「て形」の復習・練習	梁取久美子
	第10回	教科書: 第15課 許可・許容を求める言い方 状態を表す「～ています」	梁取久美子
	第11回	教科書: 第17課 動詞の「ない形」 依頼・指示の言い方	梁取久美子
	第12回	教科書: 第19課 経験を言う言い方 複数の行動を表す(~たり~たり) 変化の言い方	梁取久美子
	第13回	教科書: 第21課 自分の考えを述べる言い方 直接話法と間接話法	梁取久美子
	第14回	教科書: 第23課 「～とき」の言い方 必然的に後件が成立する「～と」	梁取久美子
	第15回	理解度の確認テストとまとめ	梁取久美子

授業外の学習	毎回、宿題を出す。		
教科書	「みんなの日本語 1」		
参考文献など	なし		
成績評 価の方 法・基準	評価方法	割合(%)	評価基準
	筆記試験	60	学期末テスト
	実技評価	0	特になし
	レポート評価	0	特になし
	平常点評価	40	授業への参加度
その他	0	特になし	
履修上の注意	原則として交流学生のみを対象とする。		
連絡先・連絡方法など	国際交流センター(東松山)へ伝言		
その他	ありません		

日本の文化・芸術A

担当教員	石川 美明
曜日・時限・開講期	火曜日 4時限 前期
期間	前期
授業形態	講義
学年	1年生
単位	2
開講キャンパス	東松山

授業の概要	「日本の文化・芸術」のうち、前期は「日本の芸術（特に、茶の美術）」について学ぶ。 今日、世界各国で、数多くの陶芸家が盛んな創造活動を営み、土と火の芸術は、絵画や彫刻と同じく、美術の一分野と見なされている。しかしこの現象は、日本では現代に始まったものではなく、古く桃山時代（十六世紀後半）以来の長い歴史を持つ。それは、中国にも朝鮮にも、無論他の諸国にも見られなかった日本独自の文化現象であった。諸外国の現況は、今世紀後半のその影響によるものである。 本講義では、何故こうした現象が日本で起り、現在の盛況を招いているのか考察してみたい。
授業の到達目標	(1) 日本の美術に関心を持つ。 (2) 日本美の構造を説明できる。
授業の形態	講義形式で行う。なお、学生の集中力を持続させ、また、理解度をチェックするため、「正解カード制度」（出席カードとは異なる。詳しくは、開講時に説明する。）を導入する。

授業 計画	回数	授業内容	担当教員
	第1回	海外が熱狂する日本美術	石川美明
	第2回	世界のエリートはなぜ「美意識」を鍛えるのか（論理的・理性的な情報処理スキルの限界）	石川美明
	第3回	人生が劇的に変わる美術鑑賞法（「美意識」をどう鍛えるか）	石川美明
	第4回	日本美の個性（「わび」）	石川美明
	第5回	五感の小宇宙（默契の五感）	石川美明
	第6回	唐物数寄（1）	石川美明
	第7回	唐物数寄（2）	石川美明
	第8回	侘数寄（1）	石川美明
	第9回	侘数寄（2）	石川美明
	第10回	侘数寄（3）	石川美明
	第11回	数寄の展開（1）	石川美明
	第12回	数寄の展開（2）	石川美明
	第13回	数寄の展開（3）	石川美明
	第14回	数寄の展開（4）	石川美明
	第15回	まとめ	石川美明

授業外の学習	日本の美術に触れ、心を解き放って下さい。		
教科書	矢部良明『茶の湯の名品茶碗』（東京美術、2017年）		
参考文献など	高階秀爾『日本美術を見る眼』（岩波書店、2017年）、秋元雄史『日本美術鑑賞』（大和書房、2019年）、山口周『世界のエリートはなぜ「美意識」を鍛えるのか』（光文社新書、2017年）、岡倉天心『茶の本』（NHK出版、2016年）、池上英子『美と礼節の絆』（NTT出版、2015年）、岡崎大輔『なぜ、世界のエリートはどんなに忙しくても美術館に行くのか』（SBクリエイティブ、2018年）		
成績評価の方法・基準	評価方法	割合(%)	評価基準
	筆記試験	0	なし
	実技評価	0	なし
	レポート評価	80	日本美術の特質を説明できるか
	平常点評価	20	「正解カード」
その他	0	なし	
履修上の注意	なし		
連絡先・連絡方法など	授業の前後に質問を受け付ける		
その他	なし		

日本語文章表現A

担当教員	上村 圭介
曜日・時限・開講期	火曜日 5時限 前期
期間	前期
授業形態	講義
学年	1年生
単位	1
開講キャンパス	東松山

授業の概要	大学で勉強するために必要なアカデミックライティングの技法の学習と練習をする。授業ではレポートや論文で一般的に使われる構成に沿って、実際にレポートや論文の執筆に必要な語彙・文型・表現を学ぶ。
授業の到達目標	書き言葉で使われる語彙・文型・表現を文章の目的に合わせて使い分けられるようになること。
授業の形態	この授業は毎回、アカデミックライティングの基本技能について説明した上で、その内容に基づく課題実習を行う。授業中に書いた小課題は、添削を行った上で返却するので、次回授業時（次回出席時ではない）に書き直して再提出すること。受講可能人数は原則として20名とする。

	回数	授業内容	担当教員
	授業 計画	第1回	オリエンテーション、コンピュータを使った日本語入力の練習
第2回		レポートの文体	上村圭介
第3回		文の基本：自動詞文と受身文	上村圭介
第4回		文の基本：「は」と「が」の使い分け	上村圭介
第5回		文の基本：語と文の名詞化	上村圭介
第6回		文の基本：内容の一貫性	上村圭介
第7回		句読点の使いかた	上村圭介
第8回		記号の使いかた	上村圭介
第9回		引用と出典	上村圭介
第10回		段落と支持文	上村圭介
第11回		仕組みの説明	上村圭介
第12回		時系列的な説明	上村圭介
第13回		分類	上村圭介
第14回		定義	上村圭介
第15回		まとめ	上村圭介

授業外の学習	授業では、前の週までに学んだことを前提にします。前の週に学んだことを復習して授業に臨むこと。授業外の学習に必要な時間は1回の授業につき1時間。		
教科書	二通信子・佐藤不二子『新訂版 留学生のための論理的な文章の書き方』（スリーエーネットワーク、2020年2月）		
参考文献など	なし		
成績評価の方法・基準	評価方法	割合(%)	評価基準
	筆記試験	0	なし
	実技評価	0	なし
	レポート評価	0	なし
	平常点評価	100	毎回の提出課題によって評価する。
その他	0	なし	
履修上の注意	実習的な内容が多いので、実際に授業に出て作業をすることが不可欠である。評価は授業中課題に基づいて行うことから、授業への積極的な参加を求める。また、教科書を購入しない者の履修は認めない。		
連絡先・連絡方法など	授業に関する個別の質問、問い合わせは授業の前後の時間またはオフィスパワー（火昼・3：東松山キャンパス第2研究棟4階研究室、金昼・3：板橋キャンパス2号館6階日本語学科事務室）に受け付ける。メールアドレス：kamimur@ic.daito.ac.jp		
その他	なし		

日本語文章表現A

担当教員	西尾 広美
曜日・時限・開講期	木曜日 3時限 前期
期間	前期
授業形態	講義
学年	1年生
単位	1
開講キャンパス	東松山

授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・大学で必要なアカデミックライティングの基礎を学ぶ。 ・授業ではレポート作成に必要な語彙・文法・表現や文章の構成の仕方を知り、レポートを書く。
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート作成に必要な書き言葉の習得。 ・文章の構成を理解し、誰にでも伝わる分かりやすい文章でレポートを書く。
授業の形態	講義と演習に加え、グループワークなどのアクティブラーニングを行う。

授業計画	回数	授業内容	担当教員
	第1回	ガイダンス 自己紹介	西尾広美
第2回	分かりやすい文章を書くための準備 話し言葉と書き言葉 文体	西尾広美	
第3回	文の構造（主語と述語）	西尾広美	
第4回	助詞の使い方	西尾広美	
第5回	よくある間違い1（言葉の形を使い分ける）	西尾広美	
第6回	よくある間違い2（受身の表現・呼応）	西尾広美	
第7回	よくある間違い3（文末表現の調整・言葉選び）	西尾広美	
第8回	文章の構成（パグラフライティング） 接続詞	西尾広美	
第9回	話し合い、レポートのテーマを見つける	西尾広美	
第10回	レポートの設計図を書く	西尾広美	
第11回	レポートの作成	西尾広美	
第12回	レポートの発表 話し合い	西尾広美	
第13回	レポートの発表 話し合い	西尾広美	
第14回	レポートの修正 ふりかえりシート	西尾広美	
第15回	レポートの提出 まとめ	西尾広美	

授業外の学習	授業中に終わらなかつた課題は、翌週までの宿題になります。課題は必ず提出してください。提出期限を過ぎたものは、80%の評価になります。
教科書	特定の教科書は使わない。レジメを配布する。
参考文献など	石黒・筒井（2009）『留学生のためのここが大切 文章表現ルール』（スリーエーネットワーク）

成績評価の方法・基準	評価方法	割合(%)	評価基準
	筆記試験	0	なし
	実技評価	0	なし
	レポート評価	30	レポート提出の有無と内容（語彙・文法・表現を含む）
	平常点評価	70	出席は3分の2以上 課題の提出有無と内容 発表 ふりかえりシート 授業への参加度 授業への積極性
その他	0	なし	

履修上の注意	<p>実習的な内容が多いため、積極的な授業参加が必要です。</p> <p>配布されたプリントには、自分の弱点を知るためのヒントが書かれています。</p> <p>必ず整理・保管し、復習してください。</p>
連絡先・連絡方法など	<p>事前に申し出るか、国際交流センター（東松山）へ伝言してください。</p> <p>病欠の場合は、病院のレシートなどの証明書を提出してください。</p>
その他	<p>シラバスの予定は、変更する場合があります。</p> <p>ミスを恐れず、だれにでも伝わるわかりやすい文章をめざしましょう！</p>

日本語文章表現A

担当教員	田中 寛
曜日・時限・開講期	水曜日 2時限 前期
期間	前期
授業形態	講義
学年	1年生
単位	1
開講キャンパス	東松山

授業の概要	日本語の中上級レベルの語彙、文型を使って、文章が書けるように講義を進めていきます。とくに接続の仕方、文末の表現に気をつけながら、まとまった文章が書けるように訓練します。実務的な文、メール、レポートを書く際のさまざまなルールを習得していきます。
授業の到達目標	1) 中上級レベルの語彙、文型を用いて文章が書けるようになる。 2) 日本語の特徴を把握し、接続表現、文末表現が使えるようになる。 3) 文章の段落、構成が理解できるようになる。 4) 日本語のさまざまな文章に関心をもつようにする。
授業の形態	講義を主体としますが、毎回、一定のテーマ、題目で書く練習をします。

	回数	授業内容	担当教員
授業計画	第1回	『現代日本語形式語用例用法辞典』あ行文型前半(1)、メールの書き方(1)	田中寛
	第2回	『現代日本語形式語用例用法辞典』あ行文型前半(2)、メールの書き方(2)	田中寛
	第3回	『現代日本語形式語用例用法辞典』か行文型前半(1)、報告文の書き方(1)	田中寛
	第4回	『現代日本語形式語用例用法辞典』か行文型前半(2)、報告文の書き方(2)	田中寛
	第5回	『現代日本語形式語用例用法辞典』さ行文型前半(1)、観察文の書き方(1)	田中寛
	第6回	『現代日本語形式語用例用法辞典』さ行文型前半(2)、観察文の書き方(2)	田中寛
	第7回	『現代日本語形式語用例用法辞典』た行文型前半(1)、紹介文の書き方(1)	田中寛
	第8回	『現代日本語形式語用例用法辞典』た行文型前半(2)、紹介文の書き方(2)	田中寛
	第9回	『現代日本語形式語用例用法辞典』な行文型前半(1)、実用文の書き方(1)	田中寛
	第10回	『現代日本語形式語用例用法辞典』な行文型前半(2)、実用文の書き方(2)	田中寛
	第11回	『現代日本語形式語用例用法辞典』は行文型前半、意見文の書き方(1)	田中寛
	第12回	『現代日本語形式語用例用法辞典』ま行文型前半、意見文の書き方(2)	田中寛
	第13回	『現代日本語形式語用例用法辞典』や行文型前半、論理文の書き方(1)	田中寛
	第14回	『現代日本語形式語用例用法辞典』ら行、わ行文型前半、論理文の書き方(2)	田中寛
	第15回	前期を振り返って、最重要項目をチェックします。学期末試験を実施します。今後の学習の仕方について説明します。	田中寛

授業外の学習	授業に関連した課題を出し、受講生の各自の成果を授業に活用していきます。教科書の例文をよく理解し、実例を探す習慣をつけること。		
教科書	田中寛編『現代日本語形式語用例用法辞典』(私家版)2014 プリントも教室で配布します。		
参考文献など	小笠原信之『伝わる! 文章力が身につく本』高橋書店2012 小笠原喜康『大学生のためのレポート・論文述』講談社現代新書2002 野田尚史・森口稔『日本語を書くトレーニング』ひつじ書房2003		
成績評価の方法・基準	評価方法	割合(%)	評価基準
	筆記試験	50	前期の内容についての筆記試験。内容を理解しているかどうかを評価します。
	実技評価	15	授業での発表について準備の仕方、発表の方法、伝達理解の面から評価します。
	レポート評価	10	課題に沿ったレポートの提出、要旨などのまとめ方について評価します。
	平常点評価	20	出席率、受講態度、毎回の簡単なクイズの答え方について評価します。
	その他	5	指定された課外活動、催し、講演会などへの参加を評価します。
履修上の注意	後期も合わせて受講することが望ましい。「理解とコミュニケーション」も合わせて受講することが望ましい。		
連絡先・連絡方法など	毎週、火曜日、水曜日、木曜日の昼休み、東松山第二研究棟124号室研究室を開放しています。質問、ご相談はメールでご連絡の上、お越しください。htanaka@ic.daito.ac.jp		
その他	遅刻、欠席のないように心がけてください。		

日本語文章表現 A

担当教員	幸田 佳子
曜日・時限・開講期	水曜日 3時限 前期
期間	前期
授業形態	講義
学年	1年生
単位	1
開講キャンパス	東松山

授業の概要	大学で必要なレポート・小論文・記述試験の答案などの論理的な文の書き方を習得する。
授業の到達目標	書き言葉の習得 段落の書き方の習得 書いたものをペアで見直して、だれが読んでもわかる文章をめざす
授業の形態	講義形式であるが、ビデオやDVDなど映像資料も使う。

	回数	授業内容	担当教員
授業計画	第1回	授業説明 自己紹介お互いに紹介をしあう	幸田佳子
	第2回	話し言葉と書き言葉の違い 文体 普通体と丁寧体の違いの説明	幸田佳子
	第3回	書く文章の硬い語彙や語句の説明と練習 一文の構造①	幸田佳子
	第4回	一文の構造② 語・句の名詞化	幸田佳子
	第5回	一段落の構造 一段落の練習	幸田佳子
	第6回	一段落の書き直しと読み合い 二段落への展開	幸田佳子
	第7回	二段落の練習 段落のつなぎ	幸田佳子
	第8回	引用と参考文献	幸田佳子
	第9回	定義の説明と練習 読み合いをする	幸田佳子
	第10回	定義の使い方の練習①	幸田佳子
	第11回	①の読み合い 定義の使い方の練習②	幸田佳子
	第12回	②の読み合い 比較の説明	幸田佳子
	第13回	比較の文書き方と練習 読み合い	幸田佳子
	第14回	分類の書き方と練習	幸田佳子
	第15回	定義と比較を使用した文の書き方の練習	幸田佳子

授業外の学習	授業中書けなかったものは、宿題とするので次の週までに提出 書き直しはメールで提出する
--------	---

教科書	特定の教科書は使わない。授業内でプリントを配布
-----	-------------------------

参考文献など	「留学生のための論理的な文章の書き方」スリーエーネットワーク 「大学で学ぶための日本語ライティング」The Japan Times 「留学生のためのここが大切文章表現ルール」スリーエーネットワーク
--------	--

成績評価の方法・基準	評価方法	割合(%)	評価基準
	筆記試験	0	なし
	実技評価	40	毎回書かせての提出
	レポート評価	30	最終授業日に書くまとめ
	平常点評価	20	出席3分の2以上とする。これ以下は不可。
	その他	10	振り返りのアンケート 他者への評価

履修上の注意	前期と後期つなげての授業にしているため、できるだけ後期も履修してほしい。 2-3枚のレジメを配布するので、必ずクリアーホルダーを用意すること 宿題は授業中にかけなかったものが宿題となる。 書き直しを何度かすることになるが、がんばって書いてほしい
--------	---

連絡先・連絡方法など	教員控室へ伝言してください
------------	---------------

その他	書く能力は言語習得の中で最後の段階にあたる。自分の思っていることを出すだけでなく、それ論理的に書かなければならないので、非常にむずかしい。考えて思考を深めていかなければならない。初級のように急激上手になることはないが、一歩ずつ確実にやって伸ばしていく。文章が苦手だと思う人は授業を受けてみてください。
-----	--

日本語文章表現A

担当教員	正宗 鈴香
曜日・時限・開講期	月曜日 3時限 前期
期間	前期
授業形態	講義
学年	1年生
単位	1
開講キャンパス	東松山

授業の概要	この授業では、文章表現の基礎を身につけ、論理的でわかりやすい文章を書く力をつけていきます。そのために、練習問題に取り組みながら文章を書く際に必要な知識・スキルを習得します。比較的短い文章を書くことを通して、論理的に書くための文章の型を学びます。
授業の到達目標	1. 話しことばと書きことば、文体、文、段落等、文章表現に必要な知識を習得し、文章作成時に活用できるようになる。 2. 論理的なつながりを意識して文章が書けるようになる。 3. 自分が書いた文章の良い点、問題点に気づき、よりよい文章にしていけるようになる。
授業の形態	講義と演習を組み合わせを進めていきます。授業では、お互いの書いた文章を読み合い、コメントやアドバイスを活動も行います。他者の文章を読んだり、他者に読んでもらうことでよい文章とは何かを考え、よりよい文章にする力をつけていきます。

	回数	授業内容	担当教員
授業計画	第1回	授業オリエンテーション、進め方の説明、自己紹介文を書く	正宗鈴香
	第2回	話しことばと書きことば、文体	正宗鈴香
	第3回	句読点のつけ方、文の基礎知識	正宗鈴香
	第4回	段落、接続表現	正宗鈴香
	第5回	引用のしかた、参考文型の書き方	正宗鈴香
	第6回	賛成・反対を示す意見文を書く（500字程度）①：課題理解、構成と表現の理解、内容の構想	正宗鈴香
	第7回	賛成・反対を示す意見文を書く（500字程度）②：構成と表現、内容の検討と文章全体の構想	正宗鈴香
	第8回	賛成・反対を示す意見文を書く（500字程度）③：コメント活動、文章の見直し、原稿の完成	正宗鈴香
	第9回	提案・解決策を述べる文を書く（800字程度）①：課題理解、構成と表現の理解、内容構想	正宗鈴香
	第10回	提案・解決策を述べる文を書く（800字程度）②：構成と表現、内容の検討と文章全体の構想	正宗鈴香
	第11回	提案・解決策を述べる文を書く（800字程度）③：構成と表現、内容の検討と文章全体の構想	正宗鈴香
	第12回	提案・解決策を述べる文を書く（800字程度）④：コメント活動、文章の見直し、原稿の完成	正宗鈴香
	第13回	Eメールの書き方①	正宗鈴香
	第14回	Eメールの書き方②	正宗鈴香
	第15回	活動のふりかえり、自己評価	正宗鈴香

授業外の学習	<ul style="list-style-type: none"> ・課題達成の過程において指示された事前学習、事後学習を行うこと。テーマについて考える、調べる、文に関する知識を確認する等、指示されます。 ・授業中に書けなかった文章を完成させるなどの課題があります。 		
教科書	石黒・筒井（2009）『留学生のためのここが大切 文章表現のルール』スリーエネットワーク		
参考文献など	アカデミック・ジャパニーズ研究会編著『留学生の日本語 ②作文編』アルク		
成績評価の方法・基準	評価方法	割合(%)	評価基準
	筆記試験	0	なし
	実技評価	0	なし
	レポート評価	40	意見文、提案・解決を述べる文の最終原稿
	平常点評価	60	授業への参加度、プリント等の取り組み
その他	0	なし	
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・課題を達成するために授業外でも積極的に取り組むことが求められます。 ・教科書は購入してください。詳しいことは最初の授業で説明します。 		
連絡先・連絡方法など	国際交流センター東松山分室へ伝言		
その他	授業計画は受講者に合わせて変更する場合があります。		

集中日本語基礎演習 1 A 3

担当教員	中原 なおみ
曜日・時限・開講期	水曜日 1時限 前期
期間	前期
授業形態	演習
学年	1年生
単位	1
開講キャンパス	東松山

授業の概要	初級前半～後半レベルの文法・文型の知識を、理解・整理し、実場面で使えるように会話的な要素を盛り込みながら、練習し、発表する。
授業の到達目標	初級前半～後半の文型、文法がどのような場面や文脈で使用されるのかといった、運用に際しての文脈的知識を身につけ、実場面において、相手の言うことを理解し、スムーズに自身の意見や意向を発信する力をつける。
授業の形態	初級レベルの項目を整理し、毎回トピックを決めて、ペアやグループワークによって発話練習を行う。プリントやPC教材を用いて、自分の発話や動作を振り返り、より自然なやりとりについて意見を出し合う。

授業 計画	回数	授業内容	担当教員
	第1回	イントロダクション・レベルチェック	中原なおみ
	第2回	自己紹介	中原なおみ
	第3回	友だちを誘って、詳細を決める。	中原なおみ
	第4回	友だちの誘いに丁寧に断る	中原なおみ
	第5回	日本人にインタビューしてみる。	中原なおみ
	第6回	日本語について質問し、情報を得る。	中原なおみ
	第7回	いろいろな場面で提案する。	中原なおみ
	第8回	友だちとの会話	中原なおみ
	第9回	いろいろな場面で許可をもらう。	中原なおみ
	第10回	友だちに伝言を頼む。	中原なおみ
	第11回	丁寧な場面で話す。(敬語)	中原なおみ
	第12回	道を聞く。行き方を説明する。	中原なおみ
	第13回	ものについて詳しく説明する。	中原なおみ
	第14回	ストーリーや経験について話す。	中原なおみ
	第15回	まとめと復習	中原なおみ

授業外の学習	前回学習した文型項目、表現の復習。		
教科書	「みんなの日本語初級Ⅰ」(スリーエーネットワーク)		
参考文献など	「みんなの日本語初級Ⅰ文型練習帳」(スリーエーネットワーク)		
成績評価の方法・基準	評価方法	割合(%)	評価基準
	筆記試験	40	学期末試験の成績 学期中の小テストの成績
	実技評価	0	特になし
	レポート評価	0	特になし
	平常点評価	60	授業への参加度 宿題の提出
その他	0	特になし	
履修上の注意	原則として交流学生のみを対象とし、学期初めのプレースメント試験の結果によって履修者を定める。		
連絡先・連絡方法など	国際交流センター事務室へ伝言		
その他	特になし		

日本の文化・芸術B

担当教員	石川 美明
曜日・時限・開講期	火曜日 4時限 後期
期間	後期
授業形態	講義
学年	1年生
単位	2
開講キャンパス	東松山

授業の概要	「日本の文化・芸術」のうち、後期は「日本の文化」について学ぶ。 ①「住文化」では、「床の間」「畳」「障子」「庭（庭屋一如。日本の庭は、人工を嫌い、自然に従うが、それは自然の模倣とは異なる。自然の真髄が、神さまへの祈りのように表現されている。）」、②「食文化」では、「懐石料理と会席料理」「六味（淡味）」「箸とナイフ・フォーク」、③「衣文化」では、「きものの美的機能」「日本の風土ときもの」「きものと環境問題」「染の美と織の美」について講義する。
授業の到達目標	日本の文化に関心をもち、衣食住文化を説明できる。
授業の形態	講義形式で行う。なお、学生の集中力を持続させ、また、理解度をチェックするため、「正解カード制度」（出席カードとは異なる。詳しくは、開講時に説明する。）を導入する。

授業 計画	回数	授業内容	担当教員
	第1回	はじめに	石川美明
	第2回	住文化（1）	石川美明
	第3回	住文化（2）	石川美明
	第4回	住文化（3）	石川美明
	第5回	住文化（4）	石川美明
	第6回	住文化（5）	石川美明
	第7回	住文化（6）	石川美明
	第8回	食文化（1）	石川美明
	第9回	食文化（2）	石川美明
	第10回	食文化（3）	石川美明
	第11回	食文化（4）	石川美明
	第12回	食文化（5）	石川美明
	第13回	衣文化（1）	石川美明
	第14回	衣文化（2）	石川美明
	第15回	まとめ	石川美明

授業外の学習	日本の衣食住文化を楽しんで下さい。		
教科書	藤森照信『茶室学講義—日本の極小空間の謎—』（角川文庫、2019年）		
参考文献など	谷崎潤一郎『陰翳礼讃』（中公文庫、1910年）、児玉定子『日本の食事様式』（中公新書、1980年）、龍村謙『日本のきもの』（中公新書、1978年）		
成績評 価の方 法・基準	評価方法	割合(%)	評価基準
	筆記試験	0	なし
	実技評価	0	なし
	レポート評価	80	日本美術の特質を説明できるか
	平常点評価	20	「正解カード」
その他	0	なし	
履修上の注意	なし		
連絡先・連絡方法など	授業の前後に質問を受け付ける		
その他	なし		

集中日本語基礎演習 1 A 4

担当教員	中原 なおみ
曜日・時限・開講期	水曜日 2時限 前期
期間	前期
授業形態	演習
学年	1年生
単位	1
開講キャンパス	東松山

授業の概要	日本語の文字である、ひらがな、カタカナ、漢字を体系的に学習し、初級テキスト「みんなの日本語 1」にでてくる語彙を覚え、ひらがな、カタカナ、漢字を正しく読んだり書いたりできるようにする。
授業の到達目標	1、ひらがな、カタカナ、漢字を体系的に理解し、その意味、機能を理解して日常的に使用できるようにする。 2、漢字については、知らないものを見ても、これまでに得た知識を利用し、意味を推測したり、読んだりできるようにする。
授業の形態	講義、グループ作業、発表など。 日本語の文字（ひらがな・カタカナ・漢字）について理解し、使えるようにするため、カードを使ってペアやグループ作業をしたり、自身で調べたことを発表したりする。

授業 計画	回数	授業内容	担当教員
	第1回	イントロダクション 日本語の文字についてのプレースメントテスト	中原なおみ
	第2回	ひらがな 1	中原なおみ
	第3回	ひらがな 2	中原なおみ
	第4回	ひらがな 3	中原なおみ
	第5回	カタカナ 4	中原なおみ
	第6回	カタカナ 5	中原なおみ
	第7回	漢字 6	中原なおみ
	第8回	漢字 7	中原なおみ
	第9回	漢字 8	中原なおみ
	第10回	漢字 9	中原なおみ
	第11回	漢字 10	中原なおみ
	第12回	漢字 11	中原なおみ
	第13回	漢字 12	中原なおみ
	第14回	漢字 13	中原なおみ
第15回	まとめと復習	中原なおみ	

授業外の学習	1. その週に扱った内容の復習。 2. 教師の配布した復習用のプリント。		
教科書	特に使わない。授業内でプリントを配布。		
参考文献など	「みんなの日本語 1		
成績評 価の方 法・基準	評価方法	割合(%)	評価基準
	筆記試験	60	学期末試験の成績 学期中の小テストの成績
	実技評価	0	特になし
	レポート評価	0	特になし
	平常点評価	40	宿題の提出 授業への参加度
その他	0	特になし	
履修上の注意	原則として交流学生のみを対象とし、学期初めのプレースメント試験の結果によって履修者を定める。		
連絡先・連絡方法など	国際交流センター事務室へ伝言		
その他	なし		

日本の歴史 A

担当教員	亀井ダイチ 利永子
曜日・時限・開講期	月曜日 2時限 前期
期間	前期
授業形態	講義
学年	1年生
単位	2
開講キャンパス	東松山

授業の概要	この授業では、古代から近世に至るまでの日本の歴史を、主な歴史的出来事や人物に焦点を当てながら紹介していきます。世界の中における日本という視点から、当時の日本社会について年代順に理解を深めていきます。 This class will be offered in Japanese, but almost all materials used in class will be provided in both Japanese and English.
授業の到達目標	近世までの日本の歴史の流れを理解することが出来る。当時の社会を形作った重要な出来事や思想、そしてその影響について理解を深めることが出来る。
授業の形態	基本的に講義形式で行いますが、簡単なディスカッションも含まれる場合があります。

授業計画	回数	授業内容	担当教員
	第1回	はじめに（授業内容の説明、学生への簡単なアンケート） Introduction	亀井ダイチ利永子
	第2回	神話の世界から The Quest for Origins	亀井ダイチ利永子
	第3回	国家の形成 Consolidation and Kingship: The Early Japanese State	亀井ダイチ利永子
	第4回	奈良時代：思想と組織 Nara Period: Transformation of the State	亀井ダイチ利永子
	第5回	平安時代：その背景と政治 Heian Period: Social Conditions and Politics	亀井ダイチ利永子
	第6回	平安時代：貴族文化の光と影 Heian Period: Ups and Downs of Courtier Culture	亀井ダイチ利永子
	第7回	武士の台頭とその政権 The Shaking of the Classical Order: The Rise of Warriors and a New Polity	亀井ダイチ利永子
	第8回	鎌倉時代：組織・人・文化 Kamakura Period: Creating a New Order	亀井ダイチ利永子
	第9回	鎌倉時代：モンゴル襲来とその後 The Kamakura Period: Before and After the Mongol Invasions	亀井ダイチ利永子
	第10回	二つの皇統 Two Royal Lines	亀井ダイチ利永子
	第11回	室町時代：その光と影 Ups and Downs of the Muromachi Period	亀井ダイチ利永子
	第12回	中世社会と「伝統文化」の発展 Medieval Society and the Development of "Japan's Traditional Culture"	亀井ダイチ利永子
	第13回	下剋上の世界へ The World Turns Upside Down	亀井ダイチ利永子
	第14回	天下統一への道 The Road to the Unification of Japan	亀井ダイチ利永子
第15回	まとめ Conclusion	亀井ダイチ利永子	

授業外の学習	配布した資料は必ず読んでください。		
教科書	特定のテキストは使用しません。授業内容に即した関連資料を配布します。		
参考文献など	なし		
成績評価の方法・基準	評価方法	割合(%)	評価基準
	筆記試験	40	簡単な小テスト、およびリアクションペーパー
	実技評価	0	該当なし
	レポート評価	40	ファイナルレポート
	平常点評価	20	出席・授業への参加度
	その他	0	該当なし
履修上の注意	出来れば、日本の歴史 B もあわせて履修してください。		
連絡先・連絡方法など	授業開始時に、連絡先となる email address を教えます。 または国際交流センター（東松山）に連絡して下さい。		
その他	特になし		

日本語文章表現B

担当教員	上村 圭介
曜日・時限・開講期	火曜日 5時限 後期
期間	後期
授業形態	未設定
学年	1年生
単位	1
開講キャンパス	東松山

授業の概要	大学で勉強するために必要なアカデミックライティングの技法の学習と練習をする。授業ではレポートや論文で一般的に使われる構成に沿って、実際にレポートや論文の執筆に必要な語彙・文型・表現を学ぶ。
授業の到達目標	書き言葉で使われる語彙・文型・表現を文章の目的に合わせて使い分けられるようになること。
授業の形態	この授業は毎回、アカデミックライティングの基本技能について説明した上で、その内容に基づく課題実習を行う。授業中に書いた小課題は、添削を行った上で返却するので、次回授業時（次回出席時ではない）に書き直して再提出すること。受講可能人数は原則として20名とする。

	回数	授業内容	担当教員
	授業 計画	第1回	オリエンテーション、コンピュータを使った日本語入力の練習
第2回		レポートの文体の復習	上村圭介
第3回		文の基本の復習	上村圭介
第4回		要約	上村圭介
第5回		比較と対照①	上村圭介
第6回		比較と対照②	上村圭介
第7回		因果関係の表し方①	上村圭介
第8回		因果関係の表し方②	上村圭介
第9回		論説文の書き方①	上村圭介
第10回		論説文の書き方②	上村圭介
第11回		資料の利用①	上村圭介
第12回		資料の利用②	上村圭介
第13回		レポートの作成①	上村圭介
第14回		レポートの作成②	上村圭介
第15回		まとめ	上村圭介

授業外の学習	授業では、前の週までに学んだことを前提とする。前の週に学んだことを復習して授業に臨むこと。 授業外の学習に必要な時間は1回の授業につき1時間。		
教科書	二通信子・佐藤不二子『新訂版 留学生のための論理的な文章の書き方』（スリーエーネットワーク、2020年2月）		
参考文献など	なし		
成績評価の方法・基準	評価方法	割合(%)	評価基準
	筆記試験	0	なし
	実技評価	0	なし
	レポート評価	0	なし
	平常点評価	100	毎回の提出課題によって評価する。
その他	0	なし	
履修上の注意	実習的な内容が多いので、実際に授業に出て作業をすることが不可欠である。評価は授業中課題に基づいて行うことから、授業への積極的な参加を求める。また、教科書を購入しない者の履修は認めない。		
連絡先・連絡方法など	授業に関する個別の質問、問い合わせは授業の前後の時間またはオフィスパワー（火昼・3：東松山キャンパス第2研究棟4階研究室、金昼・3：板橋キャンパス2号館6階日本語学科事務室）に受け付ける。 メールアドレス：kamimur@ic.daito.ac.jp		
その他	なし		

日本語文章表現 B

担当教員	西尾 広美
曜日・時限・開講期	木曜日 3時限 後期
期間	後期
授業形態	講義
学年	1年生
単位	1
開講キャンパス	東松山

授業の概要	・大学で勉強するために必要なアカデミックライティングの基礎を学ぶ。 ・レポート作成のためのルールやパラグラフによる文章構成の仕方を学び、レポートを書く。
授業の到達目標	・アカデミックライティングに適した表現やレポート作成のルールを習得する。 ・参考文献を利用し、文章の設計図にそって根拠のあるレポートを書く。
授業の形態	講義と演習に加え、ディスカッションやグループワークなどのアクティブラーニングを行う。

	回数	授業内容	担当教員
授業 計画	第1回	ガイダンス 他己紹介	西尾広美
	第2回	アカデミックライティングに適し表現 伝わる文章にするための注意点	西尾広美
	第3回	原稿用紙の使い方とレポート作成のマナー	西尾広美
	第4回	レポート作成のプロセスと構成 パラグラフライティング	西尾広美
	第5回	紹介文を書く	西尾広美
	第6回	賛成・反対の意見文を書く	西尾広美
	第7回	before/after の文章	西尾広美
	第8回	レポートのテーマのアイデア出し・問いたて	西尾広美
	第9回	参考文献の探し方と書き方 引用の仕方	西尾広美
	第10回	レポートのアウトラインを考える パラグラフの作成	西尾広美
	第11回	レポートの作成	西尾広美
	第12回	レポートの発表 話し合い	西尾広美
	第13回	レポートの発表 話し合い	西尾広美
	第14回	振り返りシート レポートの修正	西尾広美
	第15回	レポート提出 まとめ	西尾広美

授業外の学習	授業中に終わらなかつた課題は、翌週までの宿題になります。課題は必ず提出してください。 提出期限を過ぎたものは、80%の評価となります。
教科書	特定の教科書は使わない。レジメを配布する。
参考文献など	銅直・坂東（2015）『大学生のための文章表現&口頭発表練習帳』（国書刊行会）

成績評 価の方 法・基準	評価方法	割合(%)	評価基準
	筆記試験	0	なし
	実技評価	0	なし
	レポート評価	30	レポート提出の有無と内容・文法・表現・形式 □ ☒
	平常点評価	70	出席は3分の2以上 課題提出の有無と内容 発表 ふりかえりシート 授業への参加度 授業への参加度
その他	0	なし	

履修上の注意	実習的な内容が多いため、積極的な授業参加が必要です。 配布されたプリントには、自分の弱点を知るためのヒントが書かれています。 必ず整理・保管し、復習してください。
--------	---

連絡先・連絡方法など	事前に申し出るか、国際交流センター（東松山）へ伝言してください。 病欠の場合は、病院のレシートなどの証明書を提出してください。
------------	--

その他	後期も併せて受講することが望ましい。 シラバスの予定は、変更する場合があります。 ミスを恐れず、だれにでも伝わるわかりやすい文章で、まとまりのあるレポートを書きましょう！ 授業でレポート作成の方法を知り、これからの大学生活に役立ててください。
-----	--

日本語文章表現B

担当教員	田中 寛
曜日・時限・開講期	水曜日 2時限 後期
期間	後期
授業形態	講義
学年	1年生
単位	1
開講キャンパス	東松山

授業の概要	日本語の中上級レベルの語彙、文型を使って、文章が書けるように講義を進めていきます。とくに接続の仕方、文末の表現に気をつけながら、まとまった文章が書けるように訓練します。実務的な文、メール、レポートを書く際のさまざまなルールを習得していきます。
授業の到達目標	1) 中上級レベルの語彙、文型を用いて文章が書けるようになる。 2) 日本語の特徴を把握し、接続表現、文末表現が使えるようになる。 3) 文章の段落、構成が理解できるようになる。 4) 日本語のさまざまな文章に関心をもち、書くことの意識を高めるようにする。
授業の形態	原則として講義中心ですが、毎回、指示する題目で文章を書く時間をもうけます。前半 4 5 分では用例中心の『現代日本語形式語用例用法辞典』を使います。後半 4 5 分では実際の文章を作成する練習にあてます。

	回数	授業内容	担当教員
	授業計画	第1回	『現代日本語形式語用例用法辞典』あ行の文型後半(1) 意見文の書き方(1)
第2回		『現代日本語形式語用例用法辞典』あ行の文型後半(2) 意見文の書き方(2)	田中寛
第3回		『現代日本語形式語用例用法辞典』か行の文型後半(1) 批評文の書き方(1)	田中寛
第4回		『現代日本語形式語用例用法辞典』か行の文型後半(2) 批評文の書き方(2)	田中寛
第5回		『現代日本語形式語用例用法辞典』さ行の文型後半(1) 批評文の書き方(3)	田中寛
第6回		『現代日本語形式語用例用法辞典』さ行の文型後半(2) レポートの書き方(1)	田中寛
第7回		『現代日本語形式語用例用法辞典』た行の文型後半(1) レポートの書き方(2)	田中寛
第8回		『現代日本語形式語用例用法辞典』た行の文型後半(2) レポートの書き方(3)	田中寛
第9回		『現代日本語形式語用例用法辞典』な行の文型後半(1) レポートの書き方(4)	田中寛
第10回		『現代日本語形式語用例用法辞典』な行の文型後半(2) レポートの書き方(5)	田中寛
第11回		『現代日本語形式語用例用法辞典』は行の文型後半 学術論文の書き方(1)	田中寛
第12回		『現代日本語形式語用例用法辞典』ま行の文型後半 学術論文の書き方(2)	田中寛
第13回		『現代日本語形式語用例用法辞典』や行の文型後半 学術論文の書き方(3)	田中寛
第14回		『現代日本語形式語用例用法辞典』ら行、わ行の文型後半 学術論文の書き方(4)	田中寛
第15回		後期を振り返って、最重要項目をチェックします。学期末試験を実施します。今後の学習の仕方について説明します。	田中寛

授業外の学習	授業に関連した課題を出し、受講生の各自の成果を授業に活用していきます。		
教科書	田中寛編『現代日本語形式語用例用法辞典』(私家版)2014 プリントも教室で配布します。		
参考文献など	小笠原信之『伝わる! 文章力が身につく本』高橋書店2012 小笠原喜康『大学生のためのレポート・論文述』講談社現代新書2002 野田尚史・森口稔『日本語を書くトレーニング』ひつじ書房2003		
成績評価の方法・基準	評価方法	割合(%)	評価基準
	筆記試験	50	後期の内容についての筆記試験。内容を理解しているかどうかを評価します。
	実技評価	15	授業での発表について準備の仕方、発表の方法、伝達理解の面から評価します。
	レポート評価	10	課題に沿ったレポートの提出、要旨などのまとめ方について評価します。
	平常点評価	20	出席率、受講態度、毎回の簡単なクイズの答え方について評価します。
その他	5	指定された課外活動、催し、講演会などへの参加を評価します。	
履修上の注意	前期から続けて受講することが望ましい。「理解とコミュニケーション」も合わせて受講することが望ましい。		
連絡先・連絡方法など	毎週、火曜日、水曜日、木曜日の昼休み、東松山第二研究棟 1 2 4 号室研究室を開放しています。質問、ご相談はメール htanaka@ic.daito.ac.jp でご連絡の上、お越しください。		
その他	遅刻、欠席のないように心がけてください。		

日本語文章表現 B

担当教員	幸田 佳子
曜日・時限・開講期	水曜日 3時限 後期
期間	後期
授業形態	講義
学年	1年生
単位	1
開講キャンパス	東松山

授業の概要	大学で必要なレポート・小論文や記述式的答案の書き方ができるようする。
授業の到達目標	技術的な方法の習得すること レポート作成ができる
授業の形態	講義形式

授業 計画	回数	授業内容	担当教員
	第1回	授業説明 自己紹介の説明	幸田佳子
	第2回	比較の文の説明と練習	幸田佳子
	第3回	比較の文の書き直し 分類の説明と練習	幸田佳子
	第4回	分類の文を書く 因果関係の説明	幸田佳子
	第5回	因果関係の練習 理由を中心にした文を書く	幸田佳子
	第6回	結果を中心にした文を書く	幸田佳子
	第7回	引用の方法の説明 参考文献の書き方	幸田佳子
	第8回	グラフ統計資料の使い方 グラフと説明	幸田佳子
	第9回	グラフの説明と分析の練習	幸田佳子
	第10回	レポートの書き方の流れ① 思考、構想	幸田佳子
	第11回	レポートの書き方の流れ② 疑問点と資料探し	幸田佳子
	第12回	レポートの書き方の流れ③ 疑問点のリスト 主題をどうするか アウトラインを考える	幸田佳子
	第13回	アウトラインと文章を書いていく	幸田佳子
	第14回	アウトラインに沿って文章化 個別に推敲していく 参考文献と表紙の付け方	幸田佳子
	第15回	他の学生の文章の読み合わせをして批評する	幸田佳子

授業外の学習	授業中書けなかったものは宿題とする。 レポート作成時は、資料を調べて要点を出しておくことを宿題とする。
--------	--

教科書	特定の教科書は使用しない レジメを配布
-----	---------------------

参考文献など	「留学生のための論理的な文章の書き方」スリーエーネットワーク 「大学で学ぶための日本語ライティング」The Japan Times 「留学生のためのここが大切文章表現ルール」スリーエーネットワーク
--------	--

成績評 価の方 法・基準	評価方法	割合(%)	評価基準
	筆記試験	0	なし
	実技評価	50	毎回の提出物試験の代わりである。提出しないと点数なし。期限後の提出は80%とする。
	レポート評価	30	最終のレポートは提出有無、そして内容・文法・表現などを評価する
	平常点評価	10	出席は全授業の3分の2以上。それ以下は不可として考慮しない。授業中の積極性を見る。
その他	10	振り返りや話し合いなどの結果をシートで出してもらう。	

履修上の注意	前期文章表現Aを履修していることが望ましい。文の書き方の基本を少しでも身に付けていてもらいたい。 配布物が多いので、クリアホルダーを用意すること
--------	---

連絡先・連絡方法など	教員控室へ伝言してください
------------	---------------

その他	書くことは意識してやってもなかなか上達しない。語彙、文法、書き方などを同時にゆくりと習得していかなければならない。自分の考えていることを表現していくことで、思索を深めることになる。あきらめずに努力してもらいたい。
-----	--

日本語文章表現 B

担当教員	正宗 鈴香
曜日・時限・開講期	月曜日 3時限 後期
期間	後期
授業形態	講義
学年	1年生
単位	1
開講キャンパス	東松山

授業の概要	この授業では、アカデミック・ライティングの基礎を学びます。参考文献やデータを示しながら主張を述べる文章の展開を学んでいきます。自分の考えを他者に伝える文章を書くには粘り強く考える力が必要です。授業では、クラスメートとの話し合いを通して自分の考えを掘り下げ、主張を明確にしていくことを目指します。
授業の到達目標	1. 大学で求められるアカデミック技法を用いた文章が書けるようになる。 2. 批判的・論理的な思考力を身に付ける。
授業の形態	講義と演習を組み合わせを進めていきます。クラスでは、お互いの書いた文章を読み合い、コメントやアドバイスをする活動も行います。他者の文章を読んだり、他者に読んでもらうことでよい文章とは何かを考え、よりよい文章にする力をつけていきます。

授業 計画	回数	授業内容	担当教員
	第1回	授業オリエンテーシ、この授業で学ぶこと、アカデミック・ライティングとは何か	正宗鈴香
	第2回	文章表現の基礎、話しことばと書きことば、文・文体・段落についての確認	正宗鈴香
	第3回	要約文の書き方	正宗鈴香
	第4回	二つ以上の側面から結論を述べる①	正宗鈴香
	第5回	二つ以上の側面から結論を述べる②	正宗鈴香
	第6回	二つ以上の側面から結論を述べる③	正宗鈴香
	第7回	グラフ解説文の書き方	正宗鈴香
	第8回	引用文の書き方	正宗鈴香
	第9回	参考資料を用いて意見を述べる①	正宗鈴香
	第10回	参考資料を用いて意見を述べる②	正宗鈴香
	第11回	参考資料を用いて意見を述べる③	正宗鈴香
	第12回	テーマ（問い）を設定して書く①	正宗鈴香
	第13回	テーマ（問い）を設定して書く②	正宗鈴香
	第14回	テーマ（問い）を設定して書く③	正宗鈴香
	第15回	テーマ（問い）を設定して書く④、まとめ	正宗鈴香

授業外の学習	・課題達成の過程において指示された事前学習、事後学習を行うこと。テーマについて考える、調べる、文に関する知識を確認する等、指示されます ・授業中に書けなかった文章を完成させるなどの課題があります。		
教科書	プリントを用いる。		
参考文献など	石黒・筒井（2009）『留学生のためのここが大切 文章表現のルール』スリーエネットワーク アカデミック・ジャパニーズ研究会編著『留学生の日本語 ②作文編』アルク		
成績評 価の方 法・基準	評価方法	割合(%)	評価基準
	筆記試験	0	なし
	実技評価	0	なし
	レポート評価	45	3つの課題の最終原稿
	平常点評価	55	授業への参加度、プリント等の取り組み
その他	0	なし	
履修上の注意	・課題を達成するために授業外でも積極的に取り組むことが求められます。		
連絡先・連絡方法など	国際交流センター東松山分室へ伝言		
その他	授業計画は受講者に合わせて変更する場合があります。		

集中日本語基礎演習 1 A 5

担当教員	木戸 恵子
曜日・時限・開講期	木曜日 1時限 前期
期間	前期
授業形態	演習
学年	1年生
単位	1
開講キャンパス	東松山

授業の概要	日本で生活するために必要な基礎的な日本語のことばと文法を学習し、話したり、書いたりできるように練習する。
授業の到達目標	日常生活で、日本語で自分のお願い、気持ち、意見などが言えるようになる。また、日本人の話を聞いてわかるようになる。
授業の形態	1 ことばの意味を確かめる。そして、そのことばを使う練習をする。 2 日本語の文の形と意味を確かめ、練習問題を解く。そして、自分で文を作ってみる。 3 学習したことばと文法を使って、会話を作って、クラスで発表する。

授業 計画	回数	授業内容	担当教員
	第1回	・イントロダクション ・レベルチェック	木戸恵子
	第2回	・『みんなの日本語初級 I』第2課 練習A&B他	木戸恵子
	第3回	・『みんなの日本語初級 I』第4課 練習A&B他	木戸恵子
	第4回	・『みんなの日本語初級 I』第6課 練習A&B他	木戸恵子
	第5回	・『みんなの日本語初級 I』第8課 練習A&B他	木戸恵子
	第6回	・『みんなの日本語初級 I』第10課 練習A&B他	木戸恵子
	第7回	・『みんなの日本語初級 I』第12課 練習A&B他 ・第6回までの復習	木戸恵子
	第8回	・中間テスト ・『みんなの日本語初級 I』第12課 練習A&B他	木戸恵子
	第9回	・『みんなの日本語初級 I』第14課 練習A&B他	木戸恵子
	第10回	・『みんなの日本語初級 I』第16課 練習A&B他	木戸恵子
	第11回	・『みんなの日本語初級 I』第18課 練習A&B他	木戸恵子
	第12回	・『みんなの日本語初級 I』第20課 練習A&B他	木戸恵子
	第13回	・『みんなの日本語初級 I』第22課 練習A&B他	木戸恵子
	第14回	・『みんなの日本語初級 I』第24課 練習A&B他 ・復習	木戸恵子
第15回	・学期末テスト ・まとめ	木戸恵子	

授業外の学習	1 わからないことばを辞書で調べる。 2 宿題をする。 3 学習したことばや文法を覚える。		
教科書	『みんなの日本語初級 I 本冊』 『みんなの日本語初級 I 翻訳・文法解説』		
参考文献など	『みんなの日本語初級 I 書いて覚える文型練習帳』		
成績評 価の方 法・基準	評価方法	割合(%)	評価基準
	筆記試験	60	中間テスト・学期末テスト
	実技評価	0	なし
	レポート評価	0	なし
	平常点評価	40	授業における参加度、小テスト、宿題
その他	0	なし	
履修上の注意	この授業は集中日本語基礎演習 1 A6に続くので、1A6も受講することが望ましい。		
連絡先・連絡方法など	国際交流センター事務室へ伝言。		
その他	なし		

日本の歴史B

担当教員	亀井ダイチ 利永子
曜日・時限・開講期	月曜日 2時限 後期
期間	後期
授業形態	講義
学年	1年生
単位	2
開講キャンパス	東松山

授業の概要	この授業では、近世から近現代までの日本の歴史を、主な歴史的出来事や人物に焦点を当てながら紹介していきます。世界の中における日本という視点から、当時の日本の様相から現代日本社会に続く展開について理解を深めていきます。 This class will be offered in Japanese, but almost all materials used in class will be provided in both Japanese and English.
授業の到達目標	近世から近代までの日本の歴史の流れを理解することが出来る。当時の社会を形作った重要な出来事や思想、そしてその影響について理解を深めることが出来る。
授業の形態	基本的に講義形式で行いますが、簡単なディスカッションも含まれる場合があります。

授業計画	回数	授業内容	担当教員
	第1回	はじめに（授業内容の説明、学生への簡単なアンケート） Introduction	亀井ダイチ利永子
	第2回	江戸時代：組織と人 Edo Period: Political & Social Structures	亀井ダイチ利永子
	第3回	江戸時代：その文化の光と影 Edo Period: The Ups and Downs of Its Culture	亀井ダイチ利永子
	第4回	幕府の終焉：鎖国はなかった？ Towards the End of the Edo Period: Was Japan Really Isolated?	亀井ダイチ利永子
	第5回	明治時代：近代化への道 Meiji Period: The Road Towards a Modernized State	亀井ダイチ利永子
	第6回	明治時代：その社会と文化 Meiji Period: Society and Culture	亀井ダイチ利永子
	第7回	世界情勢と近代日本の動き：「日本帝国」へ Modern Japan in the World Context: Emergence of a Japanese Empire	亀井ダイチ利永子
	第8回	大正時代：政治と社会 Taisho Period: Politics and Society	亀井ダイチ利永子
	第9回	戦争への道 The Road to War	亀井ダイチ利永子
	第10回	戦争の時代：第二次世界大戦の諸相 The Era of War: The Many Aspects of the Second World War	亀井ダイチ利永子
	第11回	終戦とその後：占領下の日本 The End of the War: The Occupation and Postwar Reconstruction	亀井ダイチ利永子
	第12回	国際社会への復帰：政治体制の改革 Returning to the International Order: Postwar Politics and Society	亀井ダイチ利永子
	第13回	高度経済成長の時代 The Era of High Economic Growth	亀井ダイチ利永子
	第14回	バブルとその前後 Before and After the Bubble Economy	亀井ダイチ利永子
第15回	まとめ Conclusion	亀井ダイチ利永子	

授業外の学習	配布した資料は必ず読んでください。		
教科書	特定のテキストは使用しません。授業内容に即した関連資料を配布します。		
参考文献など	なし		
成績評価の方法・基準	評価方法	割合(%)	評価基準
	筆記試験	40	小テスト、リアクションペーパー
	実技評価	0	該当なし
	レポート評価	40	ファイナル・レポート
	平常点評価	20	出席・授業への参加度
その他	0	該当なし	
履修上の注意	出来れば、日本の歴史Aとあわせて履修してください。		
連絡先・連絡方法など	授業開始時に、連絡先となるemail addressを教えます。 または国際交流センター（東松山）に連絡して下さい。		
その他	特になし		

集中日本語基礎演習 1 A 6

担当教員	木戸 恵子
曜日・時限・開講期	木曜日 2時限 前期
期間	前期
授業形態	演習
学年	1年生
単位	1
開講キャンパス	東松山

授業の概要	日本で生活するために必要な基礎的な日本語のことばと文法を学習し、話したり、書いたりできるように練習する。
授業の到達目標	日常生活で、日本語で自分のお願い、気持ち、意見などが言えるようになる。また、日本人の話を聞いてわかるようになる。
授業の形態	1 ことばの意味を確かめる。そして、そのことばを使う練習をする。 2 日本語の文の形と意味を確かめ、練習問題を解く。そして、自分で文を作ってみる。 3 学習したことばと文法を使って、会話を作って、クラスで発表する。

授業 計画	回数	授業内容	担当教員
	第1回	・イントロダクション ・レベルチェック	木戸恵子
	第2回	・『みんなの日本語初級 I』第2課 練習A&B他	木戸恵子
	第3回	・『みんなの日本語初級 I』第4課 練習A&B他	木戸恵子
	第4回	・『みんなの日本語初級 I』第6課 練習A&B他	木戸恵子
	第5回	・『みんなの日本語初級 I』第8課 練習A&B他	木戸恵子
	第6回	・『みんなの日本語初級 I』第10課 練習A&B他	木戸恵子
	第7回	・『みんなの日本語初級 I』第12課 練習A&B他 ・第6回までの復習	木戸恵子
	第8回	・中間テスト ・『みんなの日本語初級 I』第12課 練習A&B他	木戸恵子
	第9回	・『みんなの日本語初級 I』第14課 練習A&B他	木戸恵子
	第10回	・『みんなの日本語初級 I』第16課 練習A&B他	木戸恵子
	第11回	・『みんなの日本語初級 I』第18課 練習A&B他	木戸恵子
	第12回	・『みんなの日本語初級 I』第20課 練習A&B他	木戸恵子
	第13回	・『みんなの日本語初級 I』第22課 練習A&B他	木戸恵子
	第14回	・『みんなの日本語初級 I』第24課 練習A&B他 ・復習	木戸恵子
第15回	・学期末テスト ・まとめ	木戸恵子	

授業外の学習	1 わからないことばを辞書で調べる。 2 宿題をする。 3 学習したことばや文法を覚える。		
教科書	『みんなの日本語初級 I 本冊』 『みんなの日本語初級 I 翻訳・文法解説』		
参考文献など	『みんなの日本語初級 I 書いて覚える文型練習帳』		
成績評 価の方 法・基準	評価方法	割合(%)	評価基準
	筆記試験	60	中間テスト・学期末テスト
	実技評価	0	なし
	レポート評価	0	なし
	平常点評価	40	授業における参加度、小テスト、宿題
その他	0	なし	
履修上の注意	この授業は1A5の続きの授業なので、1A5も受講することが望ましい。		
連絡先・連絡方法など	国際交流センター事務室へ伝言。		
その他	なし		

現代日本の諸相 A

担当教員	正宗 鈴香
曜日・時限・開講期	金曜日 3時限 前期
期間	前期
授業形態	講義
学年	1年生
単位	2
開講キャンパス	東松山

授業の概要	この授業では、みなさんが日本で経験する日常的な事柄と関連付けながら、異文化理解の理論をもとに日本文化や日本人の言動などについて理解を深めます。また、テーマについての積極的な討論を通して、グローバル社会で求められる異文化理解力をはじめ、思考力、コミュニケーション力を実践的に身につけていきます。
授業の到達目標	1. 異文化理解やコミュニケーション理論について知識を得る 2. 日本文化や日本人の考え方などを多角的な視点から理解する 3. 他者との意見交換を通して思考を深める 4. 文化の多様性や文化背景の異なる人々との交流の意義について追及する 5. 物事を発信する力を身に付ける
授業の形態	ディスカッションを多く取り入れた参加型の授業形態とします。異文化理解やテーマについての知識を得た上で、日本に関する資料等を用いながらディスカッションを行い、多様な考え方を共有する豊かな学びを目指します。また、発信力の習得を目指し、グループ作業・発表も行います。

授業 計画	回数	授業内容	担当教員
	第1回	授業オリエンテーション	正宗鈴香
	第2回	1. コミュニケーションが生み出す意味 2. コミュニケーションが持つ作用	正宗鈴香
	第3回	3. コミュニケーションに関する言説 4. コミュニケーションと取り巻く文脈	正宗鈴香
	第4回	5. わたしたちがみるせかい 6. 外国語教育と英語教育	正宗鈴香
	第5回	7. 日常的な異文化 8. トラディショナル・アイデンティティ	正宗鈴香
	第6回	9. 異文化適応過程 10. 文化間の衝突と解決	正宗鈴香
	第7回	11. グローバリゼーションと文化接触	正宗鈴香
	第8回	興味のあるテーマについてプレゼンテーション	正宗鈴香
	第9回	12. テーマ：Cool Japan	正宗鈴香
	第10回	13. テーマ：Kawaii かわいい	正宗鈴香
	第11回	14. テーマ：外国語としての日本語	正宗鈴香
	第12回	15. テーマ：観光立国ニッポン	正宗鈴香
	第13回	16. テーマ：なんちゃって和食	正宗鈴香
	第14回	興味があるテーマについてプレゼンテーション	正宗鈴香
	第15回	総括	正宗鈴香

授業外の学習	教科書、配布資料を読み、日常的に経験している自分自身の異文化体験に照らし合わせて意見交換できるように準備をしてくること。		
教科書	教科書：藤巻光浩・宮崎新『グローバル社会のコミュニケーション学入門』ひつじ書房		
参考文献など	特になし		
成績評 価の方 法・基準	評価方法	割合(%)	評価基準
	筆記試験	0	実施しない
	実技評価	0	実施しない
	レポート評価	10	期末レポート、学びに対する自己分析 (10%)
	平常点評価	60	授業への参加度 (40%) 予習状況・課題・ふりかえりシート等 (20%)
その他	30	関心を持ったテーマについての発表およびディスカッション (15%×2)	
履修上の注意	授業では積極的な発言が求められます。		
連絡先・連絡方法など	国際交流センター東松山分室へ伝言		
その他	日本に留学している環境を活かし、日本だけではなく、グローバル化する社会で活躍できる人材に必要な力を身に付けることを目標とします。この授業では、ディスカッションの時間を多くとり実践的な力を身につけていきます。		

資料・文献読解A

担当教員	大河原 尚
曜日・時限・開講期	月曜日 3時限 前期
期間	前期
授業形態	講義
学年	1年生
単位	1
開講キャンパス	東松山

授業の概要	読解も一つのコミュニケーションと考え、著者の主張が述べられた文章から、その主張を読み取るために、どのような読み方をしたらいいかを考えます。そのために、次の3つの点、つまり(1)文章のテーマ、(2)著者がその文章で問題にしていること、(3)その問題に対する著者の主張、を探しながら、文章を読む練習をします。
授業の到達目標	①文章の構造を読みとり、(1)文章のテーマ、(2)著者がその文章で問題にしていること、(3)その問題に対する著者の主張、の三つを読み取ることができる。 ②上の3点を踏まえて、その文章の内容を自分なりにまとめて、要約できる。
授業の形態	授業では、毎回一つあるいは二つの文章をクラス全員で読みます。 次に、上の3点(テーマ、問題、主張)についてグループ、あるいはペアで話し合います。 その後、文章の構造や各段落の要点について確認・検討し、それを踏まえて、上の3点についてクラス全員で話し合います。 最後に、宿題として、読んだ文章について自分なりに読みとった内容を整理し、上の3点及び要約をまとめます。

	回数	授業内容	担当教員
授業 計画	第1回	授業の目的・進め方の説明、自分の読み方を意識する①	大河原尚
	第2回	自分の読み方を意識する②	大河原尚
	第3回	自分の読み方を意識する③	大河原尚
	第4回	何の話かをつかむ①	大河原尚
	第5回	何の話かをつかむ②(読解のストラテジー)	大河原尚
	第6回	何の話かをつかむ③(実践練習)	大河原尚
	第7回	何が問題になっているかをつかむ①	大河原尚
	第8回	何が問題になっているかをつかむ②(読解のストラテジー)	大河原尚
	第9回	何が問題になっているかをつかむ③(実践練習)	大河原尚
	第10回	何が問題になっているかをつかむ④(応用練習)	大河原尚
	第11回	言いたいことは何かをつかむ①	大河原尚
	第12回	言いたいことは何かをつかむ②(読解のストラテジー)	大河原尚
	第13回	言いたいことは何かをつかむ③(実践練習)	大河原尚
	第14回	言いたいことは何かをつかむ④(応用練習)	大河原尚
	第15回	これまでのまとめ、学期末試験	大河原尚

授業外の学習	授業での活動で扱った文法・語彙・表現はについて、各自で語彙リストやメモを作るなどして整理するようにしてください。		
教科書	一橋大学留学生センター著『留学生のためのストラテジーを使って学ぶ文章の読み方』、スリーエーネットワーク(2005)。(1200円+税)		
参考文献など	特になし		
成績評 価の方 法・基準	評価方法	割合(%)	評価基準
	筆記試験	40	最終授業での試験。
	実技評価	0	特になし。
	レポート評価	0	特になし。
	平常点評価	20	授業中の話し合いにおける積極的な参加(発言など)。
	その他	40	授業で読んだ文章の要約(200字以内)の課題。(各5%×8回=40%) 授業で取り上げた文章の構造を過不足なく捉えているかどうか。
履修上の注意	読解の能力を向上させるには、授業で学んだ内容を実際に自分でやってみることが重要ですので、積極的に授業中の活動に取り組むことが不可欠です。また、授業中の作業において、辞書や各自が作成した語彙リスト等を使用することを奨励します。		
連絡先・連絡方法など	国際交流センターへ伝言。		
その他	授業計画は、受講者の様子を見て変更することがあります。		

資料・文献読解A

担当教員	大河原 尚
曜日・時限・開講期	木曜日 4時限 前期
期間	前期
授業形態	講義
学年	1年生
単位	1
開講キャンパス	東松山

授業の概要	読解も一つのコミュニケーションと考え、著者の主張が述べられた文章から、その主張を読み取るために、どのような読み方をしたらいいかを考えます。そのために、次の3つの点、つまり(1)文章のテーマ、(2)著者がその文章で問題にしていること、(3)その問題に対する著者の主張、を探しながら、文章を読む練習をします。
授業の到達目標	①文章の構造を読みとり、(1)文章のテーマ、(2)著者がその文章で問題にしていること、(3)その問題に対する著者の主張、の三つを読み取ることができる。 ②上の3点を踏まえて、その文章の内容を自分なりにまとめて、要約できる。
授業の形態	授業では、毎回一つあるいは二つの文章をクラス全員で読みます。 次に、上の3点(テーマ、問題、主張)についてグループ、あるいはペアで話し合います。 その後、文章の構造や各段落の要点について確認・検討し、それを踏まえて、上の3点についてクラス全員で話し合います。 最後に、宿題として、読んだ文章について自分なりに読みとった内容を整理し、上の3点及び要約をまとめます。

	回数	授業内容	担当教員
授業 計画	第1回	授業の目的・進め方の説明、自分の読み方を意識する①	大河原尚
	第2回	自分の読み方を意識する②	大河原尚
	第3回	自分の読み方を意識する③	大河原尚
	第4回	何の話かをつかむ①	大河原尚
	第5回	何の話かをつかむ②(読解のストラテジー)	大河原尚
	第6回	何の話かをつかむ③(実践練習)	大河原尚
	第7回	何が問題になっているかをつかむ①	大河原尚
	第8回	何が問題になっているかをつかむ②(読解のストラテジー)	大河原尚
	第9回	何が問題になっているかをつかむ③(実践練習)	大河原尚
	第10回	何が問題になっているかをつかむ④(応用練習)	大河原尚
	第11回	言いたいことは何かをつかむ①	大河原尚
	第12回	言いたいことは何かをつかむ②(読解のストラテジー)	大河原尚
	第13回	言いたいことは何かをつかむ③(実践練習)	大河原尚
	第14回	言いたいことは何かをつかむ④(応用練習)	大河原尚
	第15回	これまでのまとめ、学期末試験	大河原尚

授業外の学習	授業での活動で扱った文法・語彙・表現はについて、各自で語彙リストやメモを作るなどして整理するようにしてください。		
教科書	一橋大学留学生センター著『留学生のためのストラテジーを使って学ぶ文章の読み方』、スリーエーネットワーク(2005)。(1200円+税)		
参考文献など	特になし		
成績評 価の方 法・基準	評価方法	割合(%)	評価基準
	筆記試験	40	最終授業での試験。
	実技評価	0	特になし。
	レポート評価	0	特になし。
	平常点評価	20	授業中の話し合いにおける積極的な参加(発言など)。
	その他	40	授業で読んだ文章の要約(200字以内)の課題。(各5%×8回=40%) 授業で取り上げた文章の構造を過不足なく捉えているかどうか。
履修上の注意	読解の能力を向上させるには、授業で学んだ内容を実際に自分でやってみることが重要ですので、積極的に授業中の活動に取り組むことが不可欠です。また、授業中の作業において、辞書や各自が作成した語彙リスト等を使用することを奨励します。		
連絡先・連絡方法など	国際交流センターへ伝言。		
その他	授業計画は、受講者の様子を見て変更することがあります。		

資料・文献読解A

担当教員	田中 寛
曜日・時限・開講期	木曜日 3時限 前期
期間	前期
授業形態	講義
学年	1年生
単位	1
開講キャンパス	東松山

授業の概要	大学の講義を理解するために必要最小限度の読解力を身につけていきます。人文科学、社会科学の分野の論文資料を精選し、正確に意味を把握する力を養成します。さらに学術的な表現、レポートを書く上で特徴的な表現なども学んでいきます。
授業の到達目標	1) 教養書、専門書の内容、語彙表現がほぼ把握できるようにする。 2) 学術論文が辞書をひきながら、読めるようにする。 3) 日本語のさまざまな文章になじみ、分析できるようにする。 4) 上級の日本語に積極的な関心を持つようにする。
授業の形態	講義が中心となりますが、課題に応じて判別に発表を行うこともあります。

	回数	授業内容	担当教員
	授業 計画	第1回	最初にこの授業の概要を説明し、受講の注意を与えます。
第2回		『読解の森』第1課の精読(1)、新聞報道文の読解(1)	田中寛
第3回		『読解の森』第1課の精読(2)、新聞報道文の読解(2)	田中寛
第4回		『読解の森』第2課の精読(1)、新聞報道文の読解(3)	田中寛
第5回		『読解の森』第2課の精読(2)、新聞報道文の読解(4)	田中寛
第6回		『読解の森』第3課の精読(1)、報告・評論文の読解(1)	田中寛
第7回		『読解の森』第3課の精読(2)、報告・評論文の読解(2)	田中寛
第8回		『読解の森』第4課の精読(1)、報告文、評論文の読解(3)	田中寛
第9回		『読解の森』第4課の精読(2)、報告文、評論文の読解(4)	田中寛
第10回		『読解の森』第5課の精読(1)、社会科学系学術論文の読解(1)	田中寛
第11回		『読解の森』第5課の精読(2)、社会科学系学術論文の読解(2)	田中寛
第12回		『読解の森』第6課の精読(1)、社会科学系学術論文の読解(3)	田中寛
第13回		『読解の森』第6課の精読(2)、人文科学系学術論文の読解(1)	田中寛
第14回		『読解の森』第7課の精読(1)、人文科学系学術論文の読解(2)	田中寛
第15回		『読解の森』第7課の精読(2)、人文科学系学術論文の読解(3)	田中寛

授業外の学習	授業に関連した課題を出し、受講生の各自の成果を授業に活用していきます。		
教科書	田中寛・応用日本語学研究会編『読解の森』2013 新聞、プリント等(いずれも教室で配布します)		
参考文献など	高橋源一郎『非常時の言葉』2016 朝日学芸文庫 田中寛編『現代日本語形式語用例用法辞典』2014		
成績評 価の方 法・基準	評価方法	割合(%)	評価基準
	筆記試験	50	前期の内容についての筆記試験。内容を理解しているかどうかを評価します。
	実技評価	15	授業での発表について準備の仕方、発表の方法、伝達理解の面から評価します。
	レポート評価	10	課題に沿ったレポートの提出、要旨などのまとめ方について評価します。
	平常点評価	20	出席率、受講態度、毎回の簡単なクイズの答え方について評価します。
	その他	5	指定された課外活動、催し物、講演会などへの参加を評価します。
履修上の注意	後期も合わせて受講することが望ましい。「理解とコミュニケーション」も合わせて受講することが望ましい。		
連絡先・連絡方法など	毎週、火曜日、水曜日、木曜日の昼休み、東松山第二研究棟124号室研究室を開放しています。質問、ご相談はメールでご連絡の上、お越しください。 htanaka@ic.daito.ac.jp		
その他	遅刻、欠席のないように心がけてください。		

資料・文献読解A

担当教員	幸田 佳子
曜日・時限・開講期	水曜日 2時限 前期
期間	前期
授業形態	講義
学年	1年生
単位	1
開講キャンパス	東松山

授業の概要	いろいろな文章を読んで要点を取り出すこと、またそれを使って自分の考えを述べる。 記事・エッセイ・小説・コラム・対談・会話・録画したものなどから要点を取り出す。
授業の到達目標	日本語のいろいろな文章を読んで要点が取れるようになること 筆者の主張をとらえること 語彙を広げること 日本語の背景にある文化や習慣を知っていくこと
授業の形態	講義形式、テーマによっては話し合いをする。映像資料も使う

授業 計画	回数	授業内容	担当教員
	第1回	授業説明 自己紹介	幸田佳子
	第2回	短い文の要点取り練習	幸田佳子
	第3回	新聞記事（アンケート）の要点取り	幸田佳子
	第4回	新聞記事（アンケート）の要点取り	幸田佳子
	第5回	エッセイなど主張する部分の取り出しと自分の考え	幸田佳子
	第6回	エッセイなど主張する部分の取り出しと自分の考え	幸田佳子
	第7回	語彙の広げ方のまとめ	幸田佳子
	第8回	新聞記事の要点取りと自分の考え	幸田佳子
	第9回	新聞記事と自分の考え	幸田佳子
	第10回	アンケート記事の要点取り	幸田佳子
	第11回	アンケート記事からKJ法で分類	幸田佳子
	第12回	時事コラムの要点取り	幸田佳子
	第13回	時事コラムの要点取り	幸田佳子
	第14回	漢字・語彙の復習	幸田佳子
	第15回	漢字語彙、表現の確認テストと文章の要約	幸田佳子

授業外の学習	語彙調べと漢字の読みの確認をしておくこと
教科書	特定の教科書は使用しない。プリントを配布
参考文献など	特になし

成績評 価の方 法・基準	評価方法	割合(%)	評価基準
	筆記試験	40	学期末に筆記試験 漢字語彙と復習問題
	実技評価	20	漢字語彙の表記、グループでの話し合いの発表
	レポート評価	0	なし
	平常点評価	30	プリントの提出。話し合いなどの協力度。質問などの授業参加度
その他	10	振り返りとアンケートシート	

履修上の注意	前期の基本が後期の応用へつながるので、後期も続けて履修してほしい。前期は硬い語彙の習得や論理的に考える練習をしていくのでノートなどの使い方を指示する。配布物が多いので、クリアホルダーを用意してほしい。
--------	--

連絡先・連絡方法など	東松山教務事務室へ伝言してください
------------	-------------------

その他	文章に使う硬い表現、論理的な考え方を身に付けるのはむずかしい。普段の日常語で文を書くのとは違う。まずは要点をとり、そこから自分の考えを述べていくという練習をする。その後、賛成や反対などの意見と理由を述べる形を身に付ける。こつこつと練習をつんでいくしかないなので、語彙ノートと一緒に作っていくことを考えている。
-----	--

資料・文献読解A

担当教員	木野 景子
曜日・時限・開講期	金曜日 3時限 前期
期間	前期
授業形態	講義
学年	1年生
単位	1
開講キャンパス	東松山

授業の概要	日本の社会問題等を取り上げたテキストを、各課2週ずつのペースで読み進める。2週目には、本文の内容を理解した上で、受講生自身の意見を発信する活動を行う。
授業の到達目標	ゼミでの発表やレポートの作成など、大学生活で必要とされるアカデミックスキルを身につける。本科目では特に、文章を読む力と、読んだ内容に関する意見をもち、議論する力を向上させることを目標とする。
授業の形態	テキストを使用した講義形式である。但し、適宜テキストの内容に関連した意見文の作成や発表、受講生同士のディスカッション等、各自の意見を発信する活動を行う。

	回数	授業内容	担当教員
	授業 計画	第1回	オリエンテーション、シラバス説明、レベルのチェック
第2回		「社内結婚、企業が後押し」(第4章) ①本文読解、知識習得	木野景子
第3回		「社内結婚、企業が後押し」(第4章) ②本文読解、内容理解	木野景子
第4回		「働き方——変わる・変える」(第5章) ①本文読解、知識習得	木野景子
第5回		「働き方——変わる・変える」(第5章) ②本文読解、内容理解	木野景子
第6回		「『輝く女性』とは何なのか—『女性活躍』の現場—」(第2章) ①本文読解、知識習得	木野景子
第7回		「『輝く女性』とは何なのか—『女性活躍』の現場—」(第2章) ②本文読解、内容理解	木野景子
第8回		中間課題、理解度の確認	木野景子
第9回		「買い物弱者」(第7章) ①本文読解、知識習得	木野景子
第10回		「買い物弱者」(第7章) ②本文読解、内容理解	木野景子
第11回		「ノーマライゼーションの地域をつくる」(第9章) ①本文読解、知識習得	木野景子
第12回		「ノーマライゼーションの地域をつくる」(第9章) ②本文読解、内容理解	木野景子
第13回		「学歴とは別のものさしで」(第11章) ①本文読解、知識習得	木野景子
第14回		「学歴とは別のものさしで」(第11章) ②本文読解、内容理解	木野景子
第15回		期末課題、総括	木野景子

授業外の学習	・授業計画で示された本文のテーマについて、インターネットや書籍、論文にアクセスし、どんな問題や主張があるかを調べておく。(事前学習) ・本文で読んだ内容と、事前に調べた事柄を踏まえ、自分の立場を明らかにしたうえで意見文を書く。(事後学習)
--------	--

教科書	宮原彬『留学生のための時代を読み解く上級日本語』第3版 スリーエーネットワーク2018年
-----	--

参考文献など	新垣公弥子『業界必携 知っておきたい専門用語 読み方書き方2800選』青山社2010年 石黒圭・筒井千絵『留学生のためのここが大切文章表現のルール』スリーエーネットワーク2009年
--------	---

成績評価の方法・基準	評価方法	割合(%)	評価基準
	筆記試験	40	期末課題の他、各種小テストも含む。
実技評価	0	特になし	
レポート評価	0	特になし	
平常点評価	60	授業参加・発表等30%、提出物・小レポート等30%。	
その他	0	特になし	

履修上の注意	なし
--------	----

連絡先・連絡方法など	授業の前後に質問を受け付ける。
------------	-----------------

その他	なし
-----	----

集中日本語基礎演習 1 A 7

担当教員	田仲 正江
曜日・時限・開講期	金曜日 1時限 前期
期間	前期
授業形態	演習
学年	1年生
単位	1
開講キャンパス	東松山

授業の概要	「みんなの日本語初級 I」各課の課末問題や会話を使って、学習した文型、表現を文脈と関連付けて理解する。 また、学習した文型、表現を使って、テキストの「会話」の場面と同様の場面で応用する。
授業の到達目標	・初級前半程度（「みんなの日本語初級 I」）の文型を使って、日常会話において自分の気持ちや考えを的確に相手に伝えることができる。 ・相手が言ったり、行ったことに対して、自然な日本語で反応ができる。
授業の形態	・ペア、あるいはグループワークでテキストの「会話」と同じ場面で、自分たちの設定を話し合う。 ・話し合いで作成した会話文を、ペアあるいはグループで何度も、口頭練習をする。 ・ペア、あるいはグループで作成した会話文をクラスで、ロールプレイ形式で発表する。 ・課末問題(前日の宿題)の答え合わせを行う。

	回数	授業内容	担当教員
授業 計画	第1回	1 課-は(も) -です/ではありません 2 課こ/そ/あ/どれは-のです ひらがな	田仲正江
	第2回	3 課こ/そ/あ/どこ-です 4 課時間~から~までV カタカナ	田仲正江
	第3回	5 課-へ/行く来る帰る 6 課-をV カタカナ特殊音	田仲正江
	第4回	7 課-で、あげます/もらいます 8 課い形容詞、な形容詞	田仲正江
	第5回	9 課~ですから 1 0 課-がいます/あります	田仲正江
	第6回	1 1 課助数詞 1 2 課でした/かったです、-は~より	田仲正江
	第7回	1 ~ 1 2 課復習	田仲正江
	第8回	1 3 課-は-がほしい 1 4 課て形、-てください/-ています	田仲正江
	第9回	1 5 課-てもいい/-ています 1 6 課~て~て~ています/-て-です	田仲正江
	第10回	1 7 課ない形でください/なければならぬ 1 8 課辞書形、ことができる/ことです	田仲正江
	第11回	1 9 課た形、たことがある/~たり~たりする 2 0 課常体文	田仲正江
	第12回	2 1 課~と思う/~と言った 2 2 課名詞修飾文	田仲正江
	第13回	2 3 課-とき~/~と~ 2 4 課~てあげる/もらう/くれる	田仲正江
	第14回	2 5 課~たら~ません/~ても~ます 1 3 ~ 1 6 課復習	田仲正江
	第15回	1 7 ~ 2 5 課復習	田仲正江

授業外の学習	各課の語彙の意味調べと復習		
教科書	「みんなの日本語初級 I」スリーエーネットワーク		
参考文献など	「みんなの日本語初級 I」文法解説書 スリーエーネットワーク		
成績評 価の方 法・基準	評価方法	割合(%)	評価基準
	筆記試験	0	なし
	実技評価	0	なし
	レポート評価	0	なし
	平常点評価	50	授業参加度と課題提出
その他	50	授業中に実施する復習クイズと課末問題	
履修上の注意	なし		
連絡先・連絡方法など	授業の前後に質問を受け付ける。東松山国際交流センターへ伝言		
その他	なし		

現代日本の諸相 B

担当教員	正宗 鈴香
曜日・時限・開講期	金曜日 3時限 後期
期間	後期
授業形態	講義
学年	1年生
単位	2
開講キャンパス	東松山

授業の概要	「現代日本の諸相A」に引き続き、この授業では、みなさんが日本で経験する日常的な事柄と関連付けながら、異文化理解の理論をもとに日本文化や日本人の言動などについて理解を深めます。また、テーマについての積極的な討論を通して、グローバル社会で求められる異文化理解力をはじめ、思考力、コミュニケーション力を実践的に身につけていきます。
授業の到達目標	1. 異文化理解やコミュニケーションについて知識を得る 2. 日本文化や日本人の考え方などを多角的な視点から理解する 3. 他者との意見交換を通して思考を深める 4. 文化の多様性や文化背景の異なる人々との交流の意義について追及する 5. 物事を発信する力を身に付ける
授業の形態	ディスカッションを多く取り入れた参加型の授業形態とします。異文化理解やテーマについての知識を得た上で、日本に関する資料等を用いながらディスカッションを行い、多様な考え方を共有する豊かな学びを目指します。また、発信力の習得を目指し、グループ作業・発表も行います。

授業 計画	回数	授業内容	担当教員
	第1回	授業オリエンテーション	正宗鈴香
	第2回	1. 作られる価値観	正宗鈴香
	第3回	2. ジェンダーとフェミニズム	正宗鈴香
	第4回	3. ことばが作る所属意識	正宗鈴香
	第5回	4. 謝罪とレトリカル・シチュエーション	正宗鈴香
	第6回	5. 公共圏とよそ者 6. 他者とのつながり	正宗鈴香
	第7回	7. グループ・組織におけるコミュニケーションのあり方	正宗鈴香
	第8回	興味があるテーマについてプレゼンテーション	正宗鈴香
	第9回	8. グローバルな人間関係	正宗鈴香
	第10回	9. モバイル・コミュニケーショ 10. コンピュータを介したコミュニケーション	正宗鈴香
	第11回	11. コンフリクト・交渉とは 12. 交渉の種類・交渉と感情	正宗鈴香
	第12回	13. 組織とコミュニケーション 14. リーダーシップと部下力	正宗鈴香
	第13回	14. 多言語社会	正宗鈴香
	第14回	興味があるテーマについてプレゼンテーション	正宗鈴香
	第15回	総括	正宗鈴香

授業外の学習	教科書、配布資料を読み、日常的に経験している自分自身の異文化体験に照らし合わせて意見交換できるように準備をしてくること。		
教科書	教科書：藤巻光浩・宮崎新『グローバル社会のコミュニケーション学入門』ひつじ書房		
参考文献など	特になし		
成績評 価の方 法・基準	評価方法	割合(%)	評価基準
	筆記試験	0	実施しない
	実技評価	0	実施しない
	レポート評価	10	期末レポート、学びに対する自己分析 (10%)
	平常点評価	60	授業への参加度 (40%) 予習状況・課題・ふりかえりシート等 (20%)
その他	30	関心を持ったテーマについての発表およびディスカッション (15%×2)	
履修上の注意	授業では積極的な発言が求められます。		
連絡先・連絡方法など	国際交流センター東松山分室へ伝言		
その他	日本に留学している環境を活かし、日本の社会だけではなく、グローバル化する社会で活躍できる人材に必要な力を身に付けることを目標とします。この授業では、ディスカッションの時間を多くとり実践的な力を身に付けていきます。		

資料・文献読解B

担当教員	大河原 尚
曜日・時限・開講期	月曜日 3時限 後期
期間	後期
授業形態	講義
学年	1年生
単位	1
開講キャンパス	東松山

授業の概要	読解も一つのコミュニケーションと考え、著者の主張が述べられた文章から、その主張を読み取るために、どのような読み方をしたらいいかを考えます。そのために、次の3つの質問、つまり(1)文章のテーマは何か、(2)著者がその文章で問題にしていることは何か、(3)その問題に対する著者の主張は何か、を設定し、それぞれの答えを予測しながら文章を読みすすめる練習をします。
授業の到達目標	①文章の構造を意識し、書かれている内容を予測しながら、(1)文章のテーマ、(2)著者がその文章で問題にしていること、(3)その問題に対する著者の主張、の三つを読み取ることができる。 ②上の3点を踏まえて、その文章の内容を自分なりにまとめて、要約できる。
授業の形態	授業では、毎回一つあるいは二つの文章をクラス全員で読みます。 次に、上の3点(テーマ、問題、主張)についてグループ、あるいはペアで話し合います。 その後、文章の構造や各段落の要点について確認・検討し、それを踏まえて、上の3点についてクラス全員で話し合います。 最後に、宿題として、読んだ文章について自分なりに読みとった内容を整理し、上の3点及び要約をまとめます。

授業計画	回数	授業内容	担当教員
	第1回	授業の目的・進め方の説明、自分の読み方を意識する①	大河原尚
	第2回	問題になっていることを見つけて、著者の言いたいことをつかむ①(復習練習1)	大河原尚
	第3回	問題になっていることを見つけて、著者の言いたいことをつかむ②(復習練習2)	大河原尚
	第4回	歴史を扱った文章を読む①(導入、読解のストラテジー)	大河原尚
	第5回	歴史を扱った文章を読む②(実践練習)	大河原尚
	第6回	二項対立を見ぬく①(導入、読解のストラテジー)	大河原尚
	第7回	二項対立を見ぬく②(実践練習)	大河原尚
	第8回	著者の立場を見ぬく①(導入、読解のストラテジー)	大河原尚
	第9回	著者の立場を見ぬく②(実践練習)	大河原尚
	第10回	文章を整理して理解する①(導入、読解のストラテジー)	大河原尚
	第11回	文章を整理して理解する②(実践練習)	大河原尚
	第12回	文章の構造をつかみ、著者の意図(主張)を読み取る①(まとめ練習1)	大河原尚
	第13回	文章の構造をつかみ、著者の意図(主張)を読み取る②(まとめ練習2)	大河原尚
	第14回	文章の構造をつかみ、著者の意図(主張)を読み取る③(まとめ練習3)	大河原尚
	第15回	これまでのまとめ、学期末試験	大河原尚

授業外の学習	授業での活動で扱った文法・語彙・表現はについて、各自で語彙リストやメモを作るなどして整理するようにしてください。		
教科書	一橋大学留学生センター著『留学生のためのストラテジーを使って学ぶ文章の読み方』、スリーイーネットワーク(2005)。(1200円+税)		
参考文献など	特にありません。		
成績評価の方法・基準	評価方法	割合(%)	評価基準
	筆記試験	36	最終授業での試験。
	実技評価	0	特になし。
	レポート評価	0	特になし。
	平常点評価	20	授業中の話し合いにおける積極的な参加(発言など)。
その他	44	授業で読んだ文章の要約(200字以内)の課題。(各4%×11回=44%) 授業で取り上げた文章の構造を過不足なく捉えているかどうか。	
履修上の注意	読解の能力を向上させるには、授業で学んだ内容を実際に自分でやってみることが重要ですので、積極的に授業中の活動に取り組むことが不可欠です。また、授業中の作業において、辞書や各自が作成した語彙リスト等を使用することを奨励します。		
連絡先・連絡方法など	国際交流センターへ伝言。		
その他	授業計画は、受講者の様子を見て変更することがあります。		

資料・文献読解B

担当教員	大河原 尚
曜日・時限・開講期	木曜日 4時限 後期
期間	後期
授業形態	講義
学年	1年生
単位	1
開講キャンパス	東松山

授業の概要	読解も一つのコミュニケーションと考え、著者の主張が述べられた文章から、その主張を読み取るために、どのような読み方をしたらいいかを考えます。そのために、次の3つの質問、つまり(1)文章のテーマは何か、(2)著者がその文章で問題にしていることは何か、(3)その問題に対する著者の主張は何か、を設定し、それぞれの答えを予測しながら文章を読みすすめる練習をします。
授業の到達目標	①文章の構造を意識し、書かれている内容を予測しながら、(1)文章のテーマ、(2)著者がその文章で問題にしていること、(3)その問題に対する著者の主張、の三つを読み取ることができる。 ②上の3点を踏まえて、その文章の内容を自分なりにまとめて、要約できる。
授業の形態	授業では、毎回一つあるいは二つの文章をクラス全員で読みます。 次に、上の3点(テーマ、問題、主張)についてグループ、あるいはペアで話し合います。 その後、文章の構造や各段落の要点について確認・検討し、それを踏まえて、上の3点についてクラス全員で話し合います。 最後に、宿題として、読んだ文章について自分なりに読みとった内容を整理し、上の3点及び要約をまとめます。

授業計画	回数	授業内容	担当教員
	第1回	授業の目的・進め方の説明、自分の読み方を意識する①	大河原尚
	第2回	問題になっていることを見つけて、著者の言いたいことをつかむ①(復習練習1)	大河原尚
	第3回	問題になっていることを見つけて、著者の言いたいことをつかむ②(復習練習2)	大河原尚
	第4回	歴史を扱った文章を読む①(導入、読解のストラテジー)	大河原尚
	第5回	歴史を扱った文章を読む②(実践練習)	大河原尚
	第6回	二項対立を見ぬく①(導入、読解のストラテジー)	大河原尚
	第7回	二項対立を見ぬく②(実践練習)	大河原尚
	第8回	著者の立場を見ぬく①(導入、読解のストラテジー)	大河原尚
	第9回	著者の立場を見ぬく②(実践練習)	大河原尚
	第10回	文章を整理して理解する①(導入、読解のストラテジー)	大河原尚
	第11回	文章を整理して理解する②(実践練習)	大河原尚
	第12回	文章の構造をつかみ、著者の意図(主張)を読み取る①(まとめ練習1)	大河原尚
	第13回	文章の構造をつかみ、著者の意図(主張)を読み取る②(まとめ練習2)	大河原尚
	第14回	文章の構造をつかみ、著者の意図(主張)を読み取る③(まとめ練習3)	大河原尚
	第15回	これまでのまとめ、学期末試験	大河原尚

授業外の学習	授業での活動で扱った文法・語彙・表現はについて、各自で語彙リストやメモを作るなどして整理するようにしてください。		
教科書	一橋大学留学生センター著『留学生のためのストラテジーを使って学ぶ文章の読み方』、スリーイーネットワーク(2005)。(1200円+税)		
参考文献など	特にありません。		
成績評価の方法・基準	評価方法	割合(%)	評価基準
	筆記試験	36	最終授業での試験。
	実技評価	0	特になし。
	レポート評価	0	特になし。
	平常点評価	20	授業中の話し合いにおける積極的な参加(発言など)。
その他	44	授業で読んだ文章の要約(200字以内)の課題。(各4%×11回=44%) 授業で取り上げた文章の構造を過不足なく捉えているかどうか。	
履修上の注意	読解の能力を向上させるには、授業で学んだ内容を実際に自分でやってみることが重要ですので、積極的に授業中の活動に取り組むことが不可欠です。また、授業中の作業において、辞書や各自が作成した語彙リスト等を使用することを奨励します。		
連絡先・連絡方法など	国際交流センターへ伝言。		
その他	授業計画は、受講者の様子を見て変更することがあります。		

資料・文献読解B

担当教員	田中 寛
曜日・時限・開講期	木曜日 3時限 後期
期間	後期
授業形態	講義
学年	1年生
単位	1
開講キャンパス	東松山

授業の概要	大学の講義を理解するために必要最小限度の読解力を身に付けていきます。人文科学、社会科学の分野の論文資料を精選し、正確に意味を把握する力を養成します。さらに学術的な表現、レポートを書く上で特徴的な表現なども学んでいきます。
授業の到達目標	1) 高度な日本語の文章が読めるようになる。 2) 学術論文の特徴を把握し、辞書を用いて読めるようになる。 3) 日本語のさまざまな文章に習熟するようになる。 4) 日本語の分析的な表現が理解できるようになる。
授業の形態	前半 4 5 分をテキスト『読解の森』の精読、後半 4 5 分を資料の読解にあてます。 基本的には講義形態ですが、クラスの人数によってはグループ作業を実施します。

	回数	授業内容	担当教員
授業計画	第1回	『読解の森』第8課の精読(1) 批評文の読解(1)	田中寛
	第2回	『読解の森』第8課の精読(2) 批評文の読解(2)	田中寛
	第3回	『読解の森』第9課の精読(1) 批評文の読解(3)	田中寛
	第4回	『読解の森』第9課の精読(2) 小説、文学作品の読解(1)	田中寛
	第5回	『読解の森』第10課の精読(1) 小説、文学作品の読解(2)	田中寛
	第6回	『読解の森』第10課の精読(2) 小説、文学評論の読解(1)	田中寛
	第7回	『読解の森』第11課の精読(1) 小説、文学評論の読解(2)	田中寛
	第8回	『読解の森』第11課の精読(2) 随筆文の読解(1)	田中寛
	第9回	『読解の森』第12課の精読(1) 随筆文の読解(2)	田中寛
	第10回	『読解の森』第12課の精読(2) 随筆文の読解(3)	田中寛
	第11回	『読解の森』第13課の精読(1) 随筆文の読解(4)	田中寛
	第12回	『読解の森』第13課の精読(2) 学術論文の読解(1)	田中寛
	第13回	『読解の森』第14課の精読 学術論文の読解(2)	田中寛
	第14回	『読解の森』第15課の精読 学術論文の読解(3)	田中寛
	第15回	後期の総括の時間とします。後記試験を実施します。	田中寛

授業外の学習	授業に関連した課題を出し、受講生の各自の成果を授業に活用していきます。
--------	-------------------------------------

教科書	田中寛・応用日本語学研究会編『読解の森』2013(教室で配布します) 新聞、プリント等
-----	--

参考文献など	小森陽一編『夏目漱石、現代を語る 漱石社会評論集』角川新書 2016 田中寛編『現代日本語形式語用例用法辞典』私家版 2014 岩波書店編集部編『動詞的人生』岩波書店 2003
--------	--

成績評価の方法・基準	評価方法	割合(%)	評価基準
	筆記試験	50	後期の内容についての筆記試験。内容を理解しているかどうかを評価します。
	実技評価	15	授業での発表について準備の仕方、発表の方法、伝達理解の面から評価します。
	レポート評価	10	課題に沿ったレポートの提出、要旨などのまとめ方について評価します。
	平常点評価	20	出席率、受講態度、毎回の簡単なクイズの答え方について評価します。
その他	5	指定された課外活動、催し、講演会などへの参加を評価します。	

履修上の注意	前期から続けて受講することが望ましい。「理解とコミュニケーション」も合わせて受講することが望ましい。
--------	--

連絡先・連絡方法など	毎週、火曜日、水曜日、木曜日の昼休み、東松山第二研究棟124号室研究室を開放しています。質問、ご相談はメールでご連絡の上、お越しください。htanaka@ic.daito.ac.jp
------------	---

その他	遅刻、欠席のないように心がけてください。
-----	----------------------

資料・文献読解B

担当教員	幸田 佳子
曜日・時限・開講期	水曜日 2時限 後期
期間	後期
授業形態	講義
学年	1年生
単位	1
開講キャンパス	東松山

授業の概要	速読の練習を行う。一目見て、理解する、少し読んで予測する等、読み方の練習をしていく。速読に合わせての、文章読みをいろいろな文章で行う。
-------	---

授業の到達目標	日本語のいろいろな文章を読んで要点が取れるようになること 筆者の主張をとらえること 語彙を広げること 日本語の背景にある文化や習慣を知っていくこと
---------	--

授業の形態	講義形式、テーマによっては話し合いをする。映像資料も使う
-------	------------------------------

授業計画	回数	授業内容	担当教員
	第1回	授業説明 自己紹介 速読の練習の仕方	幸田佳子
	第2回	速読1 短い文の要点取り 自分の意見を述べる	幸田佳子
	第3回	速読2 短い文の要約	幸田佳子
	第4回	速読3 短い文の要約	幸田佳子
	第5回	速読4 短い文の要約	幸田佳子
	第6回	速読5 短い文の要約	幸田佳子
	第7回	速読6 短い文の要約	幸田佳子
	第8回	速読7 映像から読み取る心理表現1	幸田佳子
	第9回	速読8 映像から読み取る心理表現2	幸田佳子
	第10回	速読9 論説文の読解1	幸田佳子
	第11回	速読10 論説文の読解2	幸田佳子
	第12回	速読11 小説の読解1	幸田佳子
	第13回	速読12 小説の読解2	幸田佳子
	第14回	漢字語彙と表現の復習	幸田佳子
	第15回	漢字語彙・表現の確認テストと文章の要約	幸田佳子

授業外の学習	授業中に書いたレジメは必ず提出すること
--------	---------------------

教科書	特定の教科書は使用しない。記事や雑誌や本のコピーとプリント
-----	-------------------------------

参考文献など	特になし
--------	------

成績評価の方法・基準	評価方法	割合(%)	評価基準
	筆記試験	50	学期末に筆記試験 漢字語彙と復習問題
	実技評価	10	速読の結果
	レポート評価	0	なし
	平常点評価	30	プリント提出、漢字語彙の板書、内容についての質問など
	その他	10	振り返り、アンケートシートの記入

履修上の注意	前期の基本が後期の応用へつながるので、後期も続けて履修してほしい。前期は硬い語彙の習得や論理的に考える練習をしていくのでノートなどの使い方を指示する。配布物が多いので、クリアホルダーを用意してほしい。
--------	--

連絡先・連絡方法など	東松山教務事務室へ伝言してください
------------	-------------------

その他	文章に使う硬い表現、論理的な考え方を身に付けるのはむずかしい。普段の日常語で文を書くのとは違う。まずは要点をとり、そこから自分の考えを述べていくという練習をする。その後、賛成や反対などの意見と理由を述べる形を身に付ける。こつこつと練習をつんでいくなので、語彙ノートを一緒に作っていくことを考えている。
-----	--

資料・文献読解B

担当教員	木野 景子
曜日・時限・開講期	金曜日 3時限 後期
期間	後期
授業形態	講義
学年	1年生
単位	1
開講キャンパス	東松山

授業の概要	前期に続き、日本の社会問題等を取り上げたテキストを、各課2週ずつのペースで読み進める。2週目には、本文の内容を理解した上で、受講生自身の意見を発信する活動を行う。
-------	---

授業の到達目標	ゼミでの発表やレポートの作成など、大学生活で必要とされるアカデミックスキルを身につける。本科目では特に、文章を読む力と、読んだ内容に関する意見をもち、議論する力を向上させることを目標とする。
---------	---

授業の形態	テキストを使用した講義形式である。但し、適宜テキストの内容に関連した意見文の作成や発表、受講生同士のディスカッション等、各自の意見を発信する活動を行う。
-------	--

授業 計画	回数	授業内容	担当教員
	第1回	オリエンテーション、シラバス説明、レベルのチェック	木野景子
	第2回	「主権者教育」(第13章) ①本文読解、知識習得	木野景子
	第3回	「主権者教育」(第13章) ②本文読解、内容理解	木野景子
	第4回	「日本的性別分業とM字型雇用カーブ」(第16章) ①本文読解、知識習得	木野景子
	第5回	「日本的性別分業とM字型雇用カーブ」(第16章) ②本文読解、内容理解	木野景子
	第6回	「なぜコミュニケーション能力か」(第18章) ①本文読解、知識習得	木野景子
	第7回	「なぜコミュニケーション能力か」(第18章) ②本文読解、内容理解	木野景子
	第8回	中間課題、理解度の確認	木野景子
	第9回	「AIは人間の仕事を奪ってしまうのか」(第21章) ①本文読解、知識習得	木野景子
	第10回	「AIは人間の仕事を奪ってしまうのか」(第21章) ②本文読解、内容理解	木野景子
	第11回	「ビッグデータ社会」(第22章) ①本文読解、知識習得	木野景子
	第12回	「ビッグデータ社会」(第22章) ②本文読解、内容理解	木野景子
	第13回	「検証の壁、挑み続ける科学者—地球温暖化問題—」(第25章) ①本文読解、知識習得	木野景子
	第14回	「検証の壁、挑み続ける科学者—地球温暖化問題—」(第25章) ②本文読解、内容理解	木野景子
	第15回	期末課題、総括	木野景子

授業外の学習	・授業計画で示された本文のテーマについて、インターネットや書籍、論文にアクセスし、どんな問題や主張があるかを調べておく。(事前学習) ・本文で読んだ内容と、事前に調べた事柄を踏まえ、自分の立場を明らかにしたうえで意見文を書く。(事後学習)
--------	--

教科書	宮原彬『留学生のための時代を読み解く上級日本語』第3版 スリーエーネットワーク2018年
-----	--

参考文献など	新垣公弥子『業界必携 知っておきたい専門用語 読み方書き方2800選』青山社2010年 石黒圭・筒井千絵『留学生のためのここが大切文章表現のルール』スリーエーネットワーク2009年
--------	---

成績評 価の方 法・基準	評価方法	割合(%)	評価基準
	筆記試験	40	期末課題の他、各種小テストも含む。
	実技評価	0	特になし
	レポート評価	0	特になし
	平常点評価	60	授業参加・発表等30%、提出物・小レポート等30%。
その他	0	特になし	

履修上の注意	なし
--------	----

連絡先・連絡方法など	授業の前後に質問を受け付ける。
------------	-----------------

その他	なし
-----	----

集中日本語基礎演習 1 A 8

担当教員	正宗 鈴香
曜日・時限・開講期	金曜日 2時限 前期
期間	前期
授業形態	演習
学年	1年生
単位	1
開講キャンパス	東松山

授業の概要	日本語初級前半レベルの語彙と文法・文型を教科書にもとづき体系的に理解および整理し、使い方を習得する。
授業の到達目標	1. 初級前半レベルの語彙、文法・文型を使って、自分の意見や事実を文章で表現できるようになる。 2. クラスメイトや先生からの意見やアドレスをもとに、自分で書きなおす力をつける。
授業の形態	毎回の授業では、テーマを設定し、そこで必要な文型や語彙等を会話によるやり取りを通して確認する。また、書いた文章をより豊かな内容や表現にするためにペアワークやグループワークを行う。

授業計画	回数	授業内容	担当教員
	第1回	オリエンテーション、シラバス説明、レベルチェック	正宗鈴香
	第2回	表記の練習、短文作成	正宗鈴香
	第3回	表記の練習、短文作成	正宗鈴香
	第4回	やさしい作文：自己紹介(1)	正宗鈴香
	第5回	やさしい作文：自己紹介(2)	正宗鈴香
	第6回	やさしい作文：私の部屋(1)	正宗鈴香
	第7回	やさしい作文：私の部屋(2)	正宗鈴香
	第8回	やさしい作文：私の国・町 (1)	正宗鈴香
	第9回	やさしい作文：私の国・町 (2)	正宗鈴香
	第10回	中間テスト やさしい作文：私の家族(1)	正宗鈴香
	第11回	やさしい作文：私の家族(2)	正宗鈴香
	第12回	やさしい作文：週末(1)	正宗鈴香
	第13回	やさしい作文：週末(2)	正宗鈴香
	第14回	やさしい作文：はがき	正宗鈴香
第15回	期末試験、まとめ・ふりかえり	正宗鈴香	

授業外の学習	1. 授業前に作文のテーマに関連する言葉を調べてくる。 2. 授業前に作文のテーマについて何を書くか考えてくる。 3. 授業後は授業中に先生から指摘されたことについて見直し、書き直す。
--------	--

教科書	「みんなの日本語初級 やさしい作文」
-----	--------------------

参考文献など	「みんなの日本語初級 I 本冊」スリーエネットワーク 「みんなの日本語初級 I 翻訳・文法解説」スリーエネットワーク 「みんなの日本語初級 I 書いて覚える文型練習帳」スリーエネットワーク
--------	--

成績評価の方法・基準	評価方法	割合(%)	評価基準
	筆記試験	40	中間試験、期末試験
	実技評価	0	特になし
	レポート評価	0	特になし
	平常点評価	60	授業における参加度、宿題、各テーマの提出物
その他	0	特になし	

履修上の注意	原則として、交換留学生を対象とし、学期はじめのプレースメント試験の結果によって履修者を決めます。
--------	--

連絡先・連絡方法など	国際交流センター東松山分室へ伝言
------------	------------------

その他	積極的に授業に取り組んでください。楽しみながら日本語力を身に付けましょう。
-----	---------------------------------------

集中日本語基礎演習 1 B 1

担当教員	梁取 久美子
曜日・時限・開講期	火曜日 1時限 後期
期間	後期
授業形態	演習
学年	1年生
単位	1
開講キャンパス	東松山

授業の概要	初級前半レベルの文法・文型の知識を、初級教科書にもとづいて理解・整理する。また、文型、例文、練習、会話などを通して基本的な使用例、自然な会話を学習する。
授業の到達目標	(1)基礎知識を習得するだけでなく、それを運用し、コミュニケーションが円滑にできる。 (2)日常会話によく使われる言いまわし、あいさつ言葉などが表現できる。
授業の形態	講義形式でおこなう。

授業 計画	回数	授業内容	担当教員
	第1回	教科書: 第1課 名詞文	梁取久美子
	第2回	教科書: 第3課 場所の言い方(ここ、そこ、あそこ)	梁取久美子
	第3回	教科書: 第5課 疑問詞 動詞文 動詞の過去形	梁取久美子
	第4回	教科書: 第7課 手段・方法(~で) もらう・あげる	梁取久美子
	第5回	教科書: 第9課 好き・嫌い・上手を表す文型	梁取久美子
	第6回	教科書: 第11課 助数詞 名詞文	梁取久美子
	第7回	教科書: 復習 1課から12課	梁取久美子
	第8回	教科書: 第13課 希望・願望を表す言い方 目的の「に」	梁取久美子
	第9回	教科書: 第14課 「て形」の復習・練習	梁取久美子
	第10回	教科書: 第15課 許可・許容を求める言い方 状態を表す「～ています」	梁取久美子
	第11回	教科書: 第17課 動詞の「ない形」 依頼・指示の言い方	梁取久美子
	第12回	教科書: 第19課 経験を言う言い方 複数の行動を表す(~たり~たり) 変化の言い方	梁取久美子
	第13回	教科書: 第21課 自分の考えを述べる言い方 直接話法と間接話法	梁取久美子
	第14回	教科書: 第23課 「～とき」の言い方 必然的に後件が成立する「～と」	梁取久美子
	第15回	理解度の確認テストとまとめ	梁取久美子

授業外の学習	毎回、宿題を出す。		
教科書	「みんなの日本語 1」		
参考文献など	なし		
成績評 価の方 法・基準	評価方法	割合(%)	評価基準
	筆記試験	60	学期末テスト
	実技評価	0	特になし
	レポート評価	0	特になし
	平常点評価	40	授業への参加度
その他	0	特になし	
履修上の注意	原則として交流学生のみを対象とする。		
連絡先・連絡方法など	国際交流センター(東松山)へ伝言		
その他	ありません		

集中日本語基礎演習 1 B 2

担当教員	梁取 久美子
曜日・時限・開講期	火曜日 2時限 後期
期間	後期
授業形態	演習
学年	1年生
単位	1
開講キャンパス	東松山

授業の概要	初級前半レベルの文法・文型の知識を、初級教科書にもとづいて理解・整理する。また、文型、例文、練習、会話などを通して基本的な使用例、自然な会話を学習する。
授業の到達目標	(1)基礎知識を習得するだけでなく、それを運用し、コミュニケーションが円滑にできる。 (2)日常会話によく使われる言いまわし、あいさつ言葉、終助詞などが表現できる。
授業の形態	講義形式でおこなう。

授業 計画	回数	授業内容	担当教員
	第1回	教科書: 第1課 名詞文	梁取久美子
	第2回	教科書: 第3課 場所の言い方(ここ、そこ、あそこ)	梁取久美子
	第3回	教科書: 第5課 疑問詞 動詞文 動詞の過去形	梁取久美子
	第4回	教科書: 第7課 手段・方法(~で) もらう・あげる	梁取久美子
	第5回	教科書: 第9課 好き・嫌い・上手を表す文型	梁取久美子
	第6回	教科書: 第11課 助数詞 名詞文	梁取久美子
	第7回	教科書: 復習 1課から12課	梁取久美子
	第8回	教科書: 第13課 希望・願望を表す言い方 目的の「に」	梁取久美子
	第9回	教科書: 第14課 「て形」の復習・練習	梁取久美子
	第10回	教科書: 第15課 許可・許容を求める言い方 状態を表す「～ています」	梁取久美子
	第11回	教科書: 第17課動詞の「ない形」 依頼・指示の言い方	梁取久美子
	第12回	教科書: 第19課 経験を言う言い方 複数の行動を表す(~たり~たり) 変化の言い方	梁取久美子
	第13回	教科書: 第21課 自分の考えを述べる言い方 直接話法と間接話法	梁取久美子
	第14回	教科書: 第23課 「～とき」の言い方 必然的に後件が成立する「～と」	梁取久美子
	第15回	理解度の確認テストとまとめ	梁取久美子

授業外の学習	毎回、宿題を出す。		
教科書	「みんなの日本語1」		
参考文献など	なし		
成績評 価の方 法・基準	評価方法	割合(%)	評価基準
	筆記試験	60	学期末テスト
	実技評価	0	特になし
	レポート評価	0	特になし
	平常点評価	40	授業への参加度
その他	0	特になし	
履修上の注意	原則として交流学生のみを対象とする。		
連絡先・連絡方法など	国際交流センター(東松山)へ伝言		
その他	ありません		

集中日本語基礎演習 1 B 3

担当教員	中原 なおみ
曜日・時限・開講期	水曜日 1時限 後期
期間	後期
授業形態	演習
学年	1年生
単位	1
開講キャンパス	東松山

授業の概要	初級中盤～後半レベルの文法・文型の知識を、理解・整理し、実場面で使えるように会話的な要素を盛り込みながら、練習し、発表する。
授業の到達目標	初級中盤～後半の文型、文法がどのような場面や文脈で使用されるのかといった、運用に際しての文脈的知識を身につけ、実場面において、相手の言うことを理解し、スムーズに自身の意見や意向を発信する力をつける。
授業の形態	初級レベルの項目を整理し、文型や表現、語彙の定着を図るため、ペアやグループワークによって発話練習を行う。 必要に応じてP C教材を用い、動画などを参照して、より自然なやりとりについて意見を出し合う。

授業 計画	回数	授業内容	担当教員
	第1回	イントロダクション・レベルチェック	中原なおみ
	第2回	動詞、形容詞、名詞の形とこれまで勉強した様々な表現の復習	中原なおみ
	第3回	普通形を使った表現 1「～と思う、～と言う」	中原なおみ
	第4回	普通形を使った表現 2「連体修飾」	中原なおみ
	第5回	授受表現	中原なおみ
	第6回	条件の表現1「～たら、～ても」	中原なおみ
	第7回	状況を説明する。「～んです」	中原なおみ
	第8回	自動詞、他動詞	中原なおみ
	第9回	意志や予定について話す。「～う、よう」	中原なおみ
	第10回	条件の表現2「～ば、なら」	中原なおみ
	第11回	受身の表現	中原なおみ
	第12回	字体の様子について説明する。「～そう」	中原なおみ
	第13回	伝言する。「～そう」	中原なおみ
	第14回	使役の表現	中原なおみ
	第15回	丁寧な場面で話す。(敬語)	中原なおみ

授業外の学習	前回学習した文型項目、表現の復習。		
教科書	「みんなの日本語初級1・2」(スリーエーネットワーク)		
参考文献など	「みんなの日本語初級1・2文型練習帳」(スリーエーネットワーク)		
成績評価の方法・基準	評価方法	割合(%)	評価基準
	筆記試験	40	学期末試験の成績 学期中の小テストの成績
	実技評価	0	特になし
	レポート評価	0	特になし
	平常点評価	60	授業への参加度 宿題の提出
その他	0	特になし	
履修上の注意	原則として交流学生のみを対象とし、学期初めのプレースメント試験の結果によって履修者を定める。		
連絡先・連絡方法など	国際交流センター事務室へ伝言		
その他	特になし		

集中日本語基礎演習 1 B 4

担当教員	中原 なおみ
曜日・時限・開講期	水曜日 2時限 後期
期間	後期
授業形態	演習
学年	1年生
単位	1
開講キャンパス	東松山

授業の概要	日本語の文字である、ひらがな、カタカナ、漢字を体系的に学習し、初級テキスト「みんなの日本語 1」にでてくる語彙を覚え、ひらがな、カタカナ、漢字を正しく読んだり書いたりできるようにする。
授業の到達目標	1、ひらがな、カタカナ、漢字を体系的に理解し、その意味、機能を理解して日常的に使用できるようにする。 2、漢字については、知らないものを見ても、これまでに得た知識を利用し、意味を推測したり、読んだりできるようにする。
授業の形態	講義、グループ作業、発表など。 日本語の文字（ひらがな・カタカナ・漢字）について理解し、使えるようにするため、カードを使ってペアやグループ作業をしたり、自身で調べたことを発表したりする。

授業 計画	回数	授業内容	担当教員
	第1回	イントロダクション 日本語の文字についてのプレースメントテスト	中原なおみ
	第2回	ひらがな 1	中原なおみ
	第3回	ひらがな 2	中原なおみ
	第4回	ひらがな 3	中原なおみ
	第5回	カタカナ 4	中原なおみ
	第6回	カタカナ 5	中原なおみ
	第7回	漢字 6	中原なおみ
	第8回	漢字 7	中原なおみ
	第9回	漢字 8	中原なおみ
	第10回	漢字 9	中原なおみ
	第11回	漢字 10	中原なおみ
	第12回	漢字 11	中原なおみ
	第13回	漢字 12	中原なおみ
	第14回	漢字 13	中原なおみ
第15回	まとめと復習	中原なおみ	

授業外の学習	1. その週に扱った内容の復習。 2. 教師の配布した復習用のプリント。		
教科書	特に使わない。授業内でプリントを配布。		
参考文献など	「みんなの日本語 1		
成績評 価の方 法・基準	評価方法	割合(%)	評価基準
	筆記試験	60	学期末試験の成績 学期中の小テストの成績
	実技評価	0	特になし
	レポート評価	0	特になし
	平常点評価	40	宿題の提出 授業への参加度
その他	0	特になし	
履修上の注意	原則として交流学生のみを対象とし、学期初めのプレースメント試験の結果によって履修者を定める。		
連絡先・連絡方法など	国際交流センター事務室へ伝言		
その他	なし		

集中日本語基礎演習 1 B 5

担当教員	木戸 恵子
曜日・時限・開講期	木曜日 1時限 後期
期間	後期
授業形態	演習
学年	1年生
単位	1
開講キャンパス	東松山

授業の概要	日本で生活するために必要な基礎的な日本語のことばと文法を学習し、話したり、書いたりできるように練習する。
授業の到達目標	日常生活で、日本語で自分のお願い、気持ち、意見などが言えるようになる。また、日本人の話を聞いてわかるようになる。
授業の形態	1 ことばの意味を確かめる。そして、そのことばを使う練習をする。 2 日本語の文の形と意味を確かめ、練習問題を解く。そして、自分で文を作ってみる。 3 学習したことばと文法を使って、会話を作って、クラスで発表する。

授業 計画	回数	授業内容	担当教員
	第1回	・イントロダクション ・レベルチェック	木戸恵子
	第2回	・『みんなの日本語初級 I』第2課 練習A&B他	木戸恵子
	第3回	・『みんなの日本語初級 I』第4課 練習A&B他	木戸恵子
	第4回	・『みんなの日本語初級 I』第6課 練習A&B他	木戸恵子
	第5回	・『みんなの日本語初級 I』第8課 練習A&B他	木戸恵子
	第6回	・『みんなの日本語初級 I』第10課 練習A&B他	木戸恵子
	第7回	・『みんなの日本語初級 I』第12課 練習A&B他 ・第6回までの復習	木戸恵子
	第8回	・中間テスト ・『みんなの日本語初級 I』第12課 練習A&B他	木戸恵子
	第9回	・『みんなの日本語初級 I』第14課 練習A&B他	木戸恵子
	第10回	・『みんなの日本語初級 I』第16課 練習A&B他	木戸恵子
	第11回	・『みんなの日本語初級 I』第18課 練習A&B他	木戸恵子
	第12回	・『みんなの日本語初級 I』第20課 練習A&B他	木戸恵子
	第13回	・『みんなの日本語初級 I』第22課 練習A&B他	木戸恵子
	第14回	・『みんなの日本語初級 I』第24課 練習A&B他 ・復習	木戸恵子
第15回	・学期末テスト ・まとめ	木戸恵子	

授業外の学習	1 わからないことばを辞書で調べる。 2 宿題をする。 3 学習したことばや文法を覚える。		
教科書	『みんなの日本語初級 I 本冊』 『みんなの日本語初級 I 翻訳・文法解説』		
参考文献など	『みんなの日本語初級 I 書いて覚える文型練習帳』		
成績評 価の方 法・基準	評価方法	割合(%)	評価基準
	筆記試験	60	中間テスト・学期末テスト
	実技評価	0	なし
	レポート評価	0	なし
	平常点評価	40	授業における参加度、小テスト、宿題
その他	0	なし	
履修上の注意	この授業は集中日本語基礎演習 1 B6に続くので、1B6も受講することが望ましい。		
連絡先・連絡方法など	国際交流センター事務室へ伝言。		
その他	なし		

集中日本語基礎演習 1 B 6

担当教員	木戸 恵子
曜日・時限・開講期	木曜日 2時限 後期
期間	後期
授業形態	演習
学年	1年生
単位	1
開講キャンパス	東松山

授業の概要	日本で生活するために必要な基礎的な日本語のことばと文法を学習し、話したり、書いたりできるように練習する。
授業の到達目標	日常生活で、日本語で自分のお願い、気持ち、意見などが言えるようになる。また、日本人の話を聞いてわかるようになる。
授業の形態	1 ことばの意味を確かめる。そして、そのことばを使う練習をする。 2 日本語の文の形と意味を確かめ、練習問題を解く。そして、自分で文を作ってみる。 3 学習したことばと文法を使って、会話を作って、クラスで発表する。

授業 計画	回数	授業内容	担当教員
	第1回	・イントロダクション ・レベルチェック	木戸恵子
	第2回	・『みんなの日本語初級 I』第2課 練習A&B他	木戸恵子
	第3回	・『みんなの日本語初級 I』第4課 練習A&B他	木戸恵子
	第4回	・『みんなの日本語初級 I』第6課 練習A&B他	木戸恵子
	第5回	・『みんなの日本語初級 I』第8課 練習A&B他	木戸恵子
	第6回	・『みんなの日本語初級 I』第10課 練習A&B他	木戸恵子
	第7回	・『みんなの日本語初級 I』第12課 練習A&B他 ・第6回までの復習	木戸恵子
	第8回	・中間テスト ・『みんなの日本語初級 I』第12課 練習A&B他	木戸恵子
	第9回	・『みんなの日本語初級 I』第14課 練習A&B他	木戸恵子
	第10回	・『みんなの日本語初級 I』第16課 練習A&B他	木戸恵子
	第11回	・『みんなの日本語初級 I』第18課 練習A&B他	木戸恵子
	第12回	・『みんなの日本語初級 I』第20課 練習A&B他	木戸恵子
	第13回	・『みんなの日本語初級 I』第22課 練習A&B他	木戸恵子
	第14回	・『みんなの日本語初級 I』第24課 練習A&B他 ・復習	木戸恵子
第15回	・学期末テスト ・まとめ	木戸恵子	

授業外の学習	1 わからないことばを辞書で調べる。 2 宿題をする。 3 学習したことばや文法を覚える。		
教科書	『みんなの日本語初級 I 本冊』 『みんなの日本語初級 I 翻訳・文法解説』		
参考文献など	『みんなの日本語初級 I 書いて覚える文型練習帳』		
成績評 価の方 法・基準	評価方法	割合(%)	評価基準
	筆記試験	60	中間テスト・学期末テスト
	実技評価	0	なし
	レポート評価	0	なし
	平常点評価	40	授業における参加度、小テスト、宿題
その他	0	なし	
履修上の注意	この授業は1B5の続きの授業なので、1B5も受講することが望ましい。		
連絡先・連絡方法など	国際交流センター事務室へ伝言。		
その他	なし		

集中日本語基礎演習 1 B 7

担当教員	田仲 正江
曜日・時限・開講期	金曜日 1時限 後期
期間	後期
授業形態	演習
学年	1年生
単位	1
開講キャンパス	東松山

授業の概要	①「みんなの日本語初級Ⅰ、Ⅱ」の主に練習C・会話、及び課末問題にあるトピック。 ②テキスト（第27課まで）に学習する語彙と文型。
授業の到達目標	・初級前半程度（「みんなの日本語初級Ⅱ（第27課まで）」）の文型を使って、日常会話において自分の気もちや考えを的確に相手に伝えることができる。 ・相手が言ったり、行ったことに対して、自然な日本語で反応ができる。
授業の形態	・ペア、あるいはグループワークでテキストの「会話」と同じ場面で、自分たちの設定を話し合う。 ・話し合いで作成した会話文を、ペアあるいはグループで何度も、口頭練習をする。 ・ペア、あるいはグループで作成した会話文をクラスで、ロールプレイ形式で発表する。 ・課末問題(前日の宿題)の答え合わせを行う。 ・課末問題の回答の説明を教師から聞く。

	回数	授業内容	担当教員
授業 計画	第1回	1 課-は(も) -です/ではありません 2 課こ/そ/あ/どれは-のです ひらがな	田仲正江
	第2回	3 課こ/そ/あ/どこ-です 4 課時間~から~までV カタカナ	田仲正江
	第3回	5 課-へ/行く来る帰る 6 課-をV カタカナ特殊音	田仲正江
	第4回	7 課-で、あげます/もらいます 8 課い形容詞、な形容詞	田仲正江
	第5回	9 課~ですから 1 0 課-がいます/あります	田仲正江
	第6回	1 1 課助数詞 1 2 課でした/かったです、-は~より	田仲正江
	第7回	1 ~ 1 2 課復習	田仲正江
	第8回	1 3 課-は-がほしい 1 4 課て形、-てください/-ています	田仲正江
	第9回	1 5 課-てもいい/-ています 1 6 課~て~て~ています/-て-です	田仲正江
	第10回	1 7 課ない形でください/なければならない 1 8 課辞書形、ことができる/ことです	田仲正江
	第11回	1 9 課た形、たことがある/~たり~たりする 2 0 課常体文	田仲正江
	第12回	2 1 課~と思う/~と言った 2 2 課名詞修飾文	田仲正江
	第13回	2 3 課-とき~/~と~ 2 4 課~てあげる/もらう/くれる	田仲正江
	第14回	2 5 課~たら~ません/~ても~ます 1 3 ~ 1 6 課復習	田仲正江
	第15回	1 7 ~ 2 5 課復習	田仲正江

授業外の学習	各課の語彙の意味調べと復習
教科書	「スリーエーネットワーク初級Ⅰ」スリーエーネットワーク
参考文献など	「スリーエーネットワーク初級Ⅰ文法解説書」スリーエーネットワーク

成績評 価の方 法・基準	評価方法	割合(%)	評価基準
	筆記試験	0	なし(3)
	実技評価	0	なし
	レポート評価	0	なし
	平常点評価	50	授業参加度と課題提出
その他	50	授業中に実施する復習クイズと課末問題	

履修上の注意	なし
連絡先・連絡方法など	授業の前・後で質問は受け付ける。東松山国際交流センターへ伝言
その他	なし

集中日本語基礎演習 1 B 8

担当教員	正宗 鈴香
曜日・時限・開講期	金曜日 2時限 後期
期間	後期
授業形態	演習
学年	1年生
単位	1
開講キャンパス	東松山

授業の概要	初級前半レベルの語彙と文法・文型を教科書にもとづき体系的に理解および整理し、使い方を習得する。
授業の到達目標	1. 初級前半レベルの語彙、文法・文型を使って、自分の意見や事実を文章で表現できるようになる。 2. クラスメイトや先生からの意見やアドレスをもとに、自分で書きなおす力をつける。
授業の形態	毎回の授業では、テーマを設定し、そこで必要な文型や語彙等を会話によるやり取りを通して確認する。また、書いた文章をより豊かな内容や表現にするためにペアワークやグループワークを行う。

授業 計画	回数	授業内容	担当教員
	第1回	オリエンテーション、シラバス説明、レベルチェック	正宗鈴香
	第2回	表記の練習、短文作成	正宗鈴香
	第3回	表記の練習、短文作成	正宗鈴香
	第4回	やさしい作文：自己紹介(1)	正宗鈴香
	第5回	やさしい作文：自己紹介(2)	正宗鈴香
	第6回	やさしい作文：私の部屋(1)	正宗鈴香
	第7回	やさしい作文：私の部屋(2)	正宗鈴香
	第8回	やさしい作文：私の国・町 (1)	正宗鈴香
	第9回	やさしい作文：私の国・町 (2)	正宗鈴香
	第10回	中間テスト やさしい作文：私の家族(1)	正宗鈴香
	第11回	やさしい作文：私の家族(2)	正宗鈴香
	第12回	やさしい作文：週末(1)	正宗鈴香
	第13回	やさしい作文：週末(2)	正宗鈴香
	第14回	やさしい作文：はがき	正宗鈴香
	第15回	期末試験、まとめ・ふりかえり	正宗鈴香

授業外の学習	1. 授業前に作文のテーマに関連する言葉を調べてくる。 2. 授業前に作文のテーマについて何を書くか考えてくる。 3. 授業後は授業中に先生から指摘されたことについて見直し、書き直す。
--------	--

教科書	「みんなの日本語初級 やさしい作文」
-----	--------------------

参考文献など	「みんなの日本語初級 I 本冊」スリーエネットワーク 「みんなの日本語初級 I 翻訳・文法解説」スリーエネットワーク 「みんなの日本語初級 I 書いて覚える文型練習帳」スリーエネットワーク
--------	--

成績評 価の方 法・基準	評価方法	割合(%)	評価基準
	筆記試験	40	中間試験、期末試験
	実技評価	0	特になし
	レポート評価	0	特になし
	平常点評価	60	授業における参加度、宿題、各テーマの提出物
その他	0	特になし	

履修上の注意	原則として、交換留学生を対象とし、学期はじめのプレースメント試験の結果によって履修者を決めます。
--------	--

連絡先・連絡方法など	国際交流センター東松山分室へ伝言
------------	------------------

その他	積極的に授業に取り組んでください。楽しみながら日本語力を身に付けましょう。
-----	---------------------------------------

集中日本語基礎演習 2 A 1

担当教員	中原 なおみ
曜日・時限・開講期	火曜日 1時限 前期
期間	前期
授業形態	演習
学年	1年生
単位	1
開講キャンパス	東松山

授業の概要	初級中盤～後半レベルの文法・文型の知識を、理解・整理し、実場面で使えるように会話的な要素を盛り込みながら、練習し、発表する。
授業の到達目標	初級中盤～後半の文型、文法がどのような場面や文脈で使用されるのかといった、運用に際しての文脈的知識を身につけ、実場面において、相手の言うことを理解し、スムーズに自身の意見や意向を発信する力をつける。
授業の形態	初級レベルの項目を整理し、文型や表現、語彙の定着を図るため、ペアやグループワークによって発話練習を行う。 必要に応じて P C 教材を用い、動画などを参照して、より自然なやりとりについて意見を出し合う。

授業 計画	回数	授業内容	担当教員
	第1回	イントロダクション・レベルチェック	中原なおみ
	第2回	動詞、形容詞、名詞の形とこれまで勉強した様々な表現の復習	中原なおみ
	第3回	普通形を使った表現 1「～と思う、～と言う」	中原なおみ
	第4回	普通形を使った表現 2「連体修飾」	中原なおみ
	第5回	授受表現	中原なおみ
	第6回	条件の表現 1「～たら、～ても」	中原なおみ
	第7回	状況を説明する。「～んです」	中原なおみ
	第8回	自動詞、他動詞	中原なおみ
	第9回	意志や予定について話す。「～う、よう」	中原なおみ
	第10回	条件の表現 2「～ば、なら」	中原なおみ
	第11回	受身の表現	中原なおみ
	第12回	字体の様子について説明する。「～そう」	中原なおみ
	第13回	伝言する。「～そう」	中原なおみ
	第14回	使役の表現	中原なおみ
	第15回	丁寧な場面で話す。(敬語)	中原なおみ

授業外の学習	前回学習した文型項目、表現の復習。		
教科書	「みんなの日本語初級 1・2」(スリーエーネットワーク)		
参考文献など	「みんなの日本語初級 1・2 文型練習帳」(スリーエーネットワーク)		
成績評価の方法・基準	評価方法	割合(%)	評価基準
	筆記試験	40	学期末試験の成績 学期中の小テストの成績
	実技評価	0	特になし
	レポート評価	0	特になし
	平常点評価	60	授業への参加度 宿題の提出
その他	0	特になし	
履修上の注意	原則として交流学生のみを対象とし、学期初めのプレースメント試験の結果によって履修者を定める。		
連絡先・連絡方法など	国際交流センター事務室へ伝言		
その他	特になし		

集中日本語基礎演習 2 A 2

担当教員	中原 なおみ
曜日・時限・開講期	火曜日 2時限 前期
期間	前期
授業形態	演習
学年	1年生
単位	1
開講キャンパス	東松山

授業の概要	初級中盤～後半レベルの文法・文型の知識を、理解・整理し、実場面で使えるように会話的な要素を盛り込みながら、練習し、発表する。
授業の到達目標	初級中盤～後半の文型、文法がどのような場面や文脈で使用されるのかといった、運用に際しての文脈的知識を身につけ、実場面において、相手の言うことを理解し、スムーズに自身の意見や意向を発信する力をつける。
授業の形態	初級レベルの項目を整理し、文型や表現、語彙の定着を図るため、ペアやグループワークによって発話練習を行う。 必要に応じて P C 教材を用い、動画などを参照して、より自然なやりとりについて意見を出し合う。

授業 計画	回数	授業内容	担当教員
	第1回	イントロダクション・レベルチェック	中原なおみ
	第2回	動詞、形容詞、名詞の形とこれまで勉強した様々な表現の復習	中原なおみ
	第3回	普通形を使った表現 1「～と思う、～と言う」	中原なおみ
	第4回	普通形を使った表現 2「連体修飾」	中原なおみ
	第5回	授受表現	中原なおみ
	第6回	条件の表現 1「～たら、～ても」	中原なおみ
	第7回	状況を説明する。「～んです」	中原なおみ
	第8回	自動詞、他動詞	中原なおみ
	第9回	意志や予定について話す。「～う、よう」	中原なおみ
	第10回	条件の表現 2「～ば、なら」	中原なおみ
	第11回	受身の表現	中原なおみ
	第12回	字体の様子について説明する。「～そう」	中原なおみ
	第13回	伝言する。「～そう」	中原なおみ
	第14回	使役の表現	中原なおみ
	第15回	丁寧な場面で話す。(敬語)	中原なおみ

授業外の学習	前回学習した文型項目、表現の復習。
--------	-------------------

教科書	「みんなの日本語初級 1・2」(スリーエーネットワーク)
-----	------------------------------

参考文献など	「みんなの日本語初級 1・2 文型練習帳」(スリーエーネットワーク)
--------	------------------------------------

成績評 価の方 法・基準	評価方法	割合(%)	評価基準
	筆記試験	40	学期末試験の成績 学期中の小テストの成績
	実技評価	0	特になし
	レポート評価	0	特になし
	平常点評価	60	授業への参加度 宿題の提出
その他	0	特になし	

履修上の注意	原則として交流学生のみを対象とし、学期初めのプレースメント試験の結果によって履修者を定める。
--------	--

連絡先・連絡方法など	国際交流センター事務室へ伝言
------------	----------------

その他	特になし
-----	------

集中日本語基礎演習 2 A 3

担当教員	木戸 恵子
曜日・時限・開講期	水曜日 1時限 前期
期間	前期
授業形態	演習
学年	1年生
単位	1
開講キャンパス	東松山

授業の概要	日常生活で、日本語後半レベルの文法・ことばを正確に使えるように、話す・書く・読む・聞くの練習を行う。
授業の到達目標	1 文法・ことばを正確に覚える。 2 自分の身近な話題について、説明、意見、感想などを書いたり、話したりできるようになる。 3 短い文章などが読めるようになる。 4 会話を聞いて、わかるようになる。
授業の形態	1 教科書にある文法の練習問題を解く。 2 初級後半のことばを使い、簡単な文や短い作文を書き、クラスで発表する。 3 会話教材を聞き、会話の内容や表現を聞き取る練習をする。 4 読み物教材を読み、内容理解の問題を解いたり、クラスで感想を話し合ったりする。

授業 計画	回数	授業内容	担当教員
	第1回	イントロダクション・レベルチェック	木戸恵子
	第2回	『みんなの日本語初級Ⅱ』26・27課 文法・読解・聴解などの練習問題	木戸恵子
	第3回	『みんなの日本語初級Ⅱ』28・30課 文法・読解・聴解などの練習問題	木戸恵子
	第4回	『みんなの日本語初級Ⅱ』31・32課 文法・読解・聴解などの練習問題	木戸恵子
	第5回	『みんなの日本語初級Ⅱ』33・34課 文法・読解・聴解などの練習問題	木戸恵子
	第6回	『みんなの日本語初級Ⅱ』35・36課 文法・読解・聴解などの練習問題	木戸恵子
	第7回	中間テスト 『みんなの日本語初級Ⅱ』37課 文法・読解・聴解などの練習問題	木戸恵子
	第8回	『みんなの日本語初級Ⅱ』38・39課 文法・読解・聴解などの練習問題	木戸恵子
	第9回	『みんなの日本語初級Ⅱ』40・41課 文法・読解・聴解などの練習問題	木戸恵子
	第10回	『みんなの日本語初級Ⅱ』42・43課 文法・読解・聴解などの練習問題	木戸恵子
	第11回	『みんなの日本語初級Ⅱ』44・45課 文法・読解・聴解などの練習問題	木戸恵子
	第12回	『みんなの日本語初級Ⅱ』46・47課 文法・読解・聴解などの練習問題	木戸恵子
	第13回	『みんなの日本語初級Ⅱ』48・49課 文法・読解・聴解などの練習問題	木戸恵子
	第14回	学期末テスト・問題の解説	木戸恵子
	第15回	まとめと復習	木戸恵子

授業外の学習	1 学習した文型とことばの復習をする。 2 宿題をする。		
教科書	『みんなの日本語初級Ⅱ 本冊』		
参考文献など	『みんなの日本語初級Ⅱ 初級で読めるトピック25』		
成績評 価の方 法・基準	評価方法	割合(%)	評価基準
	筆記試験	60	中間テスト・学期末テスト
	実技評価	0	なし
	レポート評価	0	なし
	平常点評価	40	宿題の提出、授業態度など
その他	0	なし	
履修上の注意	この授業とともに集中日本語2A1、2A2、2A5、2A6を併せて受講するのが望ましい。		
連絡先・連絡方法など	国際交流センター事務室へ伝言。		
その他	なし。		

集中日本語基礎演習 2 A 4

担当教員	木戸 恵子
曜日・時限・開講期	水曜日 2時限 前期
期間	前期
授業形態	演習
学年	1年生
単位	1
開講キャンパス	東松山

授業の概要	日本語初級レベルの漢字の読み方・書き方を学習する。また、学習した漢字を使って、文章を読み、作文を書く。
授業の到達目標	初級レベルの漢字の中で、日常生活でよく使う漢字を読んだり、書いたりできるようになる。
授業の形態	1 漢字の形と読み方を覚える。(カードゲームなどで漢字と読み方をマッチングさせ、覚える。) 2 漢字の書き方を練習する。(プリント教材を使って、筆順を確認しながら書いて、覚える。) 3 学習した漢字が使われている読み物を読む。 4 学習した漢字を使って、短い作文を書く。 ※毎週、学習した漢字の読み方・書き方の小テストをする。

	回数	授業内容	担当教員
授業 計画	第1回	イントロダクション 『BASIC KANJI BOOK VOL.1』第1課	木戸恵子
	第2回	『BASIC KANJI BOOK VOL.1』第2課 読み物を読む	木戸恵子
	第3回	『BASIC KANJI BOOK VOL.1』第3課 読み物を読む	木戸恵子
	第4回	『BASIC KANJI BOOK VOL.1』第4課 読み物を読む	木戸恵子
	第5回	『BASIC KANJI BOOK VOL.1』第5課 読み物を読む	木戸恵子
	第6回	『BASIC KANJI BOOK VOL.1』第6課 作文を書く	木戸恵子
	第7回	中間テスト 作文を書く	木戸恵子
	第8回	『BASIC KANJI BOOK VOL.1』第7課 読み物を読む	木戸恵子
	第9回	『BASIC KANJI BOOK VOL.1』第8課 読み物を読む	木戸恵子
	第10回	『BASIC KANJI BOOK VOL.1』第9課 読み物を読む	木戸恵子
	第11回	『BASIC KANJI BOOK VOL.1』第10課 読み物を読む	木戸恵子
	第12回	『BASIC KANJI BOOK VOL.1』第11課 読み物を読む	木戸恵子
	第13回	『BASIC KANJI BOOK VOL.1』第12課 作文を書く	木戸恵子
	第14回	『BASIC KANJI BOOK VOL.1』第13課 作文を書く	木戸恵子
	第15回	学期末テスト まとめ	木戸恵子

授業外の学習	1 必ず、復習をする。 2 学習した漢字は積極的に使ってみる。		
教科書	なし		
参考文献など	参考とする教科書： 加納千恵子他著『BASIC KANJI VOL.1』凡人社		
成績評 価の方 法・基準	評価方法	割合(%)	評価基準
	筆記試験	50	中間テスト・学期末テスト
	実技評価	0	なし
	レポート評価	10	作文
	平常点評価	40	小テスト(30%)、授業への参加度(10%)
その他	0	なし	
履修上の注意	特になし。		
連絡先・連絡方法など	国際交流センター(東松山)に伝言		
その他	特になし		

集中日本語基礎演習 2 A 5

担当教員	田仲 正江
曜日・時限・開講期	木曜日 1 時限 前期
期間	前期
授業形態	演習
学年	1 年生
単位	1
開講キャンパス	東松山

授業の概要	①自分のことや経験、日常生活で起こりうる実場面 ②「みんなの日本語初級Ⅱ」第50課までの主な文型
授業の到達目標	・初級後半の主な文法項目を知識として理解する。 ・理解した文法項目の知識を使って、簡単な文脈の中でやり取りができる。
授業の形態	・口頭でのやり取りの中で、相手の言うことを聞き、自身のことを説明する。 ・リスニング練習のCDを聞いて、内容を説明する。 ・聞いたリスニング練習の設問に答える/教師からの質問に答える。 ・取り上げる文型の埋め込まれた短い文や会話文を読む。 ・読んだ文や会話文の意味を問う質問に答える。 ・文型を使って文を書く。

授業 計画	回数	授業内容	担当教員
	第1回	復習	田仲正江
	第2回	L26：ていただけませんか、たらいいですか L27：可能形、しか～ない、-は-が、-は	田仲正江
	第3回	L28ながら、～し～し、から L39て/で、ので L29自動詞ています、～てしまう	田仲正江
	第4回	L30である、ておく L31意向形と思っている、ていない、つもり	田仲正江
	第5回	L32たほうがいい、かもしれない、L33命令形 L34とおり、たあとで、と言っていた、ないで	田仲正江
	第6回	まとめ①	田仲正江
	第7回	L35ば、ればいい、がいい L36ようにする/になる、ようにしてください	田仲正江
	第8回	L37受身形 L38のは/が/を L40か/かどうか、てみる	田仲正江
	第9回	L42ために、目的のに L43様子そう、てくる	田仲正江
	第10回	L44すぎる/やすい、-する L45ばあい、のに	田仲正江
	第11回	まとめ②	田仲正江
	第12回	L46るところ、たばかり、はず L47伝聞そう、よう	田仲正江
	第13回	L48使役形、させていただきませんか L49尊敬語	田仲正江
	第14回	L50謙譲語	田仲正江
	第15回	まとめ③	田仲正江

授業外の学習	・予習として、新出単語の意味を事前に調べておく。 ・課末問題を復習として行う。		
教科書	「みんなの日本語初級Ⅱ」スリーエーネットワーク		
参考文献など	なし		
成績評 価の方 法・基準	評価方法	割合(%)	評価基準
	筆記試験	30	単元テストを3回行う。(10%×3)
	実技評価	0	なし
	レポート評価	0	なし
	平常点評価	50	授業への参加度、単語確認クイズ
	その他	20	予習・復習や課題提出
履修上の注意	なし		
連絡先・連絡方法など	授業の前後に質問や相談を受ける。また、東松山国際交流センターへ伝言		
その他	なし		

集中日本語基礎演習 2 A 6

担当教員	田仲 正江
曜日・時限・開講期	木曜日 2時限 前期
期間	前期
授業形態	演習
学年	1年生
単位	1
開講キャンパス	東松山

授業の概要	①自分のことや経験、日常生活で起こりうる実場面 ②「みんなの日本語初級Ⅱ」第50課までの主な文型
授業の到達目標	・初級後半の主な文法項目を知識として理解する。 ・理解した文法項目の知識を使って、簡単な文脈の中でやり取りができる。
授業の形態	・口頭でのやり取りの中で、相手の言うことを聞き、自身のことを説明する。 ・リスニング練習のCDを聞いて、内容を説明する。 ・聞いたリスニング練習の設問に答える/教師からの質問に答える。 ・取り上げる文型の埋め込まれた短い文や会話文を読む。 ・読んだ文や会話文の意味を問う質問に答える。 ・文型を使って文を書く。

	回数	授業内容	担当教員
	授業 計画	第1回	復習
第2回		L26：ていただけませんか、たらいいですか L27：可能形、しか～ない、-は-が、-は	田仲正江
第3回		L28ながら、～し～し、から L39て/で、ので L29自動詞ています、～てしまう	田仲正江
第4回		L30である、ておく L31意向形と思っている、ていない、つもり	田仲正江
第5回		L32たほうがいい、かもしれない、L33命令形 L34とおり、たあとで、と言っていた、ないで	田仲正江
第6回		まとめ①	田仲正江
第7回		L35ば、ればいい、がいい L36ようにする/になる、ようにしてください	田仲正江
第8回		L37受身形 L38のは/が/を L40か/かどうか、てみる	田仲正江
第9回		L42ために、目的のに L43様子そう、てくる	田仲正江
第10回		L44すぎる/やすい、-する L45ばあい、のに	田仲正江
第11回		まとめ②	田仲正江
第12回		L46るところ、たばかり、はず L47伝聞そう、よう	田仲正江
第13回		L48使役形、させていただきませんか L49尊敬語	田仲正江
第14回		L50謙譲語	田仲正江
第15回		まとめ③	田仲正江

授業外の学習	・予習として、新出単語の意味を事前に調べておく。 ・課末問題を復習として行う。		
教科書	「みんなの日本語初級Ⅱ」スリーエーネットワーク		
参考文献など	「みんなの日本語初級Ⅱ：文法解説書」スリーエーネットワーク		
成績評 価の方 法・基準	評価方法	割合(%)	評価基準
	筆記試験	30	単元テストを3回行う。(10%×3)
	実技評価	0	なし
	レポート評価	0	なし
	平常点評価	50	授業への参加度、単語確認クイズ
	その他	20	予習・復習や課題提出
履修上の注意	なし		
連絡先・連絡方法など	授業の前後に質問を受け付ける。東松山国際交流センターへ伝言		
その他	なし		

集中日本語基礎演習 2 A 7

担当教員	正宗 鈴香
曜日・時限・開講期	金曜日 1時限 前期
期間	前期
授業形態	演習
学年	1年生
単位	1
開講キャンパス	東松山

授業の概要	日本語初級後半レベルの文法・語彙を実際の場面で使えるようになるために、話す、書く、読む、聞くの4つの技能を総合的に高める。
授業の到達目標	1. 日本語後半レベルの文法・語彙を正確に覚える。 2. 身の回りの話題について、説明、意見、感想などを話したり書いたりする。 3. 既習の文法・文型や語彙を含む文章が読めるようになる。 4. 既習の文法・文型や語彙を含む会話などを聞いて内容がわかるようになる。
授業の形態	1. 日本語後半レベルの文法・語彙を正確に覚える。 2. 身の回りの話題について、説明、意見、感想などを話したり書いたりする。 3. 既習の文法・文型や語彙を含む文章が読めるようになる。 4. 既習の文法・文型や語彙を含む会話などを聞いて内容がわかるようになる。

	回数	授業内容	担当教員
	授業 計画	第1回	オリエンテーション、シラバスの説明、レベルチェック
第2回		みんなの日本語初級Ⅱ 27課 文法・読解・聴解などの総合練習	正宗鈴香
第3回		みんなの日本語初級Ⅱ 29課 文法・読解・聴解などの総合練習	正宗鈴香
第4回		みんなの日本語初級Ⅱ 31課 文法・読解・聴解などの総合練習	正宗鈴香
第5回		みんなの日本語初級Ⅱ 33課 文法・読解・聴解などの総合練習	正宗鈴香
第6回		みんなの日本語初級Ⅱ 35課 文法・読解・聴解などの総合練習	正宗鈴香
第7回		中間テスト、みんなの日本語初級Ⅱ 37課 文法・読解・聴解などの総合練習	正宗鈴香
第8回		みんなの日本語初級Ⅱ 39課 文法・読解・聴解などの総合練習	正宗鈴香
第9回		みんなの日本語初級Ⅱ 41課 文法・読解・聴解などの総合練習	正宗鈴香
第10回		みんなの日本語初級Ⅱ 43課 文法・読解・聴解などの総合練習	正宗鈴香
第11回		みんなの日本語初級Ⅱ 45課 文法・読解・聴解などの総合練習	正宗鈴香
第12回		みんなの日本語初級Ⅱ 47課 文法・読解・聴解などの総合練習	正宗鈴香
第13回		みんなの日本語初級Ⅱ 49課 文法・読解・聴解などの総合練習	正宗鈴香
第14回		総復習	正宗鈴香
第15回		学期末テスト	正宗鈴香

授業外の学習	1. 授業前に文法・文型や語彙を予習しておく。 2. 授業後に学習した内容やスキルを復習する。		
教科書	「みんなの日本語初級Ⅱ 本冊」スリーエネットワーク 「みんなの日本語初級Ⅱ 翻訳・文法解説」スリーエネットワーク 「みんなの日本語初級Ⅱ 書いて覚える文型練習帳」スリーエネットワーク		
参考文献など	「みんなの日本語初級 やさしい作文」「みんなの日本語初級Ⅱ 初級で読めるトピック25」		
成績評価の方法・基準	評価方法	割合(%)	評価基準
	筆記試験	40	中間テスト、学期末テスト
	実技評価	0	なし
	レポート評価	0	なし
	平常点評価	40	授業への参加度、提出物、小テスト
	その他	20	予習・復習の達成度
履修上の注意	原則として、交換留学生を対象とし、学期はじめのプレースメント試験の結果によって履修者を決めます。		
連絡先・連絡方法など	国際交流センター東松山分室へ伝言		
その他	積極的に授業に取り組んでください。楽しみながら日本語力を身に付けましょう。		

集中日本語基礎演習 2 A 8

担当教員	大河原 尚
曜日・時限・開講期	金曜日 2時限 前期
期間	前期
授業形態	演習
学年	1年生
単位	1
開講キャンパス	東松山

授業の概要	初級前半から後半レベル（単文レベル、複文レベル）の文法・文型の知識を、初級教科書にもとづき理解・整理する。 自分自身や自分の日常生活について日本語で表現するために必要な語彙の意味や使い方を理解する。 特に初歩的な漢字を含めた書かれた文を読んで理解した上で、既存の言語知識を使って短い文章を作成する練習を行う。
授業の到達目標	①初級前半から後半レベル（単文レベル、複文レベル）の文法・文型及び基礎的な語彙を用い、自分の（日本および自国での）日常生活におけるさまざまな事柄について口頭で表現できる。 ②初歩的な漢字を用いて書かれた日本語の短い文章を読んで、文章の意味が理解できる。 ③特に初級前半レベルの文法・文型を使って、自分自身や身の回りの生活について日本語の文章にして表現できる。
授業の形態	毎回の授業では、表現する課題を設定し、そこで必要な文型や語彙の意味や用法を、会話によるやり取りをしながら、確認する。 その後、教科書およびそのほかの読解教材を使って読解および話す練習を行う。 さらに、読解教材の内容に関連したトピックで単文を作成し、それらを構成して文章を書く。

授業計画	回数	授業内容	担当教員
	第1回	イントロダクション 第2 1課 語彙 文法・練習	大河原尚
	第2回	第2 2課 語彙 文法・練習	大河原尚
	第3回	第2 3課 語彙 文法・練習	大河原尚
	第4回	第2 4課 語彙 文法・練習	大河原尚
	第5回	第2 5課 語彙 文法・練習	大河原尚
	第6回	第2 6、2 7課 語彙 文法・練習	大河原尚
	第7回	第2 8、2 9課 語彙 文法・練習	大河原尚
	第8回	第3 0、3 1課 語彙 文法・練習	大河原尚
	第9回	第3 2、3 3、3 4課 語彙 文法・練習	大河原尚
	第10回	第3 5、3 6課 語彙 文法・練習	大河原尚
	第11回	第3 7、3 8、3 9課 語彙 文法・練習	大河原尚
	第12回	第4 0、4 1、4 2課 語彙 文法・練習	大河原尚
	第13回	第4 3、4 4、4 5課 語彙 文法・練習	大河原尚
	第14回	第4 6、4 7、4 8課 語彙 文法・練習	大河原尚
第15回	第4 9、5 0課 語彙 文法・練習 まとめ 試験	大河原尚	

授業外の学習	授業で取り上げた語彙や漢字、文法・文型の意味や用法を自宅で確認し復習してください。		
教科書	『みんなの日本語初級 1 本冊』 スリーエーネットワーク 『みんなの日本語初級 2 本冊』 スリーエーネットワーク		
参考文献など	『みんなの日本語初級 1 翻訳・文法解説 英語版』スリーエーネットワーク 『みんなの日本語初級 2 翻訳・文法解説 英語版』スリーエーネットワーク		
成績評価の方法・基準	評価方法	割合(%)	評価基準
	筆記試験	40	中間・期末テストの成績 (尚、試験では総合点だけでなく複数回にわたる伸び率も重視して採点する。)
	実技評価	0	なし
	レポート評価	30	最終レポートとして、日本語作文（テーマは授業中に提示）
	平常点評価	30	クラス活動への参加に対する積極性
その他	0	なし	
履修上の注意	原則として交流学生のみを対象とし、学期初めのプレースメント試験の結果によって履修者を定める。		
連絡先・連絡方法など	国際交流センター（東松山）へ伝言。		
その他	学生の状況により、授業内容及び教材（教科書を含む）を変更する場合があります。		

集中日本語基礎演習 2 B 1

担当教員	中原 なおみ
曜日・時限・開講期	火曜日 1時限 後期
期間	後期
授業形態	演習
学年	1年生
単位	1
開講キャンパス	東松山

授業の概要	初級中盤～後半レベルの文法・文型の知識を、理解・整理し、実場面で使えるように会話的な要素を盛り込みながら、練習し、発表する。
授業の到達目標	初級中盤～後半の文型、文法がどのような場面や文脈で使用されるのかといった、運用に際しての文脈的知識を身につけ、実場面において、相手の言うことを理解し、スムーズに自身の意見や意向を発信する力をつける。
授業の形態	初級レベルの項目を整理し、文型や表現、語彙の定着を図るため、ペアやグループワークによって発話練習を行う。 必要に応じて P C 教材を用い、動画などを参照して、より自然なやりとりについて意見を出し合う。

授業 計画	回数	授業内容	担当教員
	第1回	イントロダクション・レベルチェック	中原なおみ
	第2回	動詞、形容詞、名詞の形とこれまで勉強した様々な表現の復習	中原なおみ
	第3回	普通形を使った表現 1「～と思う、～と言う」	中原なおみ
	第4回	普通形を使った表現 2「連体修飾」	中原なおみ
	第5回	授受表現	中原なおみ
	第6回	条件の表現 1「～たら、～ても」	中原なおみ
	第7回	状況を説明する。「～んです」	中原なおみ
	第8回	自動詞、他動詞	中原なおみ
	第9回	意志や予定について話す。「～う、よう」	中原なおみ
	第10回	条件の表現 2「～ば、なら」	中原なおみ
	第11回	受身の表現	中原なおみ
	第12回	字体の様子について説明する。「～そう」	中原なおみ
	第13回	伝言する。「～そう」	中原なおみ
	第14回	使役の表現	中原なおみ
	第15回	丁寧な場面で話す。(敬語)	中原なおみ

授業外の学習	前回学習した文型項目、表現の復習。		
教科書	「みんなの日本語初級 1・2」(スリーエーネットワーク)		
参考文献など	「みんなの日本語初級 1・2 文型練習帳」(スリーエーネットワーク)		
成績評価の方法・基準	評価方法	割合(%)	評価基準
	筆記試験	40	学期末試験の成績 学期中の小テストの成績
	実技評価	0	特になし
	レポート評価	0	特になし
	平常点評価	60	授業への参加度 宿題の提出
その他	0	特になし	
履修上の注意	原則として交流学生のみを対象とし、学期初めのプレースメント試験の結果によって履修者を定める。		
連絡先・連絡方法など	国際交流センター事務室へ伝言		
その他	特になし		

集中日本語基礎演習 2 B 2

担当教員	中原 なおみ
曜日・時限・開講期	火曜日 2時限 後期
期間	後期
授業形態	演習
学年	1年生
単位	1
開講キャンパス	東松山

授業の概要	初級中盤～後半レベルの文法・文型の知識を、理解・整理し、実場面で使えるように会話的な要素を盛り込みながら、練習し、発表する。
授業の到達目標	初級中盤～後半の文型、文法がどのような場面や文脈で使用されるのかといった、運用に際しての文脈的知識を身につけ、実場面において、相手の言うことを理解し、スムーズに自身の意見や意向を発信する力をつける。
授業の形態	初級レベルの項目を整理し、文型や表現、語彙の定着を図るため、ペアやグループワークによって発話練習を行う。 必要に応じて P C 教材を用い、動画などを参照して、より自然なやりとりについて意見を出し合う。

授業 計画	回数	授業内容	担当教員
	第1回	イントロダクション・レベルチェック	中原なおみ
	第2回	動詞、形容詞、名詞の形とこれまで勉強した様々な表現の復習	中原なおみ
	第3回	普通形を使った表現 1「～と思う、～と言う」	中原なおみ
	第4回	普通形を使った表現 2「連体修飾」	中原なおみ
	第5回	授受表現	中原なおみ
	第6回	条件の表現 1「～たら、～ても」	中原なおみ
	第7回	状況を説明する。「～んです」	中原なおみ
	第8回	自動詞、他動詞	中原なおみ
	第9回	意志や予定について話す。「～う、よう」	中原なおみ
	第10回	条件の表現 2「～ば、なら」	中原なおみ
	第11回	受身の表現	中原なおみ
	第12回	字体の様子について説明する。「～そう」	中原なおみ
	第13回	伝言する。「～そう」	中原なおみ
	第14回	使役の表現	中原なおみ
	第15回	丁寧な場面で話す。(敬語)	中原なおみ

授業外の学習	前回学習した文型項目、表現の復習。		
教科書	「みんなの日本語初級 1・2」(スリーエーネットワーク)		
参考文献など	「みんなの日本語初級 1・2 文型練習帳」(スリーエーネットワーク)		
成績評価の方法・基準	評価方法	割合(%)	評価基準
	筆記試験	40	学期末試験の成績 学期中の小テストの成績
	実技評価	0	特になし
	レポート評価	0	特になし
	平常点評価	60	授業への参加度 宿題の提出
その他	0	特になし	
履修上の注意	原則として交流学生のみを対象とし、学期初めのプレースメント試験の結果によって履修者を定める。		
連絡先・連絡方法など	国際交流センター事務室へ伝言		
その他	特になし		

集中日本語基礎演習 2 B 3

担当教員	木戸 恵子
曜日・時限・開講期	水曜日 1時限 後期
期間	後期
授業形態	演習
学年	1年生
単位	1
開講キャンパス	東松山

授業の概要	日常生活で、日本語後半レベルの文法・ことばを正確に使えるように、話す・書く・読む・聞くの練習を行う。
授業の到達目標	1 文法・ことばを正確に覚える。 2 自分の身近な話題について、説明、意見、感想などが書いたり、話したりできるようになる。 3 短い文章などが読めるようになる。 4 会話を聞いて、わかるようになる。
授業の形態	1 教科書にある文法の練習問題を解く。 2 初級後半のことばを使い、簡単な文や短い作文を書き、クラスで発表する。 3 会話教材を聞き、会話の内容や表現を聞き取る練習をする。 4 読み物教材を読み、内容理解の問題を解いたり、クラスで感想を話し合ったりする。

	回数	授業内容	担当教員
	授業 計画	第1回	イントロダクション・レベルチェック
第2回		『みんなの日本語初級Ⅱ』26・27課 文法・読解・聴解などの練習問題	木戸恵子
第3回		『みんなの日本語初級Ⅱ』28・30課 文法・読解・聴解などの練習問題	木戸恵子
第4回		『みんなの日本語初級Ⅱ』31・32課 文法・読解・聴解などの練習問題	木戸恵子
第5回		『みんなの日本語初級Ⅱ』33・34課 文法・読解・聴解などの練習問題	木戸恵子
第6回		『みんなの日本語初級Ⅱ』35・36課 文法・読解・聴解などの練習問題	木戸恵子
第7回		中間テスト 『みんなの日本語初級Ⅱ』37課 文法・読解・聴解などの練習問題	木戸恵子
第8回		『みんなの日本語初級Ⅱ』38・39課 文法・読解・聴解などの練習問題	木戸恵子
第9回		『みんなの日本語初級Ⅱ』40・41課 文法・読解・聴解などの練習問題	木戸恵子
第10回		『みんなの日本語初級Ⅱ』42・43課 文法・読解・聴解などの練習問題	木戸恵子
第11回		『みんなの日本語初級Ⅱ』44・45課 文法・読解・聴解などの練習問題	木戸恵子
第12回		『みんなの日本語初級Ⅱ』46・47課 文法・読解・聴解などの練習問題	木戸恵子
第13回		『みんなの日本語初級Ⅱ』48・49課 文法・読解・聴解などの練習問題	木戸恵子
第14回		学期末テスト・問題の解説	木戸恵子
第15回		まとめと復習	木戸恵子

授業外の学習	1 学習した文型とことばの復習をする。 2 宿題をする。		
教科書	『みんなの日本語初級Ⅱ 本冊』		
参考文献など	『みんなの日本語初級Ⅱ 初級で読めるトピック25』		
成績評 価の方 法・基準	評価方法	割合(%)	評価基準
	筆記試験	60	中間テスト・学期末テスト
	実技評価	0	なし
	レポート評価	0	なし
	平常点評価	40	宿題の提出、授業態度など
その他	0	なし	
履修上の注意	この授業とともに集中日本語2B1、2B2、2B5、2 B6 を併せて受講するのが望ましい。		
連絡先・連絡方法など	国際交流センター事務室へ伝言。		
その他	なし。		

集中日本語基礎演習 2 B 4

担当教員	木戸 恵子
曜日・時限・開講期	水曜日 2時限 後期
期間	後期
授業形態	演習
学年	1年生
単位	1
開講キャンパス	東松山

授業の概要	日本語初級レベルの漢字の読み方・書き方を学習する。また、学習した漢字を使って、文章を読み、作文を書く。
授業の到達目標	初級レベルの漢字の中で、日常生活でよく使う漢字を読んだり、書いたりできるようになる。
授業の形態	1 漢字の形と読み方を覚える。(カードゲームなどで漢字と読み方をマッチングさせ、覚える。) 2 漢字の書き方を練習する。(プリント教材を使って、筆順を確認しながら書いて、覚える。) 3 学習した漢字が使われている読み物を読む。 4 学習した漢字を使って、短い作文を書く。 ※毎週、学習した漢字の読み方・書き方の小テストをする。

	回数	授業内容	担当教員
授業 計画	第1回	イントロダクション 『BASIC KANJI BOOK VOL.1』第1課	木戸恵子
	第2回	『BASIC KANJI BOOK VOL.1』第2課 読み物を読む	木戸恵子
	第3回	『BASIC KANJI BOOK VOL.1』第3課 読み物を読む	木戸恵子
	第4回	『BASIC KANJI BOOK VOL.1』第4課 読み物を読む	木戸恵子
	第5回	『BASIC KANJI BOOK VOL.1』第5課 読み物を読む	木戸恵子
	第6回	『BASIC KANJI BOOK VOL.1』第6課 作文を書く	木戸恵子
	第7回	中間テスト 作文を書く	木戸恵子
	第8回	『BASIC KANJI BOOK VOL.1』第7課 読み物を読む	木戸恵子
	第9回	『BASIC KANJI BOOK VOL.1』第8課 読み物を読む	木戸恵子
	第10回	『BASIC KANJI BOOK VOL.1』第9課 読み物を読む	木戸恵子
	第11回	『BASIC KANJI BOOK VOL.1』第10課 読み物を読む	木戸恵子
	第12回	『BASIC KANJI BOOK VOL.1』第11課 読み物を読む	木戸恵子
	第13回	『BASIC KANJI BOOK VOL.1』第12課 作文を書く	木戸恵子
	第14回	『BASIC KANJI BOOK VOL.1』第13課 作文を書く	木戸恵子
	第15回	学期末テスト まとめ	木戸恵子

授業外の学習	1 必ず、復習をする。 2 学習した漢字は積極的に使ってみる。		
教科書	なし		
参考文献など	参考とする教科書： 加納千恵子他著『BASIC KANJI VOL.1』凡人社		
成績評 価の方 法・基準	評価方法	割合(%)	評価基準
	筆記試験	50	中間テスト・学期末テスト
	実技評価	0	なし
	レポート評価	10	作文
	平常点評価	40	小テスト(30%)、授業への参加度(10%)
その他	0	なし	
履修上の注意	特になし。		
連絡先・連絡方法など	国際交流センター(東松山)に伝言		
その他	特になし		

集中日本語基礎演習 2 B 5

担当教員	田仲 正江
曜日・時限・開講期	木曜日 1時限 後期
期間	後期
授業形態	演習
学年	1年生
単位	1
開講キャンパス	東松山

授業の概要	①自分のことや経験、日常生活で起こりうる実場面 ②「みんなの日本語初級Ⅱ」第50課までの主な文型
授業の到達目標	・初級後半の主な文法項目を知識として理解する。 ・理解した文法項目の知識を使って、簡単な文脈の中でやり取りができる。
授業の形態	・口頭でのやり取りの中で、相手の言うことを聞き、自身のことを説明する。 ・リスニング練習のCDを聞いて、内容を説明する。 ・聞いたリスニング練習の設問に答える/教師からの質問に答える。 ・取り上げる文型の埋め込まれた短い文や会話文を読む。 ・読んだ文や会話文の意味を問う質問に答える。 ・文型を使って文を書く。

授業 計画	回数	授業内容	担当教員
	第1回	復習	田仲正江
	第2回	L26：ていただけませんか、たらいいですか L27：可能形、しか～ない、-は-が、-は	田仲正江
	第3回	L28ながら、～し～し、から L39て/で、ので L29自動詞ています、～てしまう	田仲正江
	第4回	L30である、ておく L31意向形と思っている、ていない、つもり	田仲正江
	第5回	L32たほうがいい、かもしれない、L33命令形 L34とおり、たあとで、と言っていた、ないで	田仲正江
	第6回	まとめ①	田仲正江
	第7回	L35ば、ればいい、がいい L36ようにする/になる、ようにしてください	田仲正江
	第8回	L37受身形 L38のは/が/を L40か/かどうか、てみる	田仲正江
	第9回	L42ために、目的のに L43様子そう、てくる	田仲正江
	第10回	L44すぎる/やすい、-する L45ばあい、のに	田仲正江
	第11回	まとめ②	田仲正江
	第12回	L46るところ、たばかり、はず L47伝聞そう、よう	田仲正江
	第13回	L48使役形、させていただきませんか L49尊敬語	田仲正江
	第14回	L50謙譲語	田仲正江
	第15回	まとめ③	田仲正江

授業外の学習	・予習として、新出単語の意味を事前に調べておく。 ・課末問題を復習として行う。		
教科書	「みんなの日本語初級Ⅱ」スリーエーネットワーク		
参考文献など	「みんなの日本語初級Ⅱ文法解説書」スリーエーネットワーク		
成績評 価の方 法・基準	評価方法	割合(%)	評価基準
	筆記試験	30	単元テストを3回行う。(10%×3)
	実技評価	0	なし
	レポート評価	0	なし
	平常点評価	50	授業への参加度、単語確認クイズ
	その他	20	予習・復習や課題提出
履修上の注意	なし		
連絡先・連絡方法など	授業の前後に質問を受け付ける。東松山国際交流センターへ伝言		
その他	なし		

集中日本語基礎演習 2 B 6

担当教員	田仲 正江
曜日・時限・開講期	木曜日 2時限 後期
期間	後期
授業形態	演習
学年	1年生
単位	1
開講キャンパス	東松山

授業の概要	①自分のことや経験、日常生活で起こりうる実場面 ②「みんなの日本語初級Ⅱ」第50課までの主な文型
授業の到達目標	・初級後半の主な文法項目を知識として理解する。 ・理解した文法項目の知識を使って、簡単な文脈の中でやり取りができる。
授業の形態	・口頭でのやり取りの中で、相手の言うことを聞き、自身のことを説明する。 ・リスニング練習のCDを聞いて、内容を説明する。 ・聞いたリスニング練習の設問に答える/教師からの質問に答える。 ・取り上げる文型の埋め込まれた短い文や会話文を読む。 ・読んだ文や会話文の意味を問う質問に答える。 ・文型を使って文を書く。

授業 計画	回数	授業内容	担当教員
	第1回	復習	田仲正江
	第2回	L26：ていただけませんか、たらいいですか L27：可能形、しか～ない、-は-が、-は	田仲正江
	第3回	L28ながら、～し～し、から L39て/で、ので L29自動詞ています、～てしまう	田仲正江
	第4回	L30である、ておく L31意向形と思っている、ていない、つもり	田仲正江
	第5回	L32たほうがいい、かもしれない、L33命令形 L34とおり、たあとで、と言っていた、ないで	田仲正江
	第6回	まとめ①	田仲正江
	第7回	L35ば、ればいい、がいい L36ようにする/になる、ようにしてください	田仲正江
	第8回	L37受身形 L38のは/が/を L40か/かどうか、てみる	田仲正江
	第9回	L42ために、目的のに L43様子そう、てくる	田仲正江
	第10回	L44すぎる/やすい、-する L45ばあい、のに	田仲正江
	第11回	まとめ②	田仲正江
	第12回	L46るところ、たばかり、はず L47伝聞そう、よう	田仲正江
	第13回	L48使役形、させていただきませんか L49尊敬語	田仲正江
	第14回	L50謙譲語	田仲正江
	第15回	まとめ③	田仲正江

授業外の学習	・予習として、新出単語の意味を事前に調べておく。 ・課末問題を復習として行う。		
教科書	「みんなの日本語初級Ⅱ」スリーエーネットワーク		
参考文献など	「みんなの日本語初級Ⅱ文法解説書」スリーエーネットワーク		
成績評 価の方 法・基準	評価方法	割合(%)	評価基準
	筆記試験	30	単元テストを3回行う。(10%×3)
	実技評価	0	なし
	レポート評価	0	なし
	平常点評価	50	授業への参加度、単語確認クイズ
	その他	20	予習・復習や課題提出
履修上の注意	なし		
連絡先・連絡方法など	授業前後に質問を受け付ける。東松山国際交流センターへ伝言		
その他	なし		

集中日本語基礎演習 2 B 7

担当教員	正宗 鈴香
曜日・時限・開講期	金曜日 1時限 後期
期間	後期
授業形態	演習
学年	1年生
単位	1
開講キャンパス	東松山

授業の概要	日本語初級後半レベルの文法・語彙を実際の場面で使えるようになるために、話す、書く、読む、聞くの4つの技能を総合的に高める。
授業の到達目標	1. 日本語後半レベルの文法・語彙を正確に覚える。 2. 身の回りの話題について、説明、意見、感想などを話したり書いたりする。 3. 既習の文法・文型や語彙を含む文章が読めるようになる。 4. 既習の文法・文型や語彙を含む会話などを聞いて内容がわかるようになる。
授業の形態	1. 日本語後半レベルの文法・語彙を正確に覚える。 2. 身の回りの話題について、説明、意見、感想などを話したり書いたりする。 3. 既習の文法・文型や語彙を含む文章が読めるようになる。 4. 既習の文法・文型や語彙を含む会話などを聞いて内容がわかるようになる。

	回数	授業内容	担当教員
	授業 計画	第1回	オリエンテーション、シラバスの説明、レベルチェック
第2回		みんなの日本語初級Ⅱ 27課 文法・読解・聴解などの総合練習	正宗鈴香
第3回		みんなの日本語初級Ⅱ 29課 文法・読解・聴解などの総合練習	正宗鈴香
第4回		みんなの日本語初級Ⅱ 31課 文法・読解・聴解などの総合練習	正宗鈴香
第5回		みんなの日本語初級Ⅱ 33課 文法・読解・聴解などの総合練習	正宗鈴香
第6回		みんなの日本語初級Ⅱ 35課 文法・読解・聴解などの総合練習	正宗鈴香
第7回		中間テスト、みんなの日本語初級Ⅱ 37課 文法・読解・聴解などの総合練習	正宗鈴香
第8回		みんなの日本語初級Ⅱ 39課 文法・読解・聴解などの総合練習	正宗鈴香
第9回		みんなの日本語初級Ⅱ 41課 文法・読解・聴解などの総合練習	正宗鈴香
第10回		みんなの日本語初級Ⅱ 43課 文法・読解・聴解などの総合練習	正宗鈴香
第11回		みんなの日本語初級Ⅱ 45課 文法・読解・聴解などの総合練習	正宗鈴香
第12回		みんなの日本語初級Ⅱ 47課 文法・読解・聴解などの総合練習	正宗鈴香
第13回		みんなの日本語初級Ⅱ 49課 文法・読解・聴解などの総合練習	正宗鈴香
第14回		総復習	正宗鈴香
第15回		学期末テスト	正宗鈴香

授業外の学習	1. 授業前に文法・文型や語彙を予習しておく。 2. 授業後に学習した内容やスキルを復習する。		
教科書	「みんなの日本語初級Ⅱ 本冊」スリーエネットワーク 「みんなの日本語初級Ⅱ 翻訳・文法解説」スリーエネットワーク 「みんなの日本語初級Ⅱ 書いて覚える文型練習帳」スリーエネットワーク		
参考文献など	「みんなの日本語初級 やさしい作文」 「みんなの日本語初級Ⅱ 初級で読めるトピック25」		
成績評価の方法・基準	評価方法	割合(%)	評価基準
	筆記試験	40	中間テスト、学期末テスト
	実技評価	0	なし
	レポート評価	0	なし
	平常点評価	40	授業への参加度、提出物、小テスト
その他	20	予習・復習の達成度	
履修上の注意	原則として、交換留学生を対象とし、学期はじめのプレースメント試験の結果によって履修者を決めます。		
連絡先・連絡方法など	国際交流センター東松山分室へ伝言		
その他	積極的に授業に取り組んでください。楽しみながら日本語力を身に付けましょう。		

集中日本語基礎演習 2 B 8

担当教員	大河原 尚
曜日・時限・開講期	金曜日 2時限 後期
期間	後期
授業形態	演習
学年	1年生
単位	1
開講キャンパス	東松山

授業の概要	初級前半から後半レベル（単文レベル、複文レベル）の文法・文型の知識を、初級教科書にもとづき理解・整理する。 自分自身や自分の日常生活について日本語で表現するために必要な語彙の意味や使い方を理解する。特に初歩的な漢字を含めた書かれた文を読んで理解した上で、既存の言語知識を使って短い文章を作成する練習を行う。
授業の到達目標	①初級前半から後半レベル（単文レベル、複文レベル）の文法・文型及び基礎的な語彙を用い、自分の（日本および自国での）日常生活におけるさまざまな事柄について口頭で表現できる。 ②初歩的な漢字を用いて書かれた日本語の短い文章を読んで、文章の意味が理解できる。 ③特に初級前半レベルの文法・文型を使って、自分自身や身の回りの生活について日本語の文章にして表現できる。
授業の形態	毎回の授業では、表現する課題を設定し、そこで必要な文型や語彙の意味や用法を、会話によるやり取りをしながら、確認する。 その後、教科書およびそのほかの読解教材を使って読解および話す練習を行う。 さらに、読解教材の内容に関連したトピックで単文を作成し、それらを構成して文章を書く。

授業計画	回数	授業内容	担当教員
	第1回	イントロダクション 第2 1課 語彙 文法・練習	大河原尚
	第2回	第2 2課 語彙 文法・練習	大河原尚
	第3回	第2 3課 語彙 文法・練習	大河原尚
	第4回	第2 4課 語彙 文法・練習	大河原尚
	第5回	第2 5課 語彙 文法・練習	大河原尚
	第6回	第2 6、2 7課 語彙 文法・練習	大河原尚
	第7回	第2 8、2 9課 語彙 文法・練習	大河原尚
	第8回	第3 0、3 1課 語彙 文法・練習	大河原尚
	第9回	第3 2、3 3、3 4課 語彙 文法・練習	大河原尚
	第10回	第3 5、3 6課 語彙 文法・練習	大河原尚
	第11回	第3 7、3 8、3 9課 語彙 文法・練習	大河原尚
	第12回	第4 0、4 1、4 2課 語彙 文法・練習	大河原尚
	第13回	第4 3、4 4、4 5課 語彙 文法・練習	大河原尚
	第14回	第4 6、4 7、4 8課 語彙 文法・練習	大河原尚
第15回	第4 9、5 0課 語彙 文法・練習 まとめ 試験	大河原尚	

授業外の学習	授業で取り上げた語彙や漢字、文法・文型の意味や用法を自宅で確認し復習してください。		
教科書	『みんなの日本語初級 1 本冊』 スリーエーネットワーク 『みんなの日本語初級 2 本冊』 スリーエーネットワーク		
参考文献など	『みんなの日本語初級 1 翻訳・文法解説 英語版』スリーエーネットワーク 『みんなの日本語初級 2 翻訳・文法解説 英語版』スリーエーネットワーク		
成績評価の方法・基準	評価方法	割合(%)	評価基準
	筆記試験	40	中間・期末テストの成績 (尚、試験では総合点だけでなく複数回にわたる伸び率も重視して採点する。)
	実技評価	0	なし
	レポート評価	30	最終レポートとして、日本語作文（テーマは授業中に提示）
	平常点評価	30	クラス活動への参加に対する積極性
その他	0	なし	
履修上の注意	原則として交流学生のみを対象とし、学期初めのプレースメント試験の結果によって履修者を決める。		
連絡先・連絡方法など	国際交流センター（東松山）へ伝言。		
その他	学生の状況により、授業内容及び教材（教科書を含む）を変更する場合があります。		

集中日本語基礎演習3 A 1

担当教員	古賀 和恵
曜日・時限・開講期	火曜日 1時限 前期
期間	前期
授業形態	演習
学年	1年生
単位	1
開講キャンパス	東松山

授業の概要	中級レベルのことば・文法・表現を学習し、会話の聞き取りやロールプレイを行う。また、学習したものを使ってミニドラマを制作し、ゲストを招いて発表会を行う。
授業の到達目標	・中級レベルのことば・文法・表現を理解し、人間関係や状況を考えて、日常生活の中で使うことができるようになる。 ・日常生活における様々な交渉場面における会話のストラテジーを身につけ、問題解決ができるようになる。 ・クラスメートと協力しながら、共通の目標（ミニドラマの上演）を実現させる。
授業の形態	講義と発表を組み合わせで行う。表現練習やロールプレイは、ペアまたはグループで行う。また、ミニドラマの活動は、人数によってはグループに分かれて進める。

	回数	授業内容	担当教員
	授業 計画	第1回	第1課 頼みにくい依頼をする：ことば・文法・表現
第2回		第2課 わからないことばの意味を聞いて、どうすればいいかを確認する：ことば・文法・表現	古賀和恵
第3回		第3課 事情を説明して丁寧に謝る／丁寧に変更をお願いする：ことば・文法・表現	古賀和恵
第4回		第4課 伝言を頼む・受ける／留守番電話に伝言を残す：ことば・文法・表現	古賀和恵
第5回		第5課 行き方を尋ねる・教える／道順を尋ねる・教える：ことば・文法・表現	古賀和恵
第6回		中間テスト（記述） 第6課 許可を得たいと申し出る／交渉して許可を得る：ことば・文法・表現	古賀和恵
第7回		第7課 誘いを受ける／断る：ことば・文法・表現	古賀和恵
第8回		第8課 人や物の様子を詳しく説明する：ことば・文法・表現	古賀和恵
第9回		第9課 買いたい物についての希望や条件を伝える／違いを比較し、買いたい物を選ぶ：ことば・文法・表現	古賀和恵
第10回		第10課 誤解を解く：ことば・文法・表現	古賀和恵
第11回		第11課 提案をする／提案を受け入れる：ことば・文法・表現	古賀和恵
第12回		期末テスト（記述）	古賀和恵
第13回		ミニドラマ準備：ストーリー・スクリプトを考える	古賀和恵
第14回		ミニドラマ準備：スクリプト完成、ゲストを誘う、発表練習	古賀和恵
第15回		ミニドラマ：リハーサル、発表会 まとめと振り返り	古賀和恵

授業外の学習	・ことばや文法の予習・復習を行う。 ・次の授業までにロールプレイのスクリプトを作り、練習してることが課題になる場合もある。 ・ミニドラマのスクリプト作成や、練習を行う。
--------	--

教科書	『みんなの日本語中級 I』（2008）スリーエーネットワーク 『みんなの日本語中級 I 翻訳・文法解説』（2009）スリーエーネットワーク * 翻訳・文法解説には、英語版、中国語版、韓国語版、フランス語版、ドイツ語版、スペイン語版などがある。
-----	---

参考文献など	なし
--------	----

成績評 価の方 法・基準	評価方法	割合(%)	評価基準
	筆記試験	30	中間・期末テストの成績により評価する。
	実技評価	15	ロールプレイにより評価する。
	レポート評価	0	なし
	平常点評価	55	毎週行う小テスト（ことば・文法など）、短文作成やスクリプト作成等の課題、クラス活動への参加度により評価する。
その他	0	なし	

履修上の注意	なし
--------	----

連絡先・連絡方法など	東松山国際交流センター事務室へ伝言
------------	-------------------

その他	・授業内容やスケジュールは、クラスの状況により、変更になる場合があります。 ・このクラスは、予習・復習が大切です。テキストや配付されるプリントを使って、必ず予習・復習を行ってください。 ・課題は、締め切りまでに出してください。
-----	---

集中日本語基礎演習3 A 2

担当教員	古賀 和恵
曜日・時限・開講期	火曜日 2時限 前期
期間	前期
授業形態	演習
学年	1年生
単位	1
開講キャンパス	東松山

授業の概要	中級レベルのことば・文法・表現を学習し、会話の聞き取りやロールプレイを行う。また、学習したものを使ってミニドラマを制作し、ゲストを招いて発表会を行う。
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・中級レベルのことば・文法・表現を理解し、人間関係や状況を考えて、日常生活の中で使うことができるようになる。 ・日常生活における様々な交渉場面における会話のストラテジーを身につけ、問題解決ができるようになる。 ・クラスメートと協力しながら、共通の目標（ミニドラマの上演）を実現させる。
授業の形態	講義と発表を組み合わせで行う。表現練習やロールプレイは、ペアまたはグループで行う。また、ミニドラマの活動は、人数によってはグループに分かれて進める。

	回数	授業内容	担当教員
	授業 計画	第1回	第1課 頼みにくい依頼をする：ことば・文法・表現
第2回		第2課 わからないことばの意味を聞いて、どうすればいいかを確認する：ことば・文法・表現	古賀和恵
第3回		第3課 事情を説明して丁寧に謝る／丁寧に変更をお願いする：ことば・文法・表現	古賀和恵
第4回		第4課 伝言を頼む・受ける／留守番電話に伝言を残す：ことば・文法・表現	古賀和恵
第5回		第5課 行き方を尋ねる・教える／道順を尋ねる・教える：ことば・文法・表現	古賀和恵
第6回		中間テスト（記述） 第6課 許可を得たいと申し出る／交渉して許可を得る：ことば・文法・表現	古賀和恵
第7回		第7課 誘いを受ける／断る：ことば・文法・表現	古賀和恵
第8回		第8課 人や物の様子を詳しく説明する：ことば・文法・表現	古賀和恵
第9回		第9課 買いたい物についての希望や条件を伝える／違いを比較し、買いたい物を選ぶ：ことば・文法・表現	古賀和恵
第10回		第10課 誤解を解く：ことば・文法・表現	古賀和恵
第11回		第11課 提案をする／提案を受け入れる：ことば・文法・表現	古賀和恵
第12回		期末テスト（記述）	古賀和恵
第13回		ミニドラマ準備：ストーリー・スクリプトを考える	古賀和恵
第14回		ミニドラマ準備：スクリプト完成、ゲストを誘う、発表練習	古賀和恵
第15回		ミニドラマ：リハーサル、発表会 まとめと振り返り	古賀和恵

授業外の学習	<ul style="list-style-type: none"> ・ことばや文法の予習・復習を行う。 ・次の授業までにロールプレイのスクリプトを作り、練習してることが課題になる場合もある。 ・ミニドラマのスクリプト作成や、練習を行う。
--------	--

教科書	『みんなの日本語中級 I』（2008）スリーエーネットワーク 『みんなの日本語中級 I 翻訳・文法解説』（2009）スリーエーネットワーク * 翻訳・文法解説には、英語版、中国語版、韓国語版、フランス語版、ドイツ語版、スペイン語版などがある。
-----	---

参考文献など	なし
--------	----

成績評価の方法・基準	評価方法	割合(%)	評価基準
	筆記試験	30	中間・期末テストの成績により評価する。
	実技評価	15	ロールプレイにより評価する。
	レポート評価	0	なし
	平常点評価	55	毎週行う小テスト（ことば・文法など）、短文作成やスクリプト作成等の課題、クラス活動への参加度により評価する。
その他	0	なし	

履修上の注意	なし
--------	----

連絡先・連絡方法など	東松山国際交流センター事務室へ伝言
------------	-------------------

その他	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内容やスケジュールは、クラスの状況により、変更になる場合があります。 ・このクラスは、予習・復習が大切です。テキストや配付されるプリントを使って、必ず予習・復習を行ってください。 ・課題は、締め切りまでに出してください。
-----	---

集中日本語基礎演習3A3

担当教員	西尾 広美
曜日・時限・開講期	水曜日 1時限 前期
期間	前期
授業形態	演習
学年	1年生
単位	1
開講キャンパス	東松山

授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> 与えられたテーマや自分が発見したテーマについて、まとまった内容を話すことができる能力を身につける。 興味をもったことについて調べたり資料を集めたりし、グループや個人で発表し、それについて積極的にお互いの意見を述べる。 生活の中で感じたり、体験した「クール ジャパン！」を発見し、それについてポスターを作成し、発表する。 発表のふりかえりを通し、発表についての自分の課題点を見つける。
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 発表するテーマに合わせて情報を収集し、発表の組み立てを考えることができる。 発表の組み立てを考え、ポスターの作成し、聞き手を意識したポスター発表ができる。 発表を聞いて、自分の意見を述べるができる。 活動後の振り返りを通して、課題点に気づき、今後にいかすことができる。 異文化理解を促す。
授業の形態	<ul style="list-style-type: none"> 講義、ペアワーク、グループ学習、ディスカッション、発表など。 収集整理した情報を構成を考え、ポスターなどを作成し、発表する。

	回数	授業内容	担当教員
授業計画	第1回	・ガイダンス ・自己紹介（なにをどのように話すか）	西尾広美
	第2回	・スピーチの流れと表現スタイルを学ぶ① （意見を言おう！）「割り勘」	西尾広美
	第3回	・スピーチの流れと表現スタイルを学ぶ② （詳しく説明しよう！）「私の宝物」	西尾広美
	第4回	・スピーチの流れと表現スタイルを学ぶ③ （順序を考えて話す）「私の旅行プラン」 （資料を調べ、内容を組み立てよう）	西尾広美
	第5回	・スピーチ大会「私の失敗談」中間評価	西尾広美
	第6回	・ディスカッション①（自由討議型）	西尾広美
	第7回	・ディスカッション発展（グループワーク） みんなでポスター作り・発表 （自己評価・他己評価）	西尾広美
	第8回	・ディスカッション②（二者択一型） 自己評価・他己評価	西尾広美
	第9回	・ディスカッション③（問題解決型） 自己評価・他己評価	西尾広美
	第10回	・自分の「クールジャパン！」を発見しよう！ ・「クールジャパン」のテーマを決める ・ポスターの作り方を学ぶ	西尾広美
	第11回	・ポスターのアウトライン考える ・ポスター作成	西尾広美
	第12回	・ポスター作成 ・発表のレジュメの作成・口頭練習	西尾広美
	第13回	・ポスター発表（自己評価・他己評価）	西尾広美
	第14回	・ポスター発表（自己評価・他己評価）	西尾広美
	第15回	・ふりかえり まとめ	西尾広美

授業外の学習	<ul style="list-style-type: none"> 課題が出されたら、特にペアやグループで協働する場合は、早めに取り組み、準備すること。 発表のテーマや事柄について、日頃から新聞やニュースで話題になったものに関心をもつこと。 授業で学んだことを通じて異文化理解に興味関心をもち、生活の中で活かすこと。
--------	--

教科書	なし。
参考文献など	新聞・雑誌・DVD・Webなど、生教材を使用する。

成績評価の方法・基準	評価方法	割合(%)	評価基準
	筆記試験	0	特になし。
	実技評価	30	発表の内容・自己評価と他己評価などを合わせ、総合的に評価します。
	レポート評価	20	課題などは、必ず提出してください。
	平常点評価	50	出席は3分の2以上が必要 ふりかえりシート 授業への積極的な参加度（意見など） ふりかえりシート
その他	0	特になし。	

履修上の注意	グループワークが多いため、欠席するときは必ず連絡してください。 病欠は医師の証明書（レシートも可）が必要です（証明書がない場合は欠席となります）。
--------	--

連絡先・連絡方法など	事前に申し出るか、国際交流センター（東松山）へ伝言してください。
------------	----------------------------------

その他	<ul style="list-style-type: none"> 授業の内容や予定は、変更する場合があります。 ※日本語で考え、日本語を「使って」自分の意見を発表し、コミュニケーションしましょう。
-----	--

集中日本語基礎演習 3 A 4

担当教員	西尾 広美
曜日・時限・開講期	水曜日 2時限 前期
期間	前期
授業形態	演習
学年	1年生
単位	1
開講キャンパス	東松山

授業の概要	基本漢字NO. 251 - 500の語をテキストにそって把握練習し、その応用として新聞記事を読む。
授業の到達目標	基本漢字を覚えて新聞が読める。
授業の形態	板書やパワーポイントなどで導入する。演習をする。

授業 計画	回数	授業内容	担当教員
	第1回	・ガイダンス レベルチェック ・自己紹介	西尾広美
	第2回	・練習①	西尾広美
	第3回	・まとめ① ・新聞 1	西尾広美
	第4回	・練習②	西尾広美
	第5回	・まとめ② ・新聞 2	西尾広美
	第6回	・練習③	西尾広美
	第7回	・まとめ③ ・新聞 3	西尾広美
	第8回	・総まとめ I	西尾広美
	第9回	・練習④	西尾広美
	第10回	・まとめ④ ・新聞 4	西尾広美
	第11回	・練習⑤	西尾広美
	第12回	・まとめ⑤ ・新聞 5	西尾広美
	第13回	・練習⑥	西尾広美
	第14回	・まとめ⑥ ・新聞 6	西尾広美
第15回	・総まとめ II ・ふりかえり	西尾広美	

授業外の学習	事前にテキストを確認し、単語リストにある単語の意味や使い方を調べる。
教科書	基本的には『basic漢字Ⅱ』を使って行う。終わった場合は、『intermediate kanji book』を行う。 * 場合により、変更する場合がある。

参考文献など	なし。
--------	-----

成績評 価の方 法・基準	評価方法	割合(%)	評価基準
	筆記試験	40	授業活動範囲
	実技評価	0	なし
	レポート評価	0	なし
	平常点評価	50	積極的参加度、など
その他	10	毎回のまとめ、など	

履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・各自の学習活動（漢字の読みだけ、漢字の読みと書き）を決め、積極的に取り組むこと。 ・何度も復習すること。 ・漢字の使い方もいっしょに覚えること。
--------	---

連絡先・連絡方法など	事前に連絡するか、東松山国際交流センターへの伝言。
------------	---------------------------

その他	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の内容や予定は、変更する場合がある。 ・レベルの確認をする。
-----	--

集中日本語基礎演習 3 A 5

担当教員	正宗 鈴香
曜日・時限・開講期	木曜日 1時限 前期
期間	前期
授業形態	演習
学年	1年生
単位	1
開講キャンパス	東松山

授業の概要	ある程度まとまった論理的な文章（中級 I）を読み、語彙や文法表現を確認し、内容を理解し、まとめる。
授業の到達目標	1. 書かれている文を正確に理解する。 2. 論理的な読み方やまとめ方ができる。
授業の形態	演習やグループ作業を通して、テキストの正確な把握やまとめを行う。また、お互いの意見や考えの意見交換を行う。

授業計画	回数	授業内容	担当教員
	第1回	授業オリエンテーション、第1課「畳」：ものの歴史と良さについてどこに書いてあるか探して読む	正宗鈴香
第2回	第2課「外来語」：例と意見を探す	正宗鈴香	
第3回	第3課「時間よ、とまれ」：グラフから文章の内容を想像する	正宗鈴香	
第4回	第4課「電話嫌い」：気持ちの変化を考えながら読む	正宗鈴香	
第5回	まとめ① 第1課～第4課	正宗鈴香	
第6回	第5課「地図」：理由を考えながら読む	正宗鈴香	
第7回	第6課「メンタルトレーニング」：「こそあど」を考えながら読む	正宗鈴香	
第8回	第7課「まんじゅう 怖い」：誰が話したか確かめながら読む	正宗鈴香	
第9回	第8課「科学者ってどう見える？」：タイトルを読み取る、前後文の関係を読む	正宗鈴香	
第10回	まとめ② 第5課～第8課	正宗鈴香	
第11回	第9課「カラオケ」：事実を正確に読み取る－筆者の意見を読み取る	正宗鈴香	
第12回	第10課「記憶型と注意型」：違いを探しながら読む・結論を読み取る	正宗鈴香	
第13回	第11課「白川郷の黄金伝説」：抽象物から内容を想像する・背景を読み取る	正宗鈴香	
第14回	まとめ③ 第9課～第11課	正宗鈴香	
第15回	学期末テスト	正宗鈴香	

授業外の学習	1. 予習は、指定された課の単語表の意味確認、文法・文型、表現等の確認を行う。 2. 復習は、指示された宿題、授業で練習した語彙、文章表現を整理しておく。		
教科書	「みんなの日本語中級 I 本冊」スリーエネットワーク		
参考文献など	「みんなの日本語中級 I 翻訳・文法解説」スリーエネットワーク		
成績評価の方法・基準	評価方法	割合(%)	評価基準
	筆記試験	20	学期末テスト
	実技評価	0	なし
	レポート評価	0	なし
	平常点評価	60	授業への参加度、予習・復習の取り組み
その他	20	小テスト、提出物	
履修上の注意	原則として、交換留学生を対象とし、学期はじめのプレースメント試験の結果によって履修者を決めます。		
連絡先・連絡方法など	国際交流センター東松山分室へ伝言してください。		
その他	積極的に授業に取り組んでください。楽しみながら日本語力を身に付けましょう。		

集中日本語基礎演習 3 A 6

担当教員	正宗 鈴香
曜日・時限・開講期	木曜日 2時限 前期
期間	前期
授業形態	演習
学年	1年生
単位	1
開講キャンパス	東松山

授業の概要	ある程度まとまった論理的な文章（中級 I）を読み、協働して内容把握や単語・文法表現運用の練習を行う。また、読んだ内容に対して自分の意見を述べる。
授業の到達目標	1. 論理的な読み方やまとめ方ができる。 2. 読んだ内容に対する自分の考えや意見を説明することができる。
授業の形態	演習やグループ作業を通して、テキストの正確な把握やまとめを行う。また、お互いの意見や考えの交換を行う。

授業 計画	回数	授業内容	担当教員
	第1回	授業オリエンテーション、第1課：物を良さを示す表現	正宗鈴香
	第2回	第2課：意見表明の表現	正宗鈴香
	第3回	第3課：グラフを読み解く表現	正宗鈴香
	第4回	第4課：気持ちの変化を表す表現	正宗鈴香
	第5回	まとめ① 1～4課	正宗鈴香
	第6回	第5課：理由や根拠を表す表現	正宗鈴香
	第7回	第6課：指示詞の有効な表現	正宗鈴香
	第8回	第7課：隠れた主語を読み解く表現	正宗鈴香
	第9回	第8課：前後文の関係を表す表現	正宗鈴香
	第10回	まとめ② 5～8課	正宗鈴香
	第11回	第9課：事実を正確に読み取る表現	正宗鈴香
	第12回	第10課：結論を読み取る表現	正宗鈴香
	第13回	第11課：抽象的表現	正宗鈴香
	第14回	まとめ③ 9～11課	正宗鈴香
第15回	フィードバック	正宗鈴香	

授業外の学習	1. 予習は、指定された課の単語表の意味確認、文法・句型、表現等の確認を行う。 2. 復習は、指示された宿題、内容に対する自己の考えをまとめる。		
教科書	「みんなの日本語中級 I」スリーエネットワーク		
参考文献など	「みんなの日本語中級 I 翻訳・文法解説」スリーエネットワーク		
成績評 価の方 法・基準	評価方法	割合(%)	評価基準
	筆記試験	30	中間テスト、期末テスト
	実技評価	0	なし
	レポート評価	0	なし
	平常点評価	70	授業への参加度、予習・復習の取り組み、課題の提出
	その他	0	なし
履修上の注意	原則として、交換留学生を対象とし、学期はじめのプレースメント試験の結果によって履修者を決めます。		
連絡先・連絡方法など	国際交流センター東松山分室へ伝言してください。		
その他	授業に積極的に参加してください。		

集中日本語基礎演習 3 A 7

担当教員	大河原 尚
曜日・時限・開講期	金曜日 1時限 前期
期間	前期
授業形態	演習
学年	1年生
単位	1
開講キャンパス	東松山

授業の概要	中級レベルの文法・文型の知識を教科書の内容にもとづき理解・整理する。 初歩的な漢字を含めた書かれた文を読んで理解した上で、既存の言語知識を使って400～800字（A 4で1ページ）程度の文章を作成する練習を行う。
授業の到達目標	中級レベルの文法・文型及び基礎的な語彙を用いて、自分の気持ちや意見を表現し、客観的な状況を説明できる。 文章を構成してまとめた内容が表現できる。
授業の形態	1. 『みんなの日本語中級 1』を用いて、日本語を運用し、中級レベルの語彙、文法・文型、会話表現を定着させる。 2. 日本語を介して日本の文化・習慣について理解を深めるとともに、自国の場合と比較しつつ、クラスメート、教員とともに話し合う。 3. 話し合った内容をもとに、表現したい内容を整理・構成してから、作文する。

授業 計画	回数	授業内容	担当教員
	第1回	イントロダクション 第1課 語彙 文法・練習	大河原尚
	第2回	第1課 語彙 文法・練習	大河原尚
	第3回	第2課 語彙 文法・練習	大河原尚
	第4回	第2課 語彙 文法・練習	大河原尚
	第5回	第3課 語彙 文法・練習	大河原尚
	第6回	第4課 語彙 文法・練習	大河原尚
	第7回	第5課 語彙 文法・練習	大河原尚
	第8回	第6課 語彙 文法・練習	大河原尚
	第9回	第7課 語彙 文法・練習	大河原尚
	第10回	第8課 語彙 文法・練習	大河原尚
	第11回	第9課 語彙 文法・練習	大河原尚
	第12回	第10課 語彙 文法・練習	大河原尚
	第13回	第11課 語彙 文法・練習	大河原尚
	第14回	第12課 語彙 文法・練習	大河原尚
	第15回	まとめ 試験	大河原尚

授業外の学習	授業で取り上げた語彙や漢字、文法・文型の意味や用法を自宅で確認し復習する。
教科書	『みんなの日本語中級 1 本冊』 スリーエーネットワーク 『みんなの日本語中級 1 翻訳・文法解説 英語版』スリーエーネットワーク
参考文献など	特になし

成績評 価の方 法・基準	評価方法	割合(%)	評価基準
	筆記試験	40	中間・期末テストの成績 (尚、試験では総合点だけでなく複数回にわたる伸び率も重視して採点する。)
	実技評価	0	毎回の単語テストの成績
	レポート評価	30	最終レポートとして、日本語作文（テーマは授業中に提示）
	平常点評価 その他	30 0	クラス活動への参加に対する積極性 なし

履修上の注意	原則として交流学生のみを対象とし、学期初めのプレースメント試験の結果によって履修者を定める。
連絡先・連絡方法など	国際交流センター（東松山）へ伝言。
その他	学生の状況により、授業内容及び教材（教科書を含む）を変更する場合があります。

集中日本語基礎演習 3 A 8

担当教員	田仲 正江
曜日・時限・開講期	金曜日 2時限 前期
期間	前期
授業形態	演習
学年	1年生
単位	1
開講キャンパス	東松山

授業の概要	説明文の書き方を確認し、自己紹介・自国紹介・日本での経験などのトピックで作文したり、意見文の書き方を確認し、身近な課題や興味関心がある課題を取り上げ作文をする。 また、比較やデータ、資料などを用いて、或る程度論理だった作文を書く。
授業の到達目標	初中級の文法文型を使って、大学生活で必要なメモや発表原稿、説明文や意見文、ある程度論理的な作文が書けるようになる。
授業の形態	作文に必要な文法や表現などを確認し、トピックを決めアウトラインを作成したのち、文章に書く。 トピックのアイデアやアウトライン作成時など、必要に応じてペアワークする。 完成した文章を、発表したり文集を作成したりする。

	回数	授業内容	担当教員
	授業 計画	第1回	自己紹介と質疑応答
第2回		紹介文に必要な要素の確認 自己紹介文作成	田中正江
第3回		自己紹介文完成と発表	田中正江
第4回		自国紹介と質疑応答	田中正江
第5回		自国紹介文完成と発表	田中正江
第6回		日本での経験と質疑応答 (自国との比較→意見)	田中正江
第7回		日本での経験文完成と発表	田中正江
第8回		日本と自国の文化の比較 (インタビュー調査など)	田中正江
第9回		意見文に必要な要素の確認	田中正江
第10回		興味関心と意見の紹介、質疑応答	田中正江
第11回		課題をテーマにした意見文完成 発表	田中正江
第12回		論理的な文章の書き方の確認	田中正江
第13回		自己テーマとアウトラインの決定 (文集成成への作業)	田中正江
第14回		自己テーマの論述文作成	田中正江
第15回		文集成成の作業と完成	田中正江

授業外の学習	初中級の文法や表現の確認と、作文の下書き作業を行う。		
教科書	なし		
参考文献など	なし		
成績評価の方法・基準	評価方法	割合(%)	評価基準
	筆記試験	0	なし
	実技評価	0	なし
	レポート評価	40	完成した作文
	平常点評価	40	授業参加度や課題の進捗状況
	その他	20	発表
履修上の注意	なし		
連絡先・連絡方法など	授業の前後に質問を受け付ける。東松山国際交流センターへ伝言		
その他	なし		

集中日本語基礎演習3B1

担当教員	古賀 和恵
曜日・時限・開講期	火曜日 1時限 後期
期間	後期
授業形態	演習
学年	1年生
単位	1
開講キャンパス	東松山

授業の概要	中級レベルのことば・文法・表現を学習し、会話の聞き取りやロールプレイを行う。また、学習したものを使ってミニドラマを制作し、ゲストを招いて発表会を行う。
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・中級レベルのことば・文法・表現を理解し、人間関係や状況を考えて、日常生活の中で使うことができるようになる。 ・日常生活における様々な交渉場面における会話のストラテジーを身につけ、問題解決ができるようになる。 ・クラスメートと協力しながら、共通の目標（ミニドラマの上演）を実現させる。
授業の形態	講義と発表を組み合わせて行う。表現練習やロールプレイは、ペアまたはグループで行う。また、ミニドラマの活動は、人数によってはグループに分かれて進める。

	回数	授業内容	担当教員
	授業 計画	第1回	第1課 頼みにくい依頼をする：ことば・文法・表現
第2回		第2課 わからないことばの意味を聞いて、どうすればいいかを確認する：ことば・文法・表現	古賀和恵
第3回		第3課 事情を説明して丁寧に謝る／丁寧に変更をお願いする：ことば・文法・表現	古賀和恵
第4回		第4課 伝言を頼む・受ける／留守番電話に伝言を残す：ことば・文法・表現	古賀和恵
第5回		第5課 行き方を尋ねる・教える／道順を尋ねる・教える：ことば・文法・表現	古賀和恵
第6回		中間テスト（記述） 第6課 許可を得たいと申し出る／交渉して許可を得る：ことば・文法・表現	古賀和恵
第7回		第7課 誘いを受ける／断る：ことば・文法・表現	古賀和恵
第8回		第8課 人や物の様子を詳しく説明する：ことば・文法・表現	古賀和恵
第9回		第9課 買いたい物についての希望や条件を伝える／違いを比較し、買いたい物を選ぶ：ことば・文法・表現	古賀和恵
第10回		第10課 誤解を解く：ことば・文法・表現	古賀和恵
第11回		第11課 提案をする／提案を受け入れる：ことば・文法・表現	古賀和恵
第12回		期末テスト（記述）	古賀和恵
第13回		ミニドラマ準備：ストーリー・スクリプトを考える	古賀和恵
第14回		ミニドラマ準備：スクリプト完成、ゲストを誘う、発表練習	古賀和恵
第15回		ミニドラマ：リハーサル、発表会 まとめと振り返り	古賀和恵

授業外の学習	<ul style="list-style-type: none"> ・ことばや文法の予習・復習を行う。 ・次の授業までにロールプレイのスクリプトを作り、練習してることが課題になる場合もある。 ・ミニドラマのスクリプト作成や、練習を行う。
--------	--

教科書	『みんなの日本語中級 I』（2008）スリーエーネットワーク 『みんなの日本語中級 I 翻訳・文法解説』（2009）スリーエーネットワーク * 翻訳・文法解説には、英語版、中国語版、韓国語版、フランス語版、ドイツ語版、スペイン語版などがある。
-----	---

参考文献など	なし
--------	----

成績評価の方法・基準	評価方法	割合(%)	評価基準
	筆記試験	30	中間・期末テストの成績により評価する。
	実技評価	15	ロールプレイにより評価する。
	レポート評価	0	なし
	平常点評価	55	毎週行う小テスト（ことば・文法など）、短文作成やスクリプト作成等の課題、クラス活動への参加度により評価する。
その他	0	なし	

履修上の注意	なし
--------	----

連絡先・連絡方法など	東松山国際交流センター事務室へ伝言
------------	-------------------

その他	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内容やスケジュールは、クラスの状況により、変更になる場合があります。 ・このクラスは、予習・復習が大切です。テキストや配付されるプリントを使って、必ず予習・復習を行ってください。 ・課題は、締め切りまでに出してください。
-----	---

集中日本語基礎演習3B2

担当教員	古賀 和恵
曜日・時限・開講期	火曜日 2時限 後期
期間	後期
授業形態	演習
学年	1年生
単位	1
開講キャンパス	東松山

授業の概要	中級レベルのことば・文法・表現を学習し、会話の聞き取りやロールプレイを行う。また、学習したものを使ってミニドラマを制作し、ゲストを招いて発表会を行う。
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・中級レベルのことば・文法・表現を理解し、人間関係や状況を考えて、日常生活の中で使うことができるようになる。 ・日常生活における様々な交渉場面における会話のストラテジーを身につけ、問題解決ができるようになる。 ・クラスメートと協力しながら、共通の目標（ミニドラマの上演）を実現させる。
授業の形態	講義と発表を組み合わせで行う。表現練習やロールプレイは、ペアまたはグループで行う。また、ミニドラマの活動は、人数によってはグループに分かれて進める。

	回数	授業内容	担当教員
	授業 計画	第1回	第1課 頼みにくい依頼をする：ことば・文法・表現
第2回		第2課 わからないことばの意味を聞いて、どうすればいいかを確認する：ことば・文法・表現	古賀和恵
第3回		第3課 事情を説明して丁寧に謝る／丁寧に変更をお願いする：ことば・文法・表現	古賀和恵
第4回		第4課 伝言を頼む・受ける／留守番電話に伝言を残す：ことば・文法・表現	古賀和恵
第5回		第5課 行き方を尋ねる・教える／道順を尋ねる・教える：ことば・文法・表現	古賀和恵
第6回		中間テスト（記述） 第6課 許可を得たいと申し出る／交渉して許可を得る：ことば・文法・表現	古賀和恵
第7回		第7課 誘いを受ける／断る：ことば・文法・表現	古賀和恵
第8回		第8課 人や物の様子を詳しく説明する：ことば・文法・表現	古賀和恵
第9回		第9課 買いたい物についての希望や条件を伝える／違いを比較し、買いたい物を選ぶ：ことば・文法・表現	古賀和恵
第10回		第10課 誤解を解く：ことば・文法・表現	古賀和恵
第11回		第11課 提案をする／提案を受け入れる：ことば・文法・表現	古賀和恵
第12回		期末テスト（記述）	古賀和恵
第13回		ミニドラマ準備：ストーリー・スクリプトを考える	古賀和恵
第14回		ミニドラマ準備：スクリプト完成、ゲストを誘う、発表練習	古賀和恵
第15回		ミニドラマ：リハーサル、発表会 まとめと振り返り	古賀和恵

授業外の学習	<ul style="list-style-type: none"> ・ことばや文法の予習・復習を行う。 ・次の授業までにロールプレイのスクリプトを作り、練習してることが課題になる場合もある。 ・ミニドラマのスクリプト作成や、練習を行う。
教科書	『みんなの日本語中級 I』（2008）スリーエーネットワーク 『みんなの日本語中級 I 翻訳・文法解説』（2009）スリーエーネットワーク * 翻訳・文法解説には、英語版、中国語版、韓国語版、フランス語版、ドイツ語版、スペイン語版などがある。
参考文献など	なし

成績評価の方法・基準	評価方法	割合(%)	評価基準
	筆記試験	30	中間・期末テストの成績により評価する。
	実技評価	15	ロールプレイにより評価する。
	レポート評価	0	なし
	平常点評価	55	毎週行う小テスト（ことば・文法など）、短文作成やスクリプト作成等の課題、クラス活動への参加度により評価する。
その他	0	なし	

履修上の注意	なし
連絡先・連絡方法など	東松山国際交流センター事務室へ伝言
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内容やスケジュールは、クラスの状況により、変更になる場合があります。 ・このクラスは、予習・復習が大切です。テキストや配付されるプリントを使って、必ず予習・復習を行ってください。 ・課題は、締め切りまでに出してください。

担当教員	西尾 広美
曜日・時限・開講期	水曜日 1時限 後期
期間	後期
授業形態	演習
学年	1年生
単位	1
開講キャンパス	東松山

授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> 与えられたテーマや自分が発見したテーマについて、まとめた内容を話すことができる能力を身につける。 興味をもったことについて調べたり資料を集めたりし、グループや個人で発表し、それについて積極的にお互いの意見を述べる。 生活の中で感じたり、体験した「クール ジャパン！」を発見し、それについてポスターを作成し、発表する。 発表のふりかえりを通し、発表についての自分の課題点を見つける。
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 発表するテーマに合わせて情報を収集し、発表の組み立てを考えることができる。 発表の組み立てを考え、ポスターの作成し、聞き手を意識したポスター発表ができる。 発表を聞いて、自分の意見を述べるができる。 活動後の振り返りを通して、課題点に気づき、今後にいかすことができる。 異文化理解を促す。
授業の形態	<ul style="list-style-type: none"> 講義、ペアワーク、グループ学習、ディスカッション、発表など。 収集整理した情報を構成を考え、ポスターなどを作成し、発表する。

	回数	授業内容	担当教員
授業計画	第1回	・ガイダンス ・自己紹介（なにをどのように話すか）	西尾広美
	第2回	・スピーチの流れと表現スタイルを学ぶ① （意見を言おう！）「割り勘」	西尾広美
	第3回	・スピーチの流れと表現スタイルを学ぶ② （詳しく説明しよう！）「私の宝物」	西尾広美
	第4回	・スピーチの流れと表現スタイルを学ぶ③ （順序を考えて話す）「私の旅行プラン」 （資料を調べ、内容を組み立てよう）	西尾広美
	第5回	・スピーチ大会「私の失敗談」中間評価	西尾広美
	第6回	・ディスカッション①（自由討議型）	西尾広美
	第7回	・ディスカッション発展（グループワーク） みんなでポスター作り・発表 （自己評価・他己評価）	西尾広美
	第8回	・ディスカッション②（二者択一型） 自己評価・他己評価	西尾広美
	第9回	・ディスカッション③（問題解決型） 自己評価・他己評価	西尾広美
	第10回	・自分の「クールジャパン！」を発見しよう！ ・「クールジャパン」のテーマを決める ・ポスターの作り方を学ぶ	西尾広美
	第11回	・ポスターのアウトライン考える ・ポスター作成	西尾広美
	第12回	・ポスター作成 ・発表のレジュメの作成・口頭練習	西尾広美
	第13回	・今年の漢字・来年の漢字 発表	西尾広美
	第14回	・ポスター発表（自己評価・他己評価）	西尾広美
	第15回	・ふりかえり まとめ	西尾広美

授業外の学習	<ul style="list-style-type: none"> 課題が出されたら、特にペアやグループで協働する場合は、早めに取り組み、準備すること。 発表のテーマや事柄について、日頃から新聞やニュースで話題になったものに関心をもつこと。 授業で学んだことを通じて異文化理解に興味関心をもち、生活の中で活かすこと。
--------	--

教科書	なし。
参考文献など	新聞・雑誌・DVD・Webなど、生教材を使用する。

成績評価の方法・基準	評価方法	割合(%)	評価基準
	筆記試験	0	特になし。
	実技評価	30	発表の内容・自己評価と他己評価などを合わせ、総合的に評価します。
	レポート評価	20	課題などは、必ず提出してください。
	平常点評価	50	出席は3分の2以上が必要 ふりかえりシート 授業への積極的な参加度（意見など） ふりかえりシート
その他	0	特になし。	

履修上の注意	グループワークが多いため、欠席するときは必ず連絡してください。 病欠は医師の証明書（レシートも可）が必要です（証明書がない場合は欠席となります）。
--------	--

連絡先・連絡方法など	事前に申し出るか、国際交流センター（東松山）へ伝言
------------	---------------------------

その他	<ul style="list-style-type: none"> 授業の内容や予定は変更する場合があります。 ※日本語で考え、日本語を「使って」自分の意見を発表し、コミュニケーションしましょう。
-----	---

集中日本語基礎演習 3 B 4

担当教員	西尾 広美
曜日・時限・開講期	水曜日 2時限 後期
期間	後期
授業形態	演習
学年	1年生
単位	1
開講キャンパス	東松山

授業の概要	基本漢字NO. 251 - 500の語をテキストにそって把握練習し、その応用として新聞記事を読む。
授業の到達目標	基本漢字を覚えて新聞が読める。
授業の形態	板書やパワーポイントなどで導入する。演習をする。

授業 計画	回数	授業内容	担当教員
	第1回	・ガイダンス レベルチェック ・自己紹介	西尾広美
	第2回	・練習①	西尾広美
	第3回	・まとめ① ・新聞 1	西尾広美
	第4回	・練習②	西尾広美
	第5回	・まとめ② ・新聞 2	西尾広美
	第6回	・練習③	西尾広美
	第7回	・まとめ③ ・新聞 3	西尾広美
	第8回	・総まとめ I	西尾広美
	第9回	・練習④	西尾広美
	第10回	・まとめ④ ・新聞 4	西尾広美
	第11回	・練習⑤	西尾広美
	第12回	・まとめ⑤ ・新聞 5	西尾広美
	第13回	・練習⑥	西尾広美
	第14回	・まとめ⑥ ・新聞 6	西尾広美
第15回	・総まとめ II ・ふりかえり	西尾広美	

授業外の学習	事前にテキストを確認し、単語リストにある単語の意味や使い方を調べる。
教科書	基本的には『basic漢字Ⅱ』を使って行う。終わった場合は、『intermediate kanji book』を行う。 * 場合により、変更する場合がある。

参考文献など	なし。
--------	-----

成績評 価の方 法・基準	評価方法	割合(%)	評価基準
	筆記試験	40	授業活動範囲
	実技評価	0	なし
	レポート評価	0	なし
	平常点評価	50	積極的参加度、など
その他	10	毎回のまとめ、など	

履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・各自の学習活動（漢字の読みだけ、漢字の読みと書き）を決め、積極的に取り組むこと。 ・何度も復習すること。 ・漢字の使い方もいっしょに覚えること。
--------	---

連絡先・連絡方法など	事前に連絡するか、東松山国際交流センターへの伝言。
------------	---------------------------

その他	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の内容や予定は、変更する場合がある。 ・レベルの確認をする。
-----	--

集中日本語基礎演習 3 B 5

担当教員	正宗 鈴香
曜日・時限・開講期	木曜日 1時限 後期
期間	後期
授業形態	演習
学年	1年生
単位	1
開講キャンパス	東松山

授業の概要	ある程度まとまった論理的な文章（中級 I）を読み、語彙や文法表現を確認し、内容を理解し、まとめる。
授業の到達目標	1. 書かれている文を正確に理解する。 2. 論理的な読み方やまとめ方ができる。
授業の形態	演習やグループ作業を通して、テキストの正確な把握やまとめを行う。また、お互いの意見や考えの意見交換を行う。

授業 計画	回数	授業内容	担当教員
	第1回	授業オリエンテーション、第1課「畳」ものの歴史と良さについてどこに書いてあるか探して読む	正宗鈴香
	第2回	第2課「外来語」：例と意見を探す	正宗鈴香
	第3回	第3課「時間よ、とまれ」：グラフから文章の内容を想像する	正宗鈴香
	第4回	第4課「電話嫌い」：気持ちの変化を考えながら読む	正宗鈴香
	第5回	まとめ① 1～4課	正宗鈴香
	第6回	第5課「地図」：理由を考えながら読む	正宗鈴香
	第7回	第6課「メンタルトレーニング」：「こそあど」を考えながら読む	正宗鈴香
	第8回	第7課「まんじゅう怖い」：誰が話したか確かめながら読む	正宗鈴香
	第9回	第8課「科学者ってどう見える？」：タイトルを読み取る、前後文の関係を読む	正宗鈴香
	第10回	まとめ② 5～8課	正宗鈴香
	第11回	第9課「カラオケ」：事実を正確に読み取る・筆者の意見を読み取る	正宗鈴香
	第12回	第10課「記憶型と注意型」：違いを探しながら読む・結論を読み取る	正宗鈴香
	第13回	第11課「白川郷の黄金伝説」：抽象物から内容を想像する・背景を読み取る	正宗鈴香
	第14回	まとめ③ 9～11課	正宗鈴香
第15回	フィードバック	正宗鈴香	

授業外の学習	1. 予習は、指定された課の単語表の意味確認、文法・句型、表現等の確認を行う。 2. 復習は、指示された宿題、授業で練習した語彙、文章表現を整理しておく。		
教科書	「みんなの日本語中級 I」スリーエネットワーク		
参考文献など	「みんなの日本語中級 I 翻訳・文法解説」スリーエネットワーク		
成績評 価の方 法・基準	評価方法	割合(%)	評価基準
	筆記試験	30	中間テスト、期末テスト
	実技評価	0	実施しない
	レポート評価	0	実施しない
	平常点評価	70	授業への参加度、予習・復習の取り組み、課題の提出
その他	0	実施しない	
履修上の注意	原則として、交換留学生を対象とし、学期はじめのプレースメント試験の結果によって履修者を決めます。		
連絡先・連絡方法など	国際交流センター東松山分室へ伝言してください。		
その他	授業に積極的に参加してください。		

集中日本語基礎演習 3 B 6

担当教員	正宗 鈴香
曜日・時限・開講期	木曜日 2時限 後期
期間	後期
授業形態	演習
学年	1年生
単位	1
開講キャンパス	東松山

授業の概要	ある程度まとまった論理的な文章（中級 I）を読み、協働して内容把握や単語・文法表現運用の練習を行う。また、読んだ内容に対して自分の意見を述べる。
授業の到達目標	1. 論理的な読み方やまとめ方ができる。 2. 読んだ内容に対する自分の考えや意見を説明することができる。
授業の形態	演習やグループ作業を通して、テキストの正確な把握やまとめを行う。また、お互いの意見や考えの交換を行う。

授業 計画	回数	授業内容	担当教員
	第1回	授業オリエンテーシ、第1課：物を良さを示す表現	正宗鈴香
	第2回	第2課：意見表明の表現	正宗鈴香
	第3回	第3課：グラフを読み解く表現	正宗鈴香
	第4回	第4課：気持ちの変化を表す表現	正宗鈴香
	第5回	まとめ① 1～4課	正宗鈴香
	第6回	第5課：理由や根拠を表す表現	正宗鈴香
	第7回	第6課：指示詞の有効な表現	正宗鈴香
	第8回	第7課：隠れた主語を読み解く表現	正宗鈴香
	第9回	第8課：前後文の関係を表す表現	正宗鈴香
	第10回	まとめ② 5～8課	正宗鈴香
	第11回	第9課：事実を正確に読み取る表現	正宗鈴香
	第12回	第10課：結論を読み取る表現	正宗鈴香
	第13回	第11課：抽象的表現	正宗鈴香
	第14回	まとめ③ 9～11課	正宗鈴香
第15回	フィードバック	正宗鈴香	

授業外の学習	1. 予習は、指定された課の単語表の意味確認、文法・句型、表現等の確認を行う。 2. 復習は、指示された宿題、内容に対する自己の考えをまとめる。		
教科書	「みんなの日本語中級 I」スリーエネットワーク		
参考文献など	「みんなの日本語中級 I 翻訳・文法解説」スリーエネットワーク		
成績評 価の方 法・基準	評価方法	割合(%)	評価基準
	筆記試験	30	中間テスト、期末テスト
	実技評価	0	実施しない
	レポート評価	0	実施しない
	平常点評価	70	授業への参加度、予習・復習の取り組み、課題の提出
その他	0	実施しない	
履修上の注意	原則として、交換留学生を対象とし、学期はじめのプレースメント試験の結果によって履修者を決めます。		
連絡先・連絡方法など	国際交流センター東松山分室へ伝言してください。		
その他	授業に積極的に参加してください。		

集中日本語基礎演習 3 B 7

担当教員	大河原 尚
曜日・時限・開講期	金曜日 1時限 後期
期間	後期
授業形態	演習
学年	1年生
単位	1
開講キャンパス	東松山

授業の概要	中級レベルの文法・文型の知識を教科書の内容にもとづき理解・整理する。 初歩的な漢字を含めた書かれた文を読んで理解した上で、既存の言語知識を使って400～800字（A 4で1ページ）程度の文章を作成する練習を行う。
授業の到達目標	中級レベルの文法・文型及び基礎的な語彙を用いて、自分の気持ちや意見を表現し、客観的な状況を説明できる。 文章を構成してまとめた内容が表現できる。
授業の形態	1. 『みんなの日本語中級 1』を用いて、日本語を運用し、中級レベルの語彙、文法・文型、会話表現を定着させる。 2. 日本語を介して日本の文化・習慣について理解を深めるとともに、自国の場合と比較しつつ、クラスメート、教員とともに話し合う。 3. 話し合った内容をもとに、表現したい内容を整理・構成してから、作文する。

授業 計画	回数	授業内容	担当教員
	第1回	イントロダクション 第1課 語彙 文法・練習	大河原尚
	第2回	第1課 語彙 文法・練習	大河原尚
	第3回	第2課 語彙 文法・練習	大河原尚
	第4回	第2課 語彙 文法・練習	大河原尚
	第5回	第3課 語彙 文法・練習	大河原尚
	第6回	第4課 語彙 文法・練習	大河原尚
	第7回	第5課 語彙 文法・練習	大河原尚
	第8回	第6課 語彙 文法・練習	大河原尚
	第9回	第7課 語彙 文法・練習	大河原尚
	第10回	第8課 語彙 文法・練習	大河原尚
	第11回	第9課 語彙 文法・練習	大河原尚
	第12回	第10課 語彙 文法・練習	大河原尚
	第13回	第11課 語彙 文法・練習	大河原尚
	第14回	第12課 語彙 文法・練習	大河原尚
	第15回	まとめ 試験	大河原尚

授業外の学習	授業で取り上げた語彙や漢字、文法・文型の意味や用法を自宅で確認し復習する。
--------	---------------------------------------

教科書	『みんなの日本語中級 1 本冊』 スリーエーネットワーク
-----	------------------------------

参考文献など	『みんなの日本語中級 1 翻訳・文法解説 英語版』スリーエーネットワーク
--------	--------------------------------------

参考文献など	特になし
--------	------

成績評 価の方 法・基準	評価方法	割合(%)	評価基準
	筆記試験	40	中間・期末テストの成績 (尚、試験では総合点だけでなく複数回にわたる伸び率も重視して採点する。)
	実技評価	0	毎回の単語テストの成績
	レポート評価	30	最終レポートとして、日本語作文（テーマは授業中に提示）
	平常点評価 その他	30 0	クラス活動への参加に対する積極性 なし

履修上の注意	原則として交流学生のみを対象とし、学期初めのプレースメント試験の結果によって履修者を定める。
--------	--

連絡先・連絡方法など	国際交流センター（東松山）へ伝言。
------------	-------------------

その他	学生の状況により、授業内容及び教材（教科書を含む）を変更する場合があります。
-----	--

集中日本語基礎演習 3 B 8

担当教員	田仲 正江
曜日・時限・開講期	金曜日 2時限 後期
期間	後期
授業形態	演習
学年	1年生
単位	1
開講キャンパス	東松山

授業の概要	説明文の書き方を確認し、自己紹介・自国紹介・日本での経験などのトピックで作文したり、意見文の書き方を確認し、身近な課題や興味関心がある課題を取り上げ作文をする。 また、比較やデータ、資料などを用いて、或る程度論理だった作文を書く。
授業の到達目標	初中級の文法文型を使って、大学生活で必要なメモや発表原稿、説明文や意見文、ある程度論理的な作文が書けるようになる
授業の形態	作文に必要な文法や表現などを確認し、トピックを決めアウトラインを作成したのち、文章に書く。 トピックのアイデアやアウトライン作成時など、必要に応じてペアワークする。 完成した文章を、発表したり文集を作成したりする。

	回数	授業内容	担当教員
	授業 計画	第1回	自己紹介と質疑応答
第2回		紹介文に必要な要素の確認 自己紹介文作成	田中正江
第3回		自己紹介文完成と発表	田中正江
第4回		自国紹介と質疑応答	田中正江
第5回		自国紹介文完成と発表	田中正江
第6回		日本での経験と質疑応答 (自国との比較→意見)	田中正江
第7回		日本での経験文完成と発表	田中正江
第8回		日本と自国の文化の比較 (インタビュー調査など)	田中正江
第9回		意見文に必要な要素の確認	田中正江
第10回		興味関心と意見の紹介、質疑応答	田中正江
第11回		課題をテーマにした意見文完成 発表	田中正江
第12回		論理的な文章の書き方の確認	田中正江
第13回		自己テーマとアウトラインの決定 (文集成成への作業)	田中正江
第14回		自己テーマの論述文作成	田中正江
第15回		文集成成の作業と完成	田中正江

授業外の学習	初中級の文法や表現の確認と、作文の下書き作業を行う。		
教科書	なし		
参考文献など	なし		
成績評価の方法・基準	評価方法	割合(%)	評価基準
	筆記試験	0	なし
	実技評価	0	なし
	レポート評価	40	完成した作文
	平常点評価	40	授業参加度や課題の進捗状況
	その他	20	発表
履修上の注意	なし		
連絡先・連絡方法など	授業の前後に質問を受け付ける。東松山国際交流センターへ伝言		
その他	なし		